

プログラマブルターミナル
NSシリーズ^h

CX-Designer

導入ガイド



● お願い

各製品は一般仕様の範囲内でお使いください。

次に示すような条件や環境で使用する場合は、定格・機能に対して余裕を持った使い方やフェールセーフなどの安全対策へのご配慮を頂くと共に、弊社営業担当までご相談を頂きますようお願いいたします。

- ・ 各製品のマニュアルに記載のない条件や環境での使用
- ・ 原子力制御・鉄道施設・航空施設・車両・燃料装置・医療機器・娯楽機械・安全機器などへの使用
- ・ 人命や財産に大きな影響が予測され、特に安全性が要求される用途への使用

本ガイドは、プログラマブルターミナルNS-V1・NS-V2シリーズを使用するための基本的な手順を記載しています。

なお、本ガイドに記載されている画面イメージがお持ちのCX-Designerのバージョンで表示されるものとは一部異なる場合があります。

お使いになる前に、本ガイドと各製品のマニュアルをよく読んで十分に理解してください。

また、お読みになった後もマニュアル類は大切に保管して、いつも手元においてお使いください。

● 海外でのご使用について

本製品のうち、外国為替及び外国貿易管理法に定める戦略物資(または役務)に該当するものを輸出する場合は同法に基づく輸出許可(または役務取引許可)が必要です。

目次

第1章 全体の操作の流れ

全体の操作の流れ	2
----------------	---

第2章 CX-Designer編

1. 準備・設定	4
2. CX-Designerの起動	10
3. プロジェクトの新規作成	11
4. プロジェクトのプロパティの設定	12
5. 通信設定	14
6. システム設定	15
7. プロジェクトの保存	17
8. 画面のプロパティ	18
9. ラベルの表示	19
10. ON/OFFボタン	22
11. 繰り返し機能	24
11-1 繰り返し機能(ボタン)	24
11-2 繰り返し機能(ラベル)	26
12. ビットランプ	30
13. 画面追加	35
14. フレーム	37
15. 数値表示&入力	46
16. ワードボタン	48
17. アラーム/イベント表示	50
18. アラーム/イベントサマリ・履歴部品	55
19. 画面のポップアップ	56
20. シート	63
21. ワードボタン・コマンドボタン	
21-1. 銘板切り換えボタン	64
21-2. 画面切り換えボタン	66
22. 英語版の作成	
22-1. 英語版の銘板の作成	71
22-2. 英語版のアラーム/イベント設定	78
23. 便利機能	
23-1. 検索(通信アドレス)	81
23-2. 検索(銘板)	83
23-3. 部品選択機能	84
23-4. 画面流用(複製)機能	85
24. テスト機能	87

第3章 プロジェクトの転送

1. シリアル(RS232C)でのプロジェクトの転送	92
2. メモリーカードを使用したプロジェクトの転送	95

第1章 全体操作の流れ

GX-Designer

全体の操作の流れ

CX - Designer

パソコンへのインストール



CX-Designerの立上げ

画面の作成

プロジェクトの
プロパティの設定

プロジェクトのタイトル、
切り替え銘板の設定。

通信設定

NS本体とPLCを接続するための
NS本体の通信設定

システム設定

PT状態制御 / 通知エリアの
割り付け通信ポートの確認など

画面データ作成

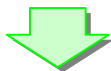
ランプ・タッチスイッチ・
数値表示・グラフ等の作成

テスト/エラーチェック

CX-Designerによる
エラーチェック



NS本体への画面転送



運転の開始



保守と点検

NS8-V1本体

操作盤パネルへの取り付け



NSシリーズセットアップ
マニュアルを参照下さい。

電源/通信ケーブルの接続

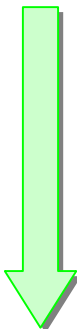


NSシリーズセットアップ
マニュアルを参照下さい。

電源ON



システムメニューの設定



ホスト側(PLC)

通信ポートの設定

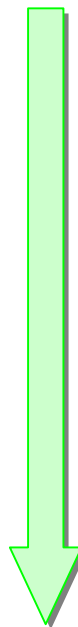


NSシリーズセットアップ
マニュアルを参照下さい。

ラダープログラムの作成



電源ON



第2章 CX-Designer編

※CX-Designerのバージョンが異なる場合、画面イメージが多少異なる場合があります。

※使用される本体によっては、一部の設定項目での設定が異なる場合があります。

本ガイドでは、NS8-V1の画面作成を例に説明しています。

1. 準備・設定

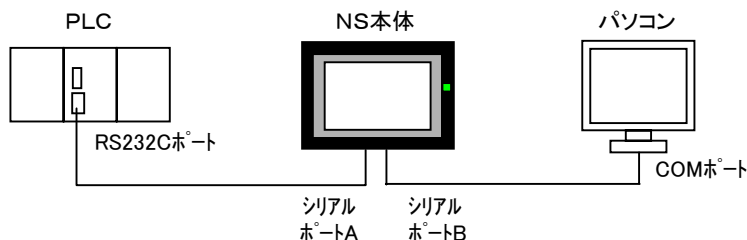
はじめに

本ガイドでは、CX-Designerの機能を説明するために、実際にサンプル画面を作成しながら操作方法や機能を紹介します。

必要な機材

項目	形式
・CX-Designer	: 形NS-CXDC1-V□
・NS本体	: 形NS8-TV1□(B)-V1
・PLC	: CSシリーズ、CJシリーズ
・NS本体-パソコン シリアル通信ケーブル	: 形XW2Z-S002
・NS本体-PLC シリアル通信ケーブル	: 形XW2Z-200T
・パソコン	: CX-Designerが動作するWindowsパソコン

接続と通信設定



- NS本体
- ・シリアルポートA NTリンク(1:N)、号機番号0、通信速度(高速)
 - ・シリアルポートB 特に設定不要

PLC

- ・上位リンクポート 通信速度: 高速NTリンク、通信モード: NTリンク(1:N)、NTリンク最大号機No.: 1

割 付

本ガイドで作成する、サンプル画面では以下のPLCアドレスを使用します。

割付アドレス	内容
00000.00	電源1運転中／停止中
00000.01	電源2運転中／停止中
00000.02	電源3運転中／停止中
00000.03	電源4運転中／停止中
00000.04	電源5運転中／停止中

割付アドレス	内容
DM100	現在値

割付アドレス	内容
00001.00	アラーム1発生／復旧
00001.01	アラーム2発生／復旧
00001.02	アラーム3発生／復旧
00001.03	アラーム4発生／復旧
00001.04	アラーム5発生／復旧
00001.05	アラーム6発生／復旧
00002.00	アラーム7発生／復旧
00002.01	アラーム8発生／復旧
00002.02	アラーム9発生／復旧
00002.03	アラーム10発生／復旧
00002.04	アラーム11発生／復旧
00002.05	アラーム12発生／復旧

サンプル画面

CX-Designerを使って以下の5つの画面を作成します。
また、「銘板切換」機能を使って、日英2カ国語対応の画面とします。

画面1

ここでは、ON/OFFボタンによってPLCの特定のビットをON/OFFさせる画面を作成します。PLCのビットの状態に連動して点灯・消灯するランプ(ビットランプ)も配置して、ビットの状態を分かりやすく表示させます。
この画面は機械の操作タッチパネルをイメージしたものです。



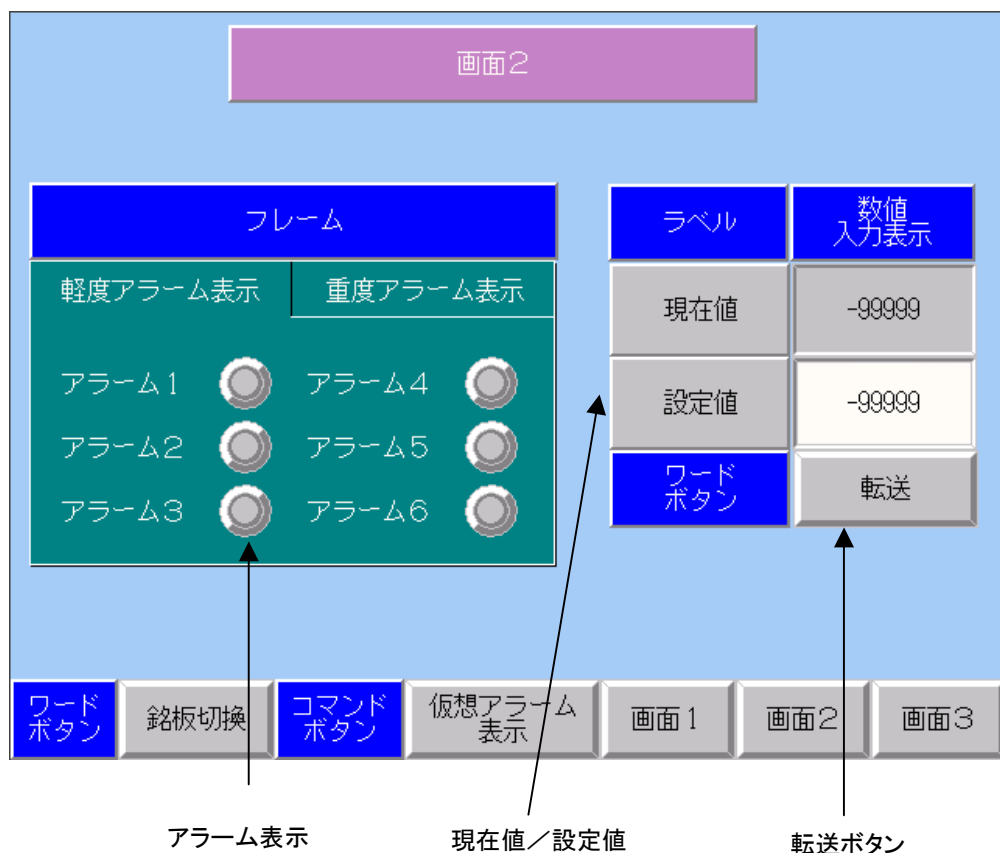
運転／停止ボタン

動作状態表示

1. 運転／停止ボタン
ボタンを押すごとにON/OFFの状態を切り換えます。
2. 動作状態表示
運転／停止ボタンのON/OFFに連動して、「運転中／停止中」のランプが点灯／消灯します。

画面2

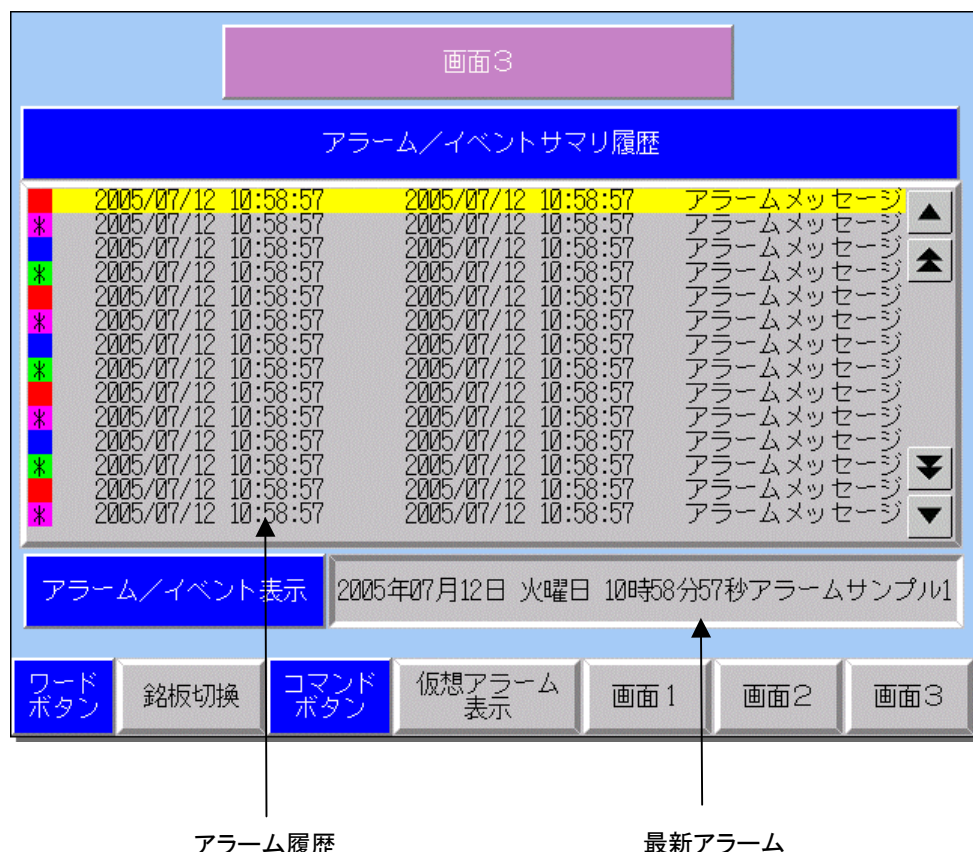
画面2では、複数の小さい画面をタブで切り替えて表示できる「フレーム」機能とPLCのメモリへ値を書き込む機能の2つを使った画面を作成します。



1. アラーム表示
フレーム機能によりタブを押して、軽度アラーム表示と重度アラーム表示を切り換えられます。
それぞれのアラームランプは4ページの表のとおり、PLCのビットに割り付けられています。
2. 現在値
任意のアドレスの値を表示する部品を使って、PLCのメモリの内容を現在値として表示させます。
3. 設定値／転送ボタン
数値表値入力部品を使って、ユーザから数値を入力してもらうことができます。
今回は、ユーザからの入力をNSの内部メモリに保持し、転送ボタンをおすと、保持している値をPLCのメモリへ転送する画面を作成します。

画面3

NSには、特定のビットのON/OFFを、アラーム履歴として表示できる機能があります。画面3では、この機能を使います。今回は後述するポップアップ画面で仮想的にアラームを発生させ、その履歴を表示させます。



1. アラーム履歴
ポップアップ画面で発生・解除させた仮想アラームの履歴を表示します。
2. 最新アラーム
ポップアップ画面で発生させた最新の仮想アラームを表示します。

シート1

シートとは、多くの画面で共通に表示される部品を配置した画面です。
シートには、日英の言語を切替えるための「銘板切換」機能、アラームを仮想的に発生させるための画面（後述）を表示させる機能、画面を切替える機能を持たせます。

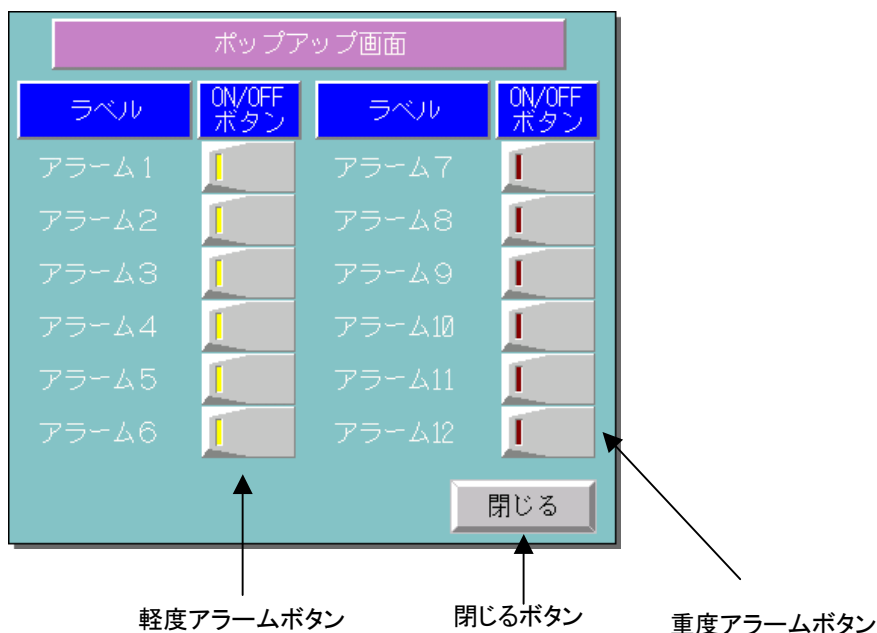


1. 銘板切換ボタン
ボタンを押すと、ポップアップメニューを表示して銘板を日本語←→英語へ切り換えます。
2. 仮想アラーム表示ボタン
ボタンを押すと、仮想アラーム表示ボタンを配置したポップアップ画面（後述）を表示します。
3. 画面切換ボタン
ボタンを押すと、ボタンに表示されている画面に表示が切り替わります。

ポップアップ画面

ポップアップ画面とは、他の画面を表示中に、必要に応じて表示することのできる小さな画面です。

今回作成するポップアップ画面では、PLCの割付アドレス00001.00～00001.05、00002.00～00002.05をON/OFFし、仮想アラームを発生/復旧させます。



1. 軽度アラームボタン
ボタンを押すことで、ON/OFF(発生/復旧)を切り換えます。
2. 重度アラームボタン
ボタンを押すことで、ON/OFF(発生/復旧)を切り換えます。
3. 閉じるボタン
ポップアップ画面を閉じます。

CX-D
の起動

プロジェクトの
新規作成

プロジェクト
のプロパティ

システム
設定

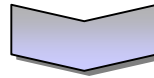
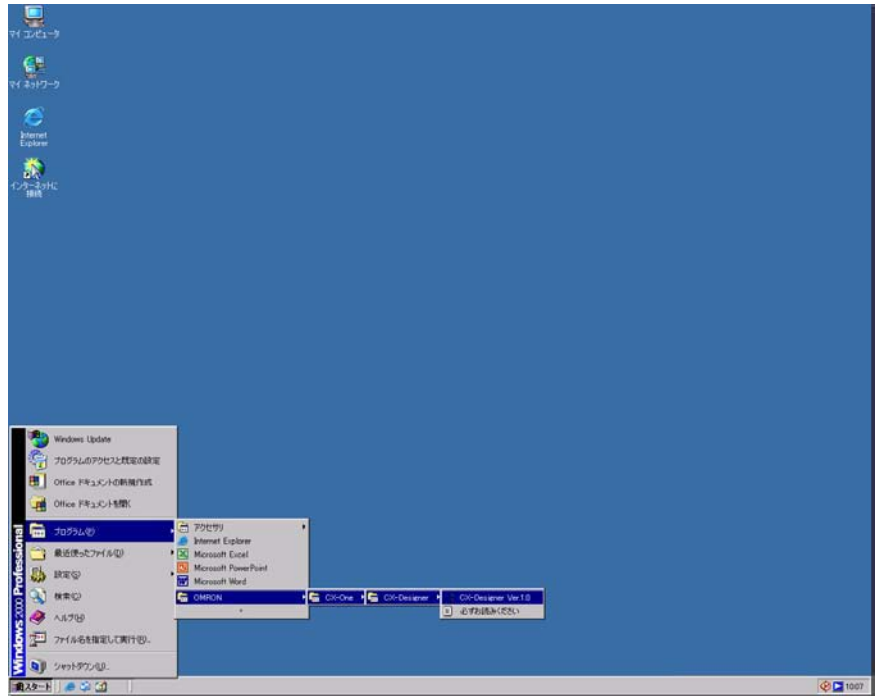
画面作成

エラー
チェック

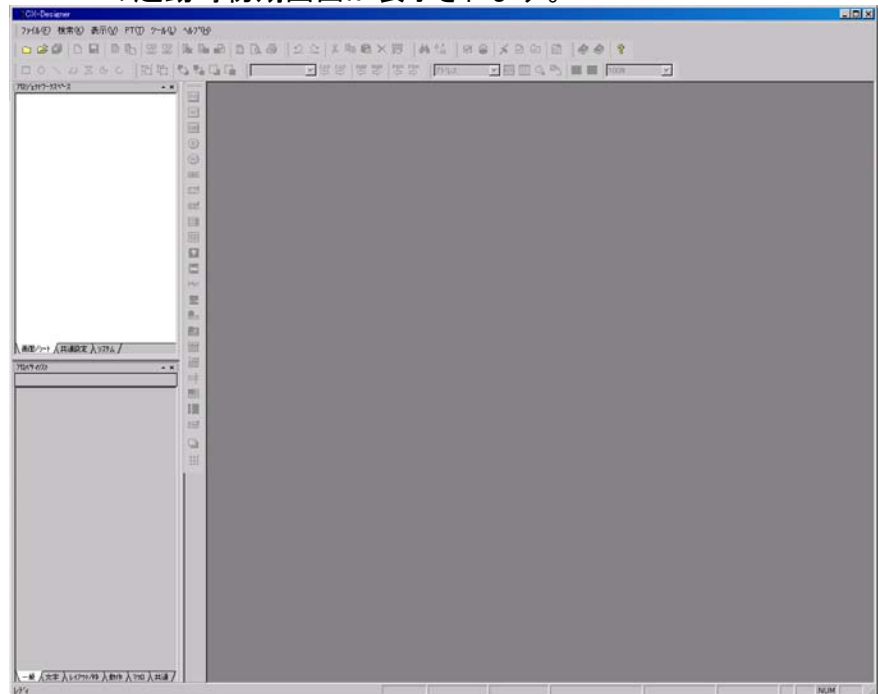
画面転送
本体設定

2. CX-D Designerの起動

[スタート]ボタンから
右図のように
[プログラム]→[OMRON]
→[CX-One]
→[CX-D Designer]
→[CX-D Designer Ver.xx]
と選択します。
(ここでは、CX-D Designer
Ver1.0を使用しています)

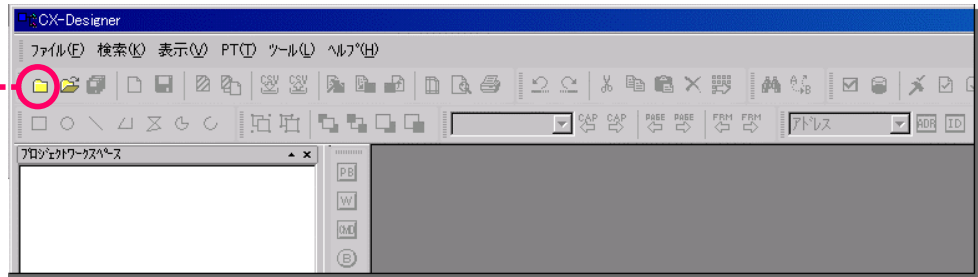


CX-D の起動時初期画面が表示されます。

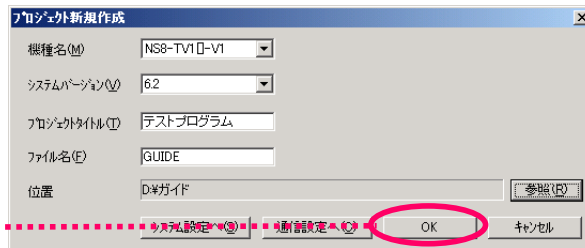


3. プロジェクトの新規作成

CX-Dよりプロジェクトの新規作成ボタンをクリックします。



マウスで左クリックします。



※ ファイル名を指定する場合以下の点に注意してください。

- ・ファイル名は拡張子(.IPP)を含めて42文字以内とする。
- ・半角英数字、アンダースコア(_)、ドルマーク(\$)を使用する。

なお、ファイル名の欄に上記以外の文字は入力できないようになっています。

【機種名】

→NS8-TV1□-V1

システムバージョン

→System Ver6.2(※下注)

に設定します。

プロジェクトタイトル

→任意のタイトルを入力します。

ここでは「テストプログラム」にします。

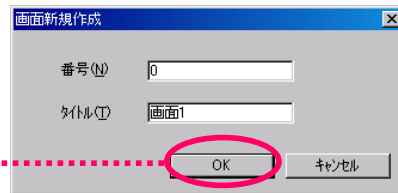
ファイル名

→任意のファイル名を入力します。

ここでは「GUIDE」にします。

位置

→[参照]をクリックして、ファイルの保存場所を指定します。
ここでは一例として「D:\ガイド」に保存します。



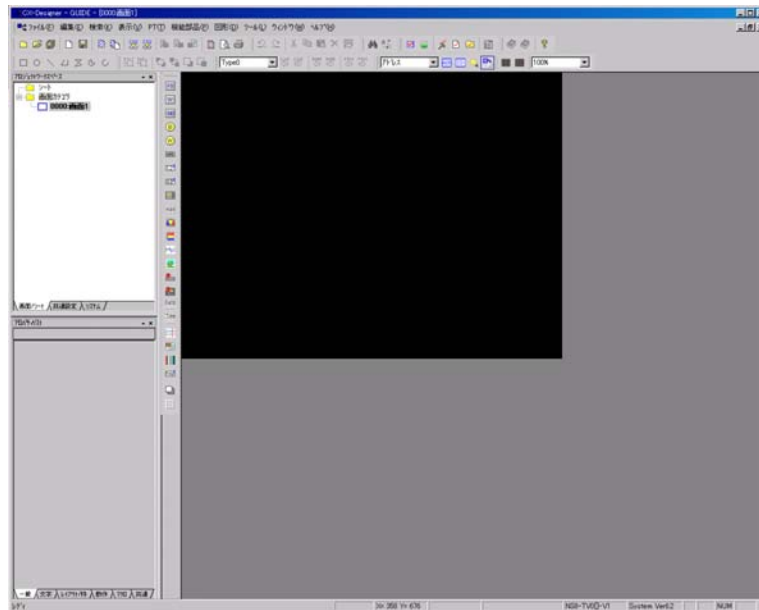
OKをクリックします。

任意のタイトルを入力します。
ここでは「画面1」とします。



OKをクリックします。

CX-Dの作画準備が整いました。



※ここでは、[システムバージョン]をSystem Ver6.2としています。
ご使用のシステムプログラムのバージョンに合わせてください。

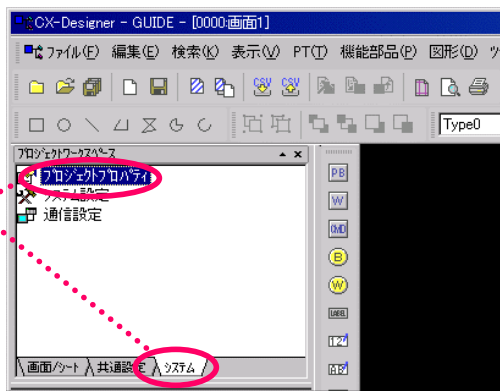
4. プロジェクトのプロパティの設定

ここで行うこと

プロジェクトデータ全体の設定を行います。
本ガイドでは、日本語と英語の2カ国語を切り換えて表示できるようにします。
そのための銘板切り換え機能 の設定をします。

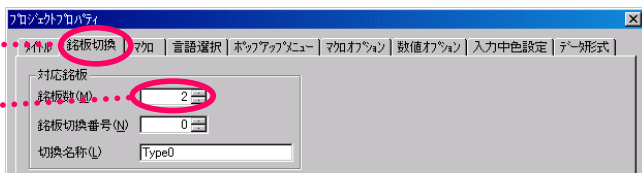
プロジェクトワークスペースの
[システム]のタブをクリックします。

[プロジェクトプロパティ]を
ダブルクリックします。

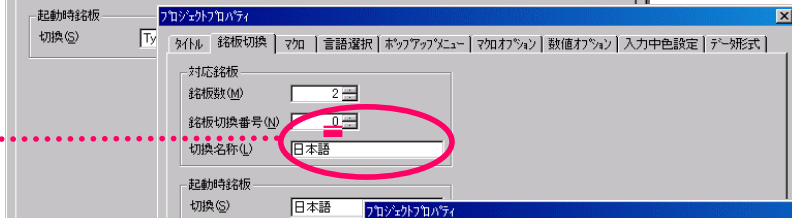


銘板切り換えタブを
クリックします。

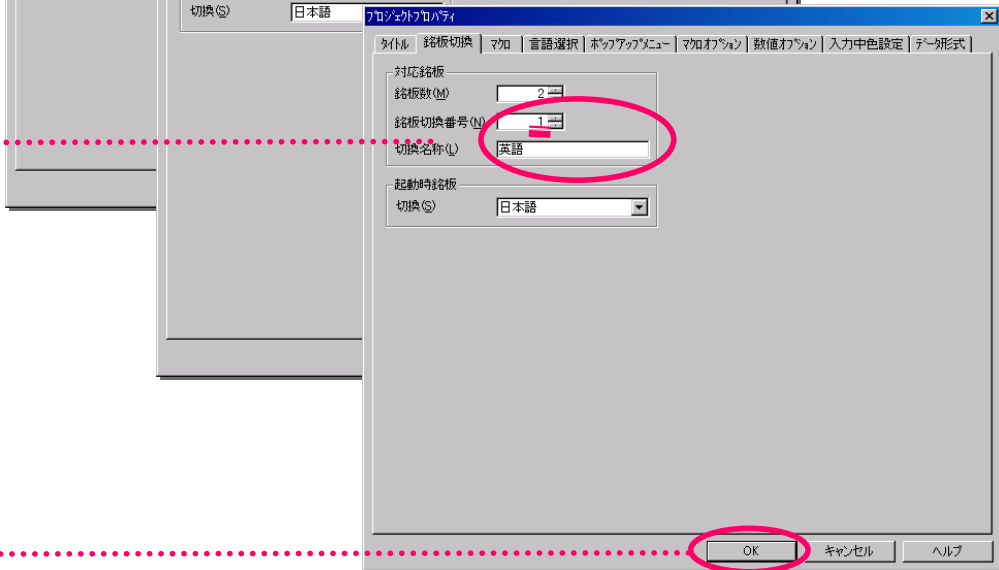
銘板数を2に設定します。



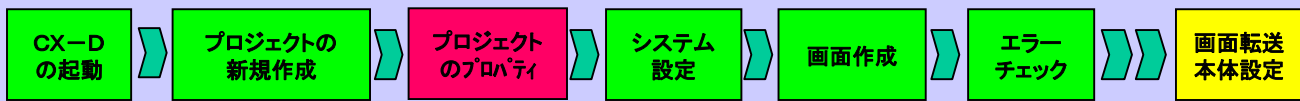
銘板切換番号を0に
設定して、銘板名称に
「日本語」と入力します。



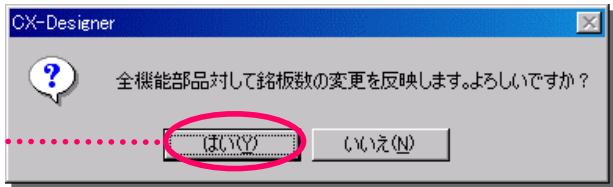
銘板切換番号を1に
設定して、銘板名称に
「英語」と入力します。



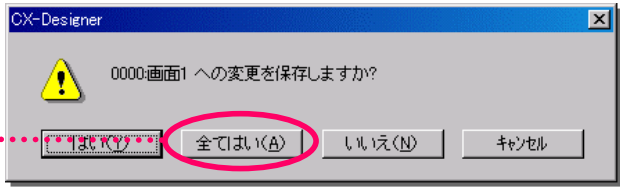
OKをクリックします。



[はい(Y)]をクリックします。



[全てはい(A)]をクリックします。



CX-D
の起動

プロジェクトの
新規作成

プロジェクト
のプロパティ

システム
設定

画面作成

エラー
チェック

画面転送
本体設定

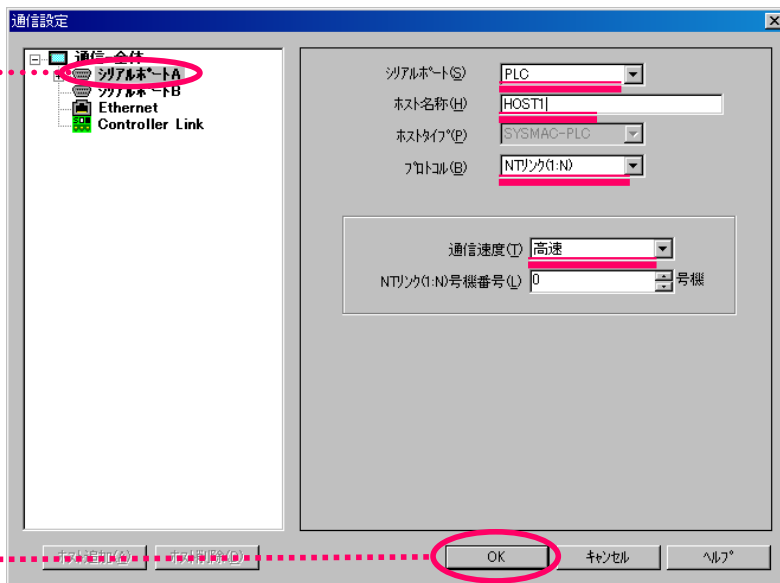
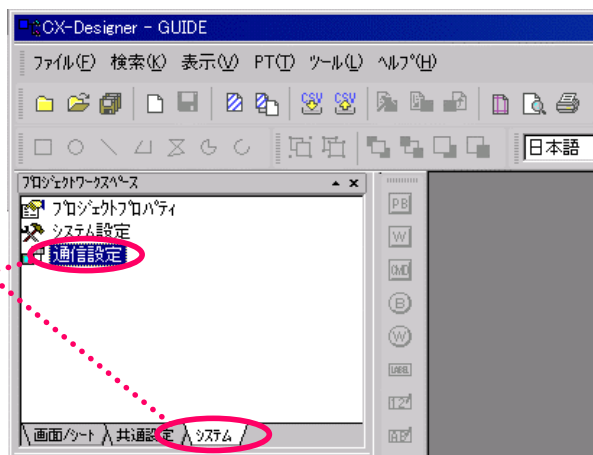
5. 通信設定

ここで行うこと

NS本体とPLCを接続するため、NS本体の通信設定を行います。
本ガイドでは、NS本体シリアルポートAを使って、PLCと接続しますので、
シリアルポートAの設定を行います。

プロジェクトワークスペースの
[システム]タブをクリックします。

[通信設定]を
ダブルクリックします。



シリアルポート(S)
→ [PLC]を設定します。

ホスト名称(H)
→ 「HOST1」を入力します。

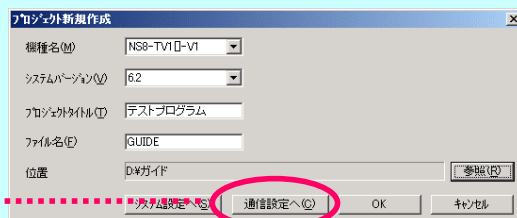
プロトコル(B)
→ [NTリンク(1:N)]
転送速度(T)
→ [高速]を設定します。

[通信=全体]、[Ethernet]、
[Controller Link]
の設定は不要です。

《Note》

プロジェクト新規作成時に通信設定を
行うこともできます。
「3. プロジェクトの新規作成」のプロジェクト
新規作成ダイアログで
[通信設定へ(C)]をクリックします。

通信設定へ(C)



CX-D
の起動

プロジェクトの
新規作成

プロジェクト
のプロパティ

システム
設定

画面作成

エラー
チェック

画面転送
本体設定

6. システム設定

ここで行うこと

NS本体のシステムメモリエリアを割り付けます。
システムメモリとは、NSをホスト(PLC)から制御したり、動作状態をNSからホストへ
通知したりするためのメモリエリアです。
本ガイドでは、システムメモリをPLCに割り付けます。

プロジェクトワークスペースの
[システム]タブをクリックします。

[システム設定]を
ダブルクリックします。

画面番号制御CHの
PLCへの割り付け

[イニシャル]タブを
クリックします。

設定(1)

設定(1)をクリックします。

ホスト(H)
→[HOST1]

チャネル番号(M)
→「0」

エリア(A)
→[データメモリ(DM)]

同様の手順で、\$SWの
割付アドレスの設定もします。

設定(2)

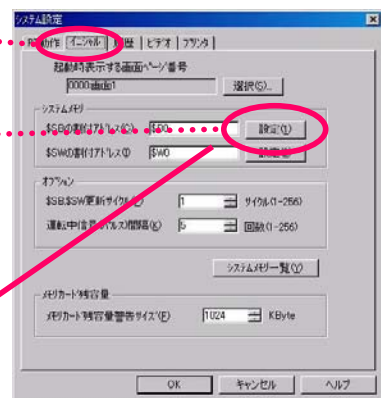
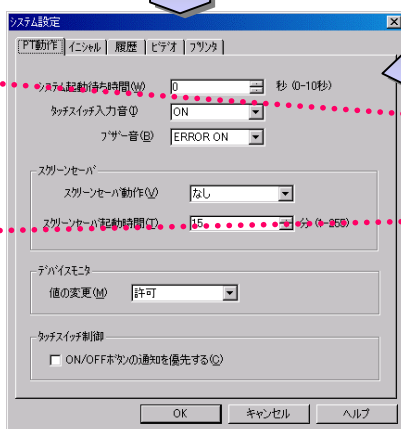
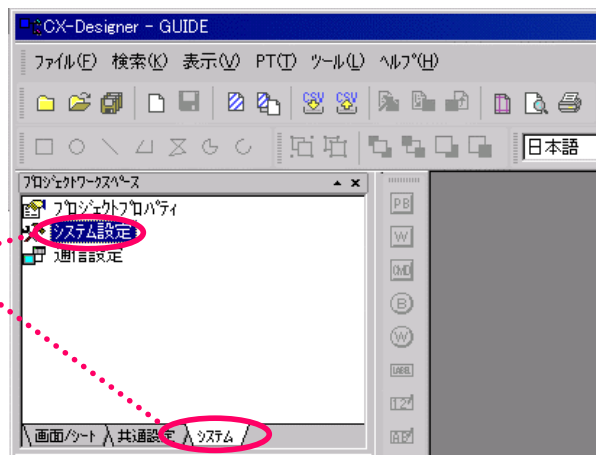
設定(2)をクリックします。

ホスト(H)
→[HOST1]

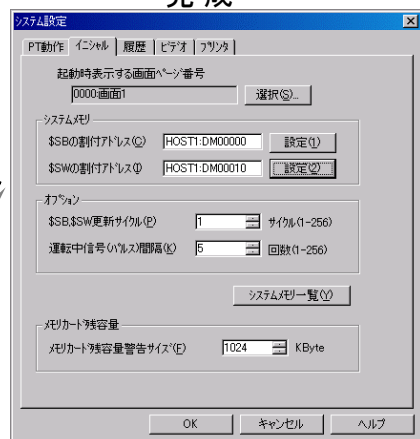
チャネル番号(M)
→「10」

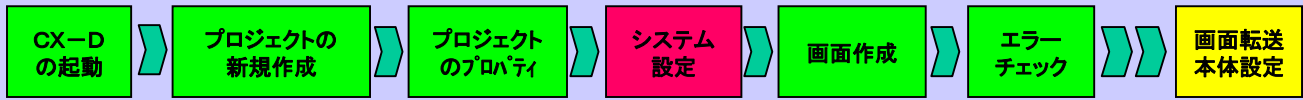
エリア(A)
→[データメモリ(DM)]

この設定により DM0010CH
の現在値がPTIに表示する画面
番号となります。



完成





《Note》

プロジェクト新規作成時にシステム設定を行うこともできます。
「3. プロジェクトの新規作成」のプロジェクト新規作成ダイアログで
[システム設定へ(S)]をクリックします。

システム設定へ(S)

プロジェクト新規作成

機種名(M)	NS8-TV10-V1
システムバージョン(V)	6.2
プロジェクトタイトル(T)	テストプログラム
ファイル名(F)	GUIDE
位置	D:\ガイド

参照(R) システム設定へ(S) 通信設定へ(C) OK キャンセル

CX-D
の起動

プロジェクトの
新規作成

プロジェクト
のプロパティ

システム
設定

画面作成

エラー
チェック

画面転送
本体設定

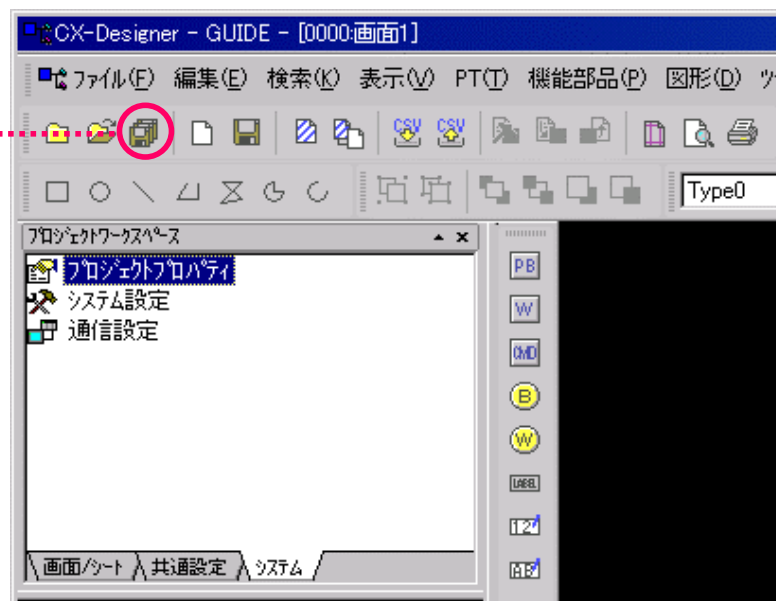
7. プロジェクトの保存

ここで行うこと

プロジェクトデータ全体を保存します。

本ガイドでは、プロジェクトのシステム設定及び画面／シートを一括で全保存します。

マウスで左クリックします。



《Note》

画面作成中はプロジェクトや画面の保存を、こまめに行われることをお奨めします。

8. 画面プロパティ

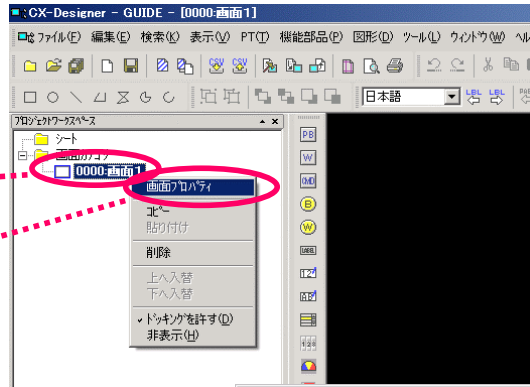
ここで行うこと

各々の画面ごとに設定する項目の設定を行います。
本ガイドでは、背景色を変更します。

プロジェクトワークスペースの[画面/シート]タブをクリックします。

プロジェクトワークスペースの[0000:画面1]を右クリックしてメニュー表示します。

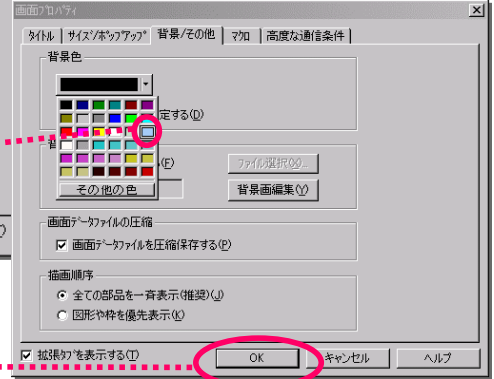
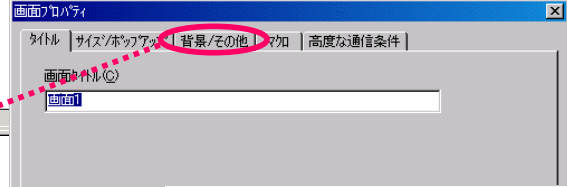
表示されたメニューから[画面プロパティ]をクリックします。



画面プロパティダイアログが表示されます。

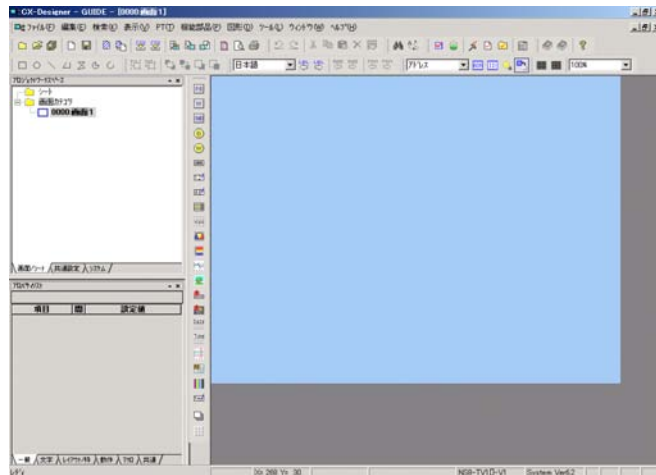
[背景/その他]タブをクリックします。

背景色  をクリックして表示されている色選択ダイアログから背景色を選択します。



OKをクリックします。

完成イメージ



CX-CD
の起動

プロジェクトの
新規作成

プロジェクト
のプロパティ

システム
設定

画面作成

エラー
チェック

画面転送
本体設定

9. ラベルの表示

ここで行うこと

画面上にラベル部品を作成します。

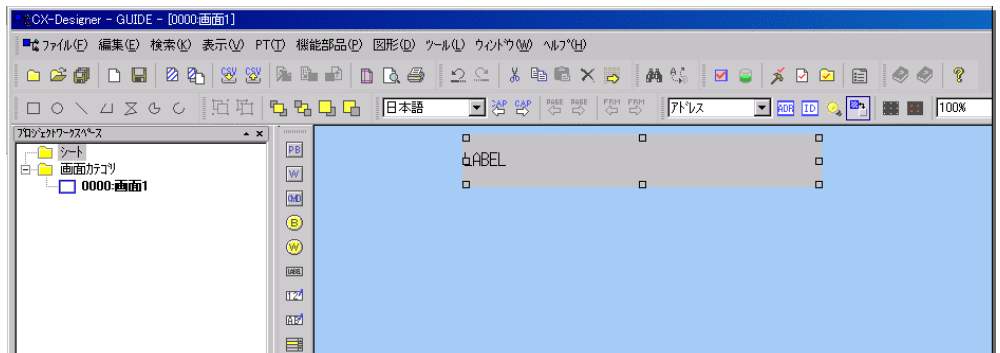
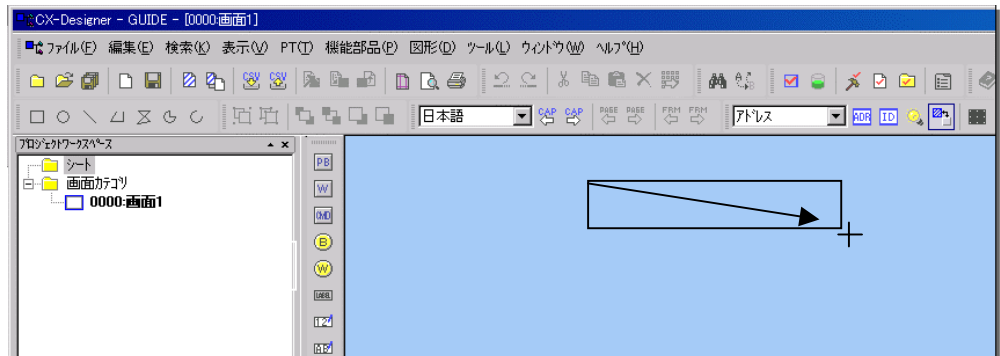
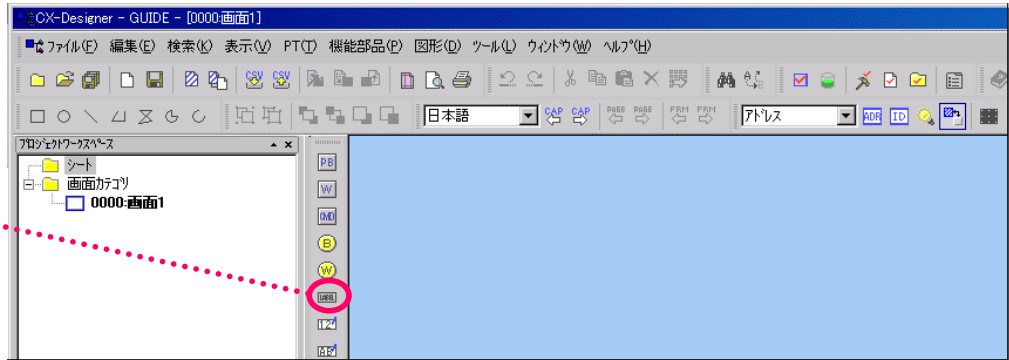
ラベル部品とは、固定文字列を表示するための機能部品です。

本ガイドでは、画面タイトルや項目名称など、特に機能の必要ない文字列を表示するために使用します。

機能部品一覧から



アイコンをクリックします。



右図のように、新規ラベル部品が作成されます。

```

graph LR
    A[CX-Dの起動] --> B[プロジェクトの新規作成]
    B --> C[プロジェクトのプロパティ]
    C --> D[システム設定]
    D --> E[画面作成]
    E --> F[エラーチェック]
    F --> G[画面転送本体設定]
    style E fill:#ff0000
  
```



プロジェクトの 新規作成



プロジェクト のプロパティ



システム 設定



画面作成



エラー チェック

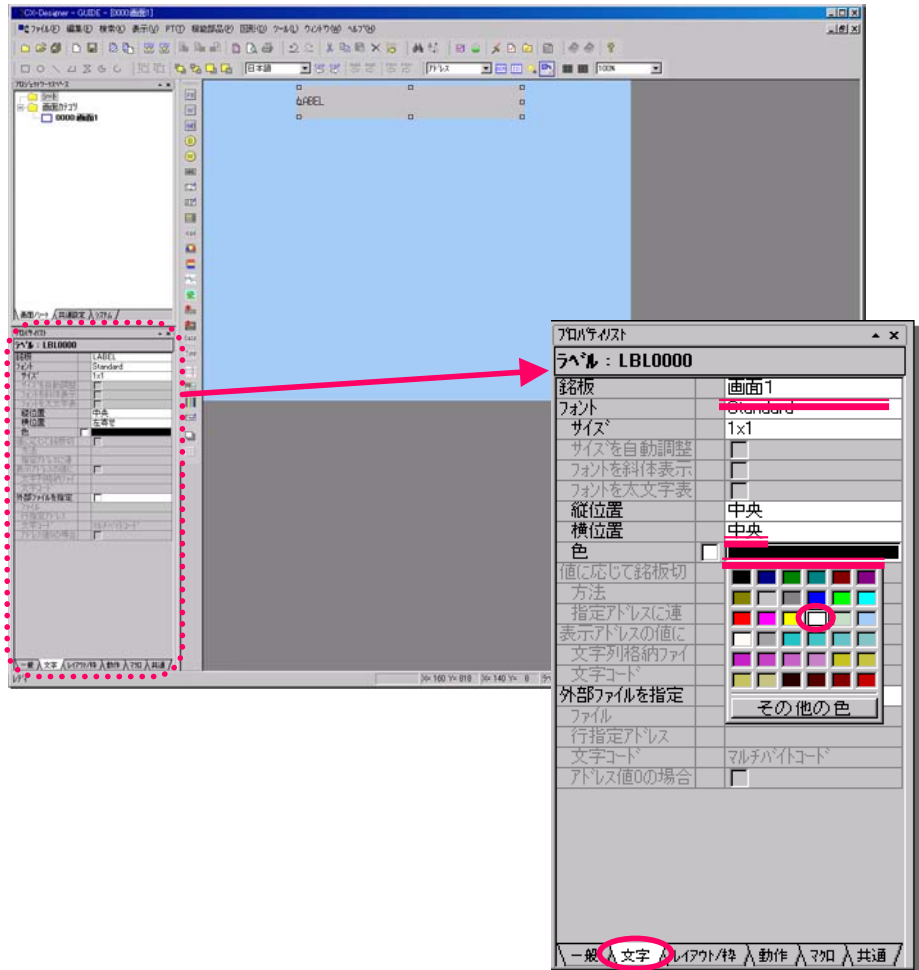
画面転送
本体設定

ラベル部品をクリックすると
ラベル部品のプロパティリスト
が表示されます。

プロパティリストをクリックして
以下の項目を設定します。

文字列
[銘版]
→「画面1」
[縦位置]
→「中央」
[横位置]
→「中央」

色を選択します。



CX-D
の起動

プロジェクトの
新規作成

プロジェクト
のプロパティ

システム
設定

画面作成

エラー
チェック

画面転送
本体設定

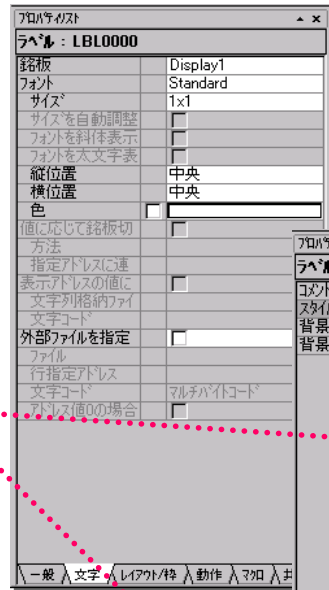


をクリックし、銘版を
[英語]に切替えます。



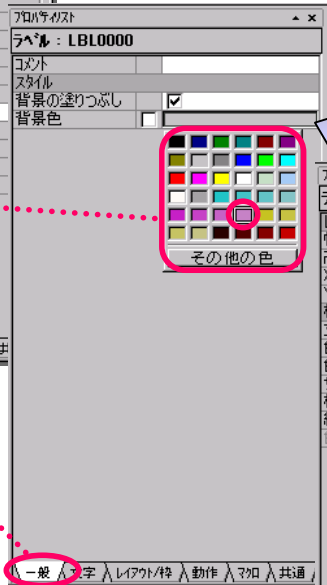
プロパティリストで以下の
項目を設定します。

文字タブ
[銘版]
→「Display1」
[横位置]
→「中央」



プロパティリストの[一般]タブを
クリックします。

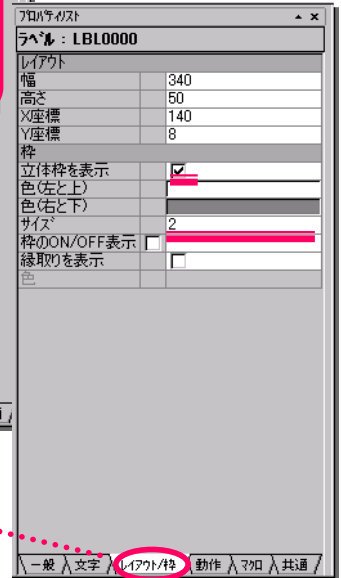
[背景色]をクリックし色を選択
します。



プロパティリストの[レイアウト/枠]
タブをクリックします。

[立体的枠を表示]に ☒ チェック
します。

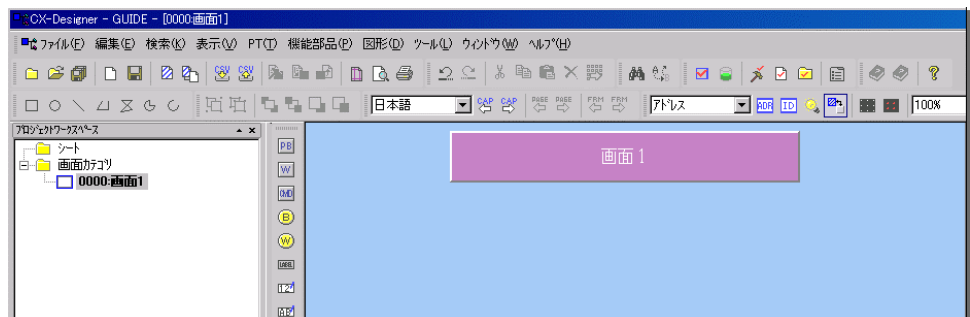
[サイズ]を「2」にします。



完成イメージ



をクリックし、銘版を[日本語]
に切り換えます。



10. ON/OFFボタン

ここで行うこと

画面上にON/OFFボタンを作成します。

ON/OFFボタンとは、タッチスイッチ入力などの操作で指定の通信アドレス(接点)をON/OFFする機能部品です。

本ガイドでは、運転/停止ボタン、仮想アラームの発生/復旧ボタンで使用します。

「9. ラベルの表示」を参考にしてラベル部品を作成します。

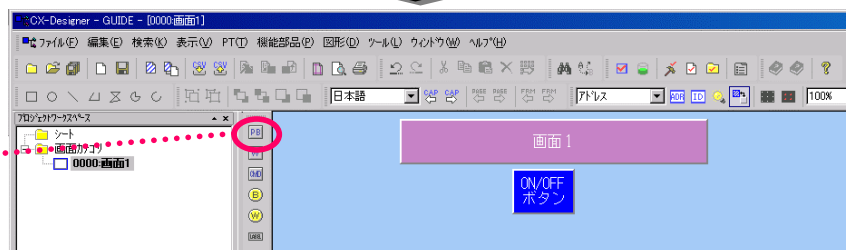
[銘板]
→ON/OFFボタン



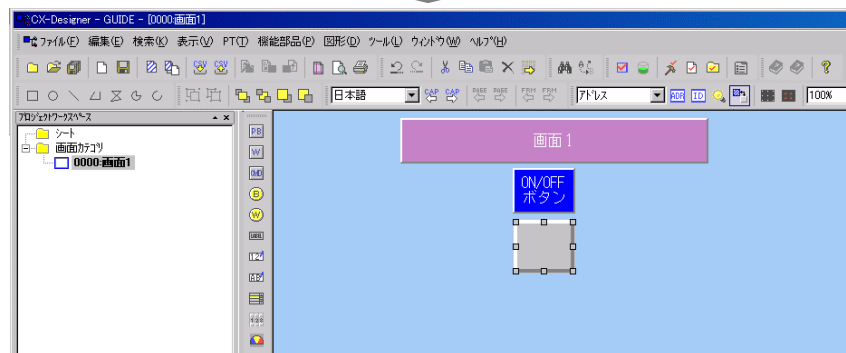
機能部品一覧より



をクリックします。



「9. ラベルの表示」でラベル入力を行ったときと同様に適当な大きさにドラッグして大きさを決めます。



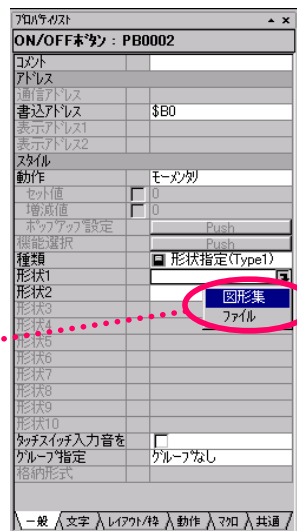
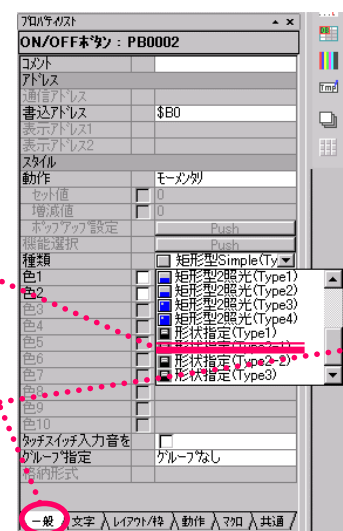
プロパティリストから変更をします。

[一般]タブをクリックします。

[種類]をクリックし「形状指定 (Type1)」を選択します。

「形状1」をクリックし、をクリックします。

「図形集」を選択します。



CX-D
の起動

プロジェクトの
新規作成

プロジェクト
のプロパティ

システム
設定

画面作成

エラー
チェック

画面転送
本体設定

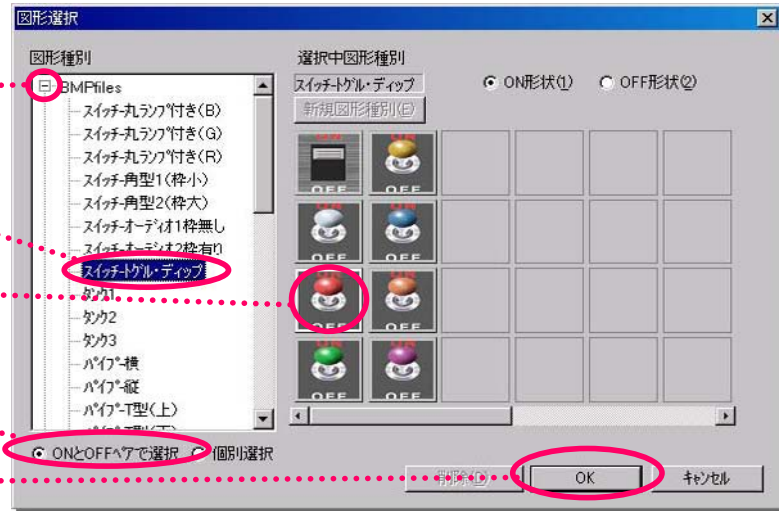
⊕ をクリックします。

[BMPfiles]のプルダウンメニュー
を表示します。

[スイッチトグル・ディップ]
をクリックします。

図形をクリックします。

[ONとOFFペアで選択]を●チェック
します。

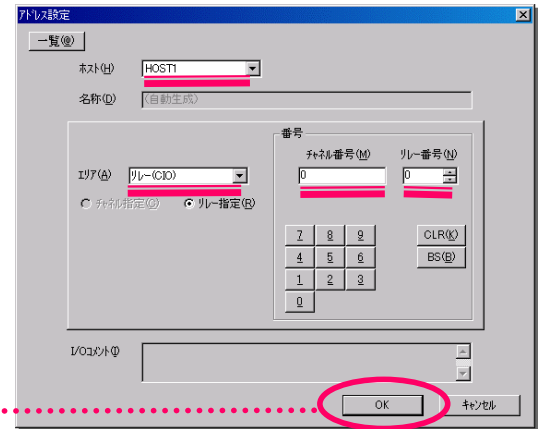


OKをクリックします。



ON/OFFボタンのプロパティリストから
[動作]をクリックし、[オルタネート]
を選択します。

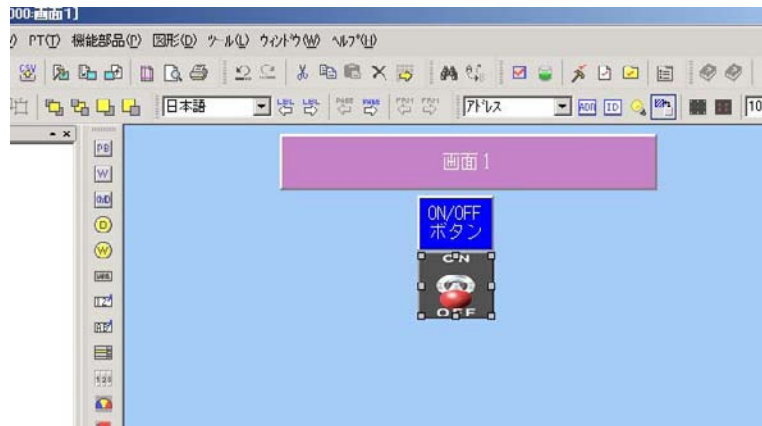
[書込アドレス]をクリックします。
↓
をクリックします。



ホスト(H)
→[HOST1]
エリア(A)
→[リレー (CIO)]
チャンネル番号(M)
→[0]
リレー番号(N)
→[0]
に設定します。

OKをクリックします。

完成イメージ



11. 繰り返し機能

11-1. 繰り返し機能 (ボタン)

ここで行うこと

[繰り返し]機能を使用して、作成した部品の複数コピーすることができます。
本ガイドでは、ON/OFFボタンを繰り返し機能を使用してコピーします。

作成したボタンの上で
マウスを右クリックします。

ポップアップメニューから
[繰り返し(R)]を選択
します。

[個数]

横(H)→「1」 縦(V)→「5」

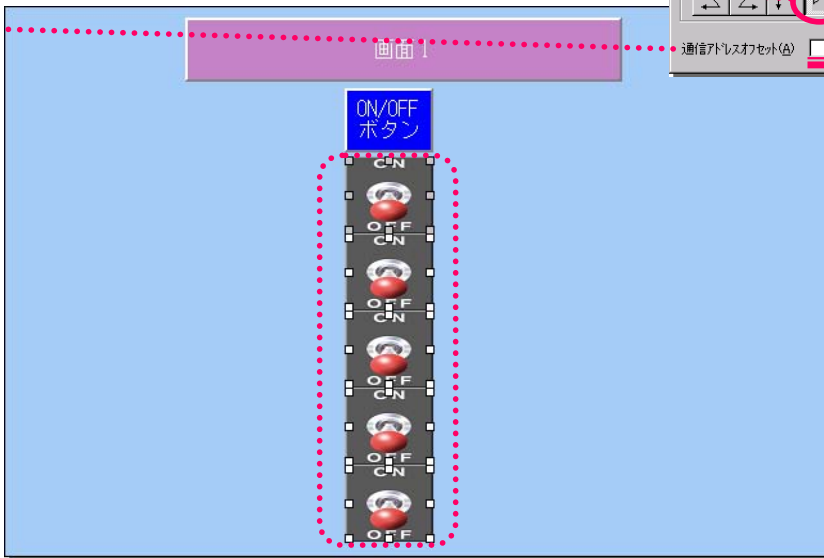
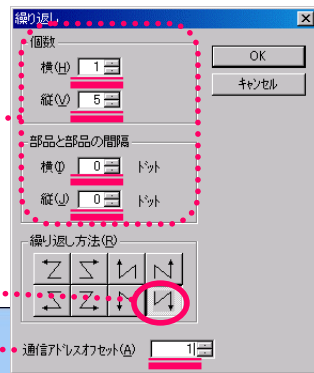
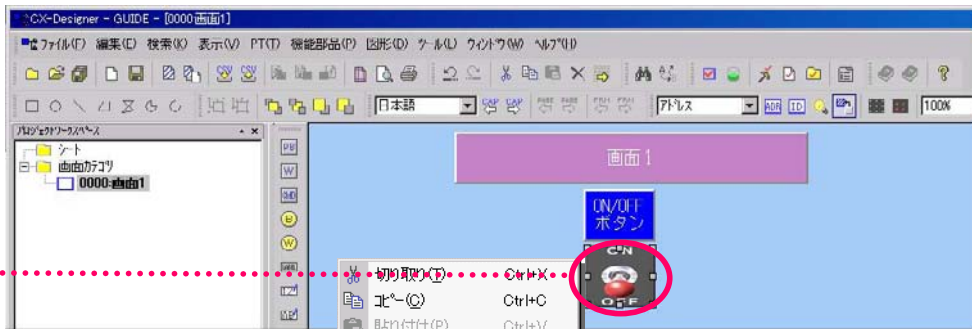
[部品と部品の間隔]

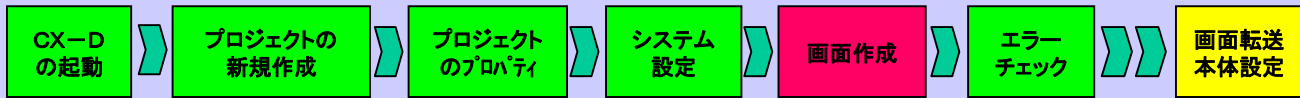
横(H)→「0」 縦(V)→「0」

[繰り返し方法(R)]

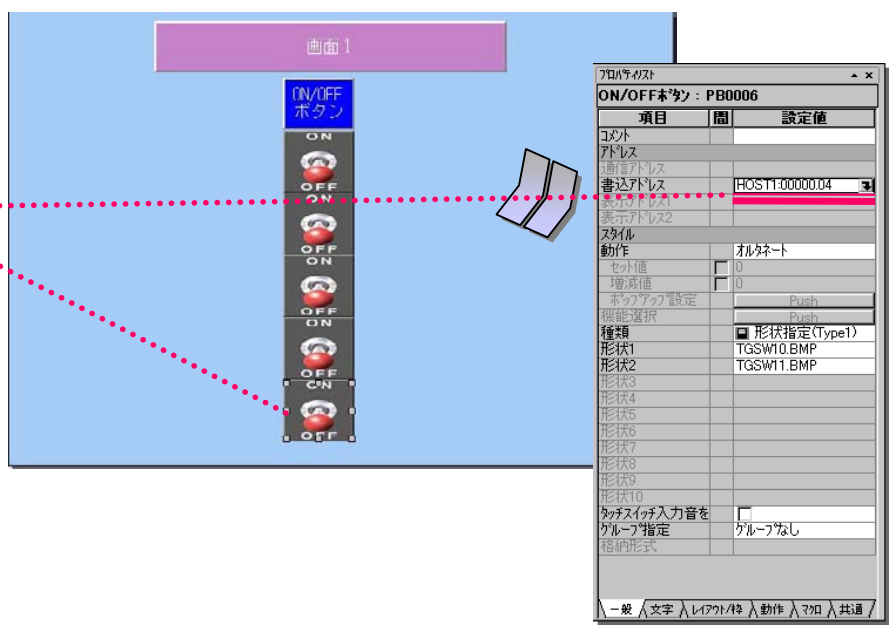
[通信アドレスオフセット(A)]→「1」

に設定します。



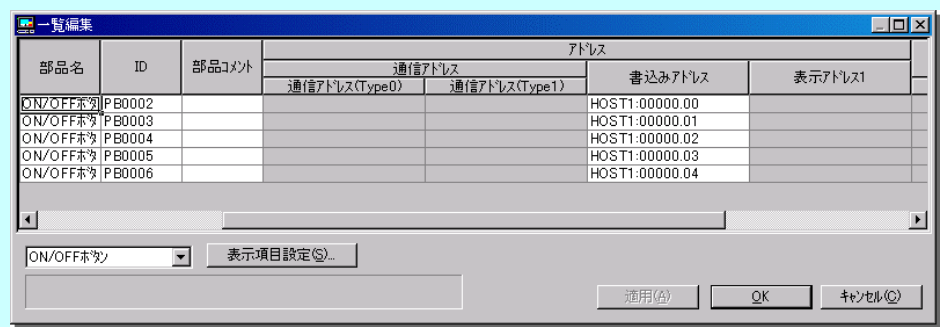


各機能部品(スイッチ)は
[プロパティリスト]で割り付けられた
アドレスを確認することができます。



《Note》

一覧編集でON/OFFボタンだけの表示を選択すると割り付けたアドレスの一覧を表示・編集することができます。
一覧編集の方法は、「11-2. 繰り返し機能(ラベル)」を参照下さい。



CX-D
の起動

プロジェクトの
新規作成

プロジェクト
のプロパティ

システム
設定

画面作成

エラー
チェック

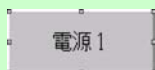
画面転送
本体設定

11-2.繰り返し機能 (ラベル)

「9. ラベルの表示」を参考
にして、右図の様に、
ラベルを2つ追加します。

上段のラベル
[銘板]
→「ラベル」

下段のラベル
[銘板]
→「電源1」

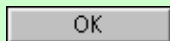


の上で、マウスを右クリック
ブルダウメニューから
[繰り返し(R)]をクリックします。



[個数]を
横「1」、縦「5」
に設定します。

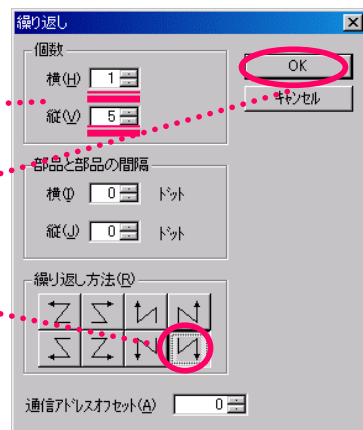
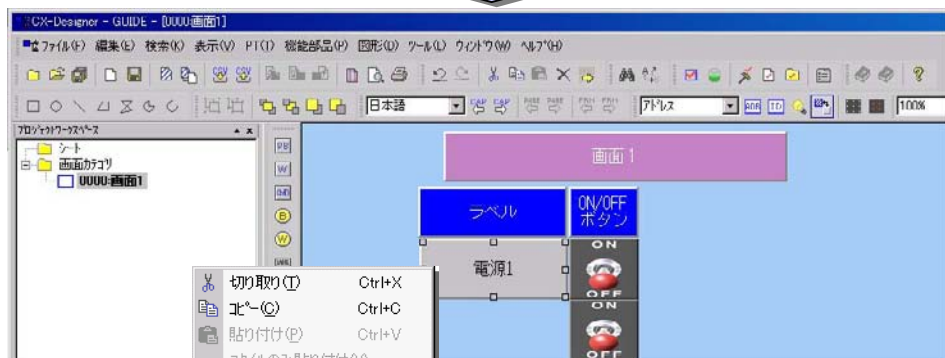
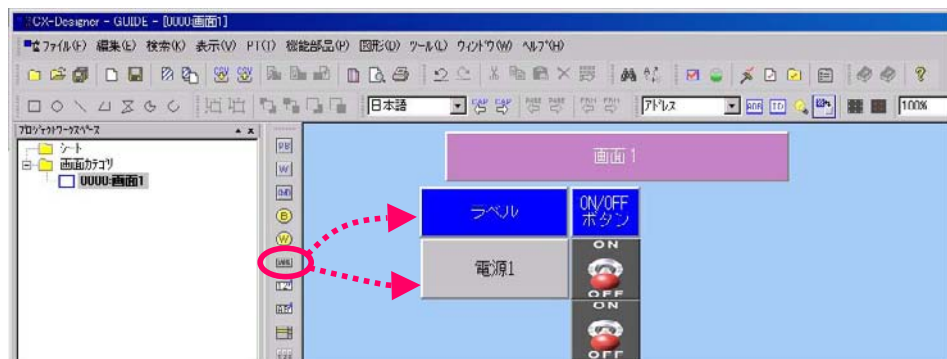
[繰り返し方法(R)]を選択します。

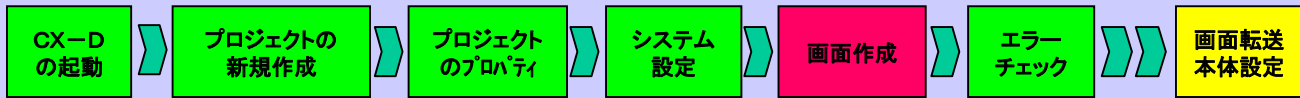


OKをクリックします。

ここで行うこと

[繰り返し]機能を使用して、作成した部品を複数コピーすることができます。
本ガイドでは、ラベル部品を繰り返し機能を使用してコピーします。





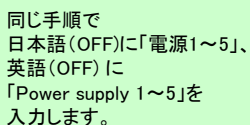
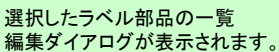
電源1
が5つコピーされました。

マウスを左クリックしながら
コピーしたラベル全体を
囲みます。

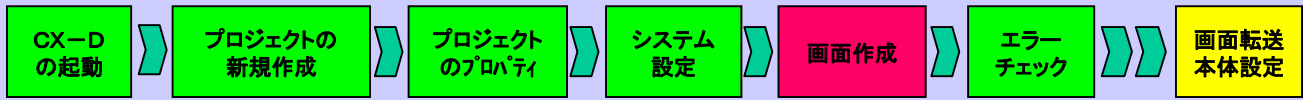


その状態でマウスを右
クリックして、プルダウンメニュー
を表示させ[一覧編集(M)]を
クリックします。





OKをクリックします。



ラベルの表示が変わります。

12. ビットランプ

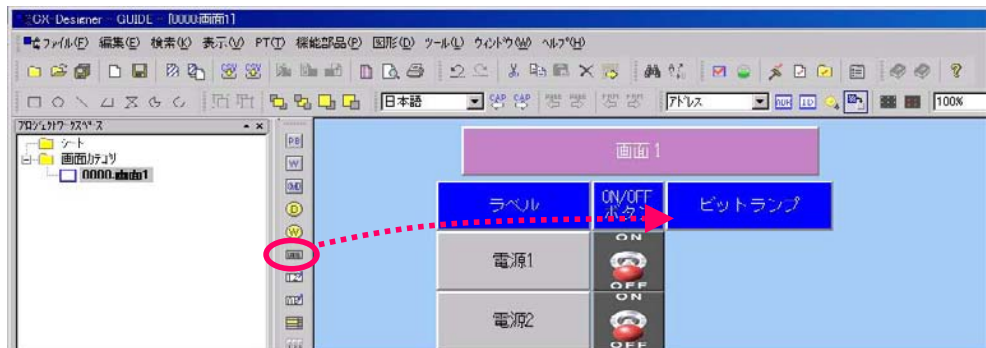
ここでやること

画面上にビットランプを作成します。

ビットランプとは、指定通信アドレスのON/OFFに応じてランプ表示色を切り換える機能部品です。
本ガイドでは、ON/OFFボタンの状況に連動したビットランプを作成します。

「9. ラベルの表示」を参考
にして、右図の様に、
ラベルを作成します。

〔銘板〕
→「ビットランプ」

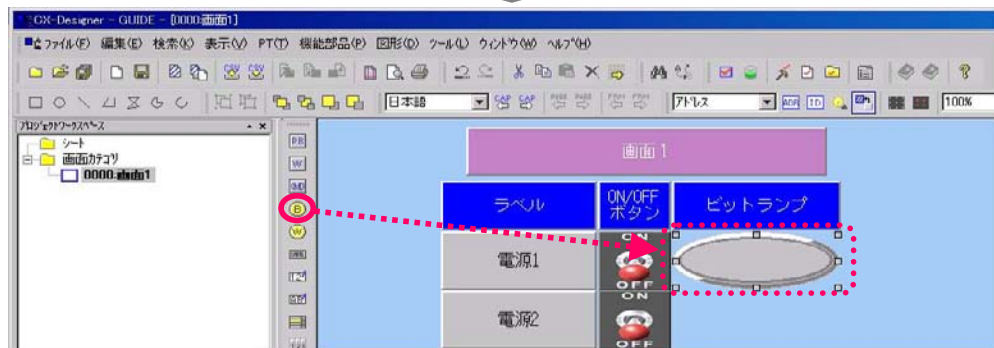


機能部品一覧より



をクリックします。

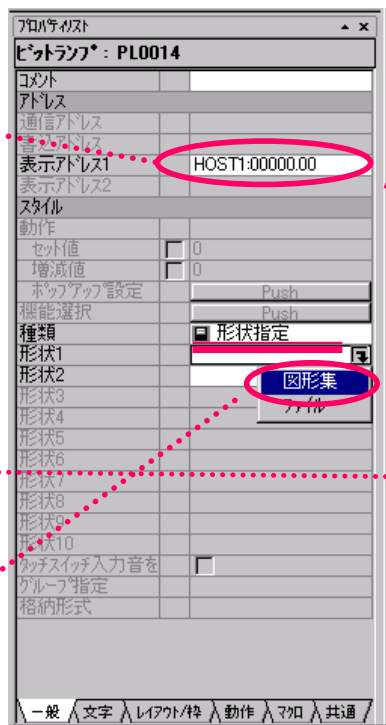
適当な大きさにドラッグして
部品の大きさを決めます。



プロパティリストから変更します。

〔表示アドレス1〕をクリックします。
↓をクリックします。

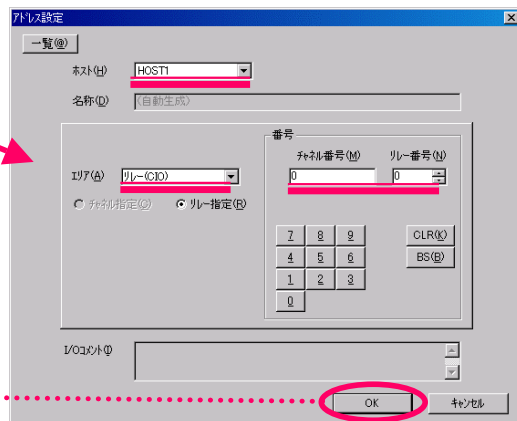
ホスト(H)
→[HOST1]
エリア(A)
→[リレー(GIO)]
チャンネル番号(M)
→[0]
リレー番号(N)
→[0]

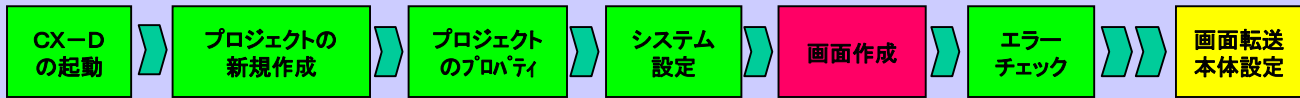


OK

OKをクリックします。

〔種類〕から「形状指定」
をクリックします。



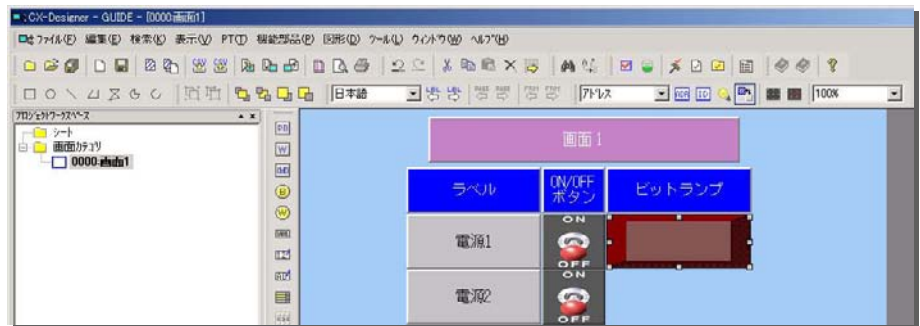
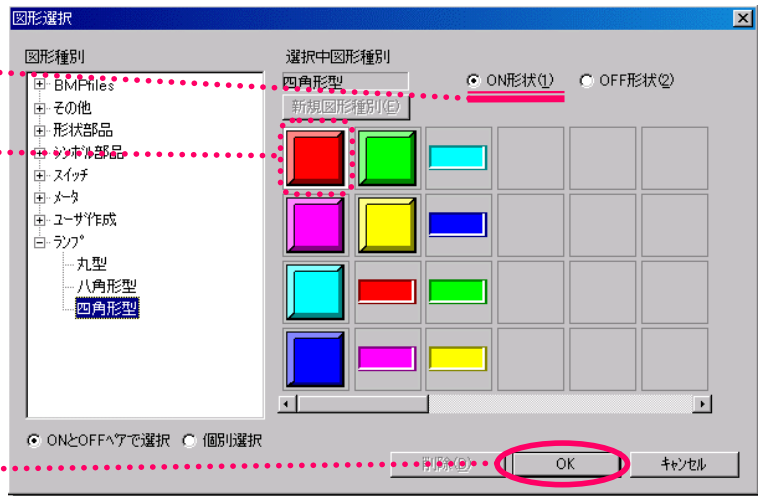


[ON形状(1)]に●チェックします。

図形種別を選択します。

OK

OKをクリックします。



プロパティリストをクリックして以下の項目を設定します。

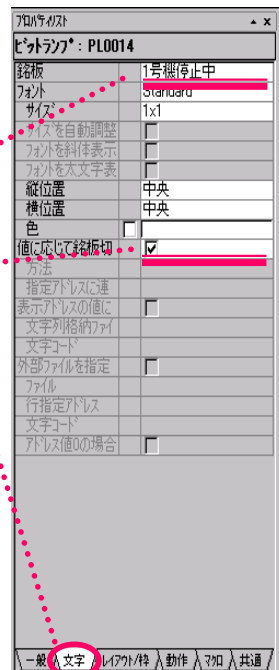
[文字]タブをクリックします。

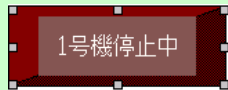
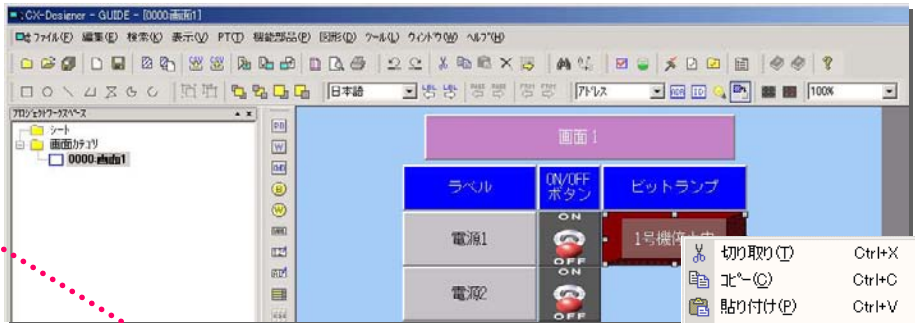
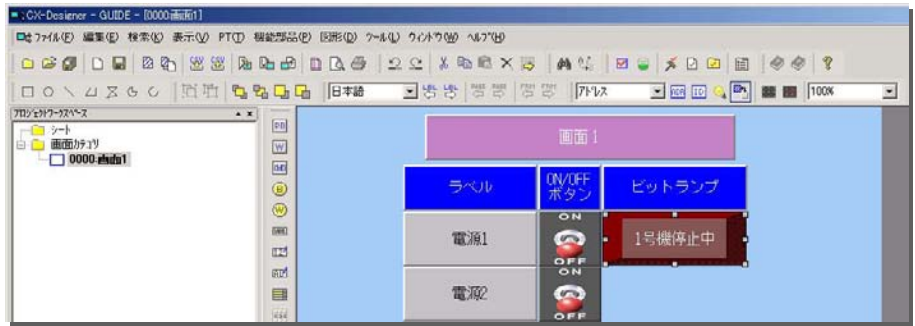
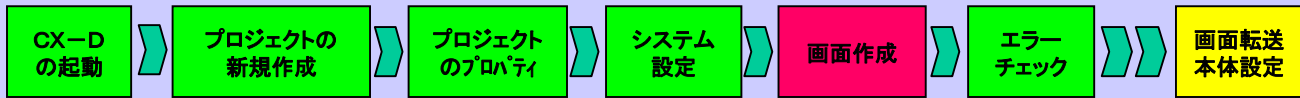
[銘板]

→「1号機停止中」

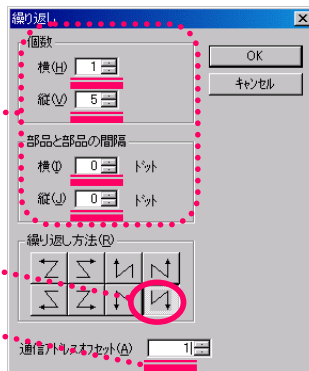
[値に応じて銘版切]

→ ✓ チェックします。





の上で、マウスを右クリック
プルダウンメニューから
[繰り返し(R)]をクリックします。

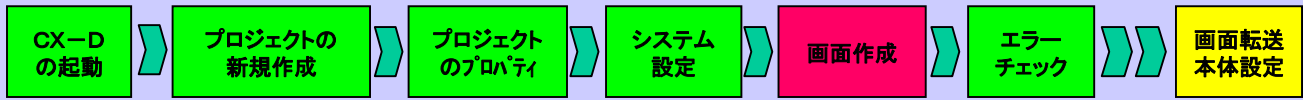


[個数]
横(H)→「1」 縦(V)→「5」
[部品と部品の間隔]
横(H)→「0」 縦(V)→「0」

[繰り返し方法(R)]

[通信アドレスオフセット(A)]→「1」

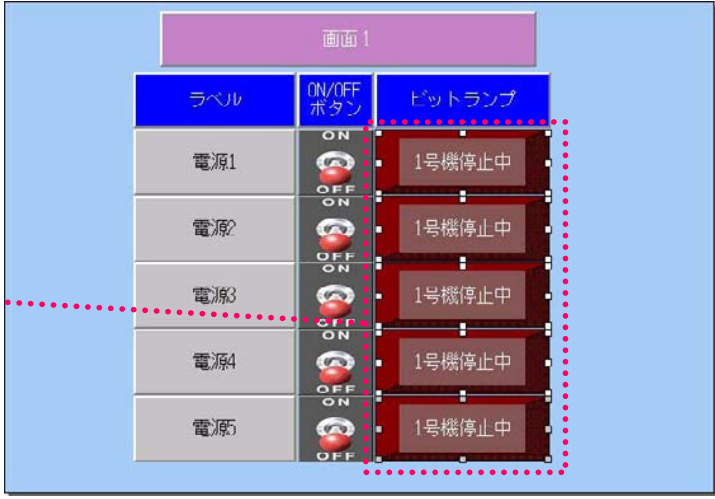
に設定します。



が5つコピーされました。



マウスを左クリックしながらコピーしたビットランプ全体を囲みます。



その状態でマウスを右クリックして、プルダウンメニューを表示させ[一覧編集(M)]をクリックします。



13. 画面追加

ここで行うこと

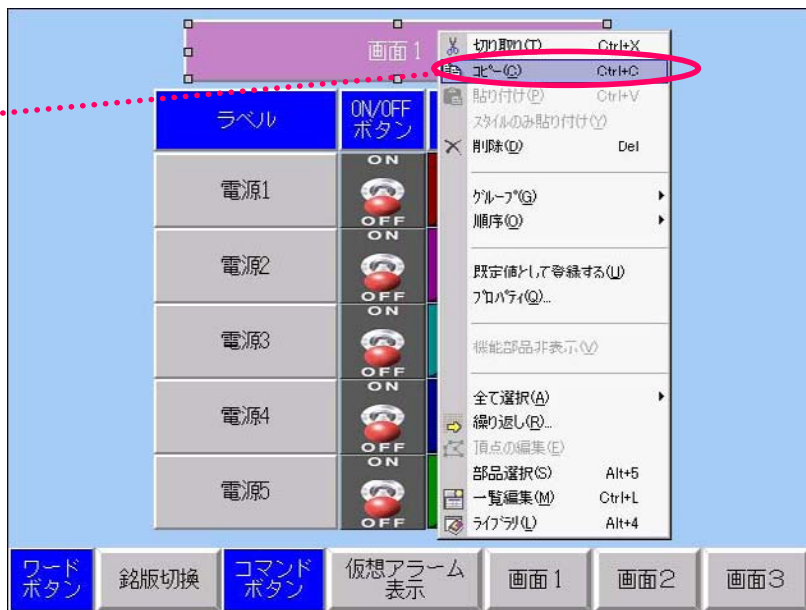
新しい画面を追加します。

本ガイドでは、画面0001を作成した上で画面0000にあるタイトルラベルをコピーします。

2画面目を作成します。

画面タイトルのラベルを
コピーしておきます。

部品上で右クリックをし、
[コピー(C)]を選択します。



マウスで左クリックします。

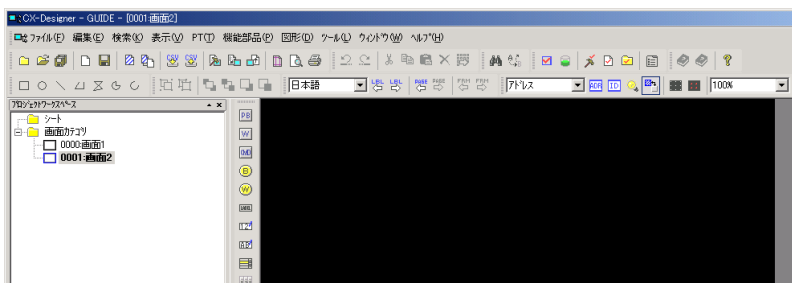
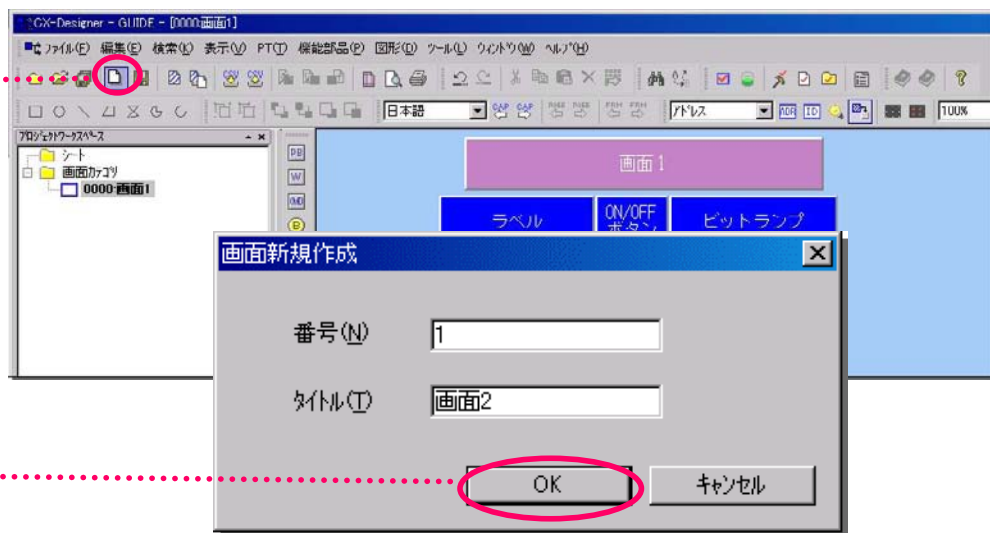


画面新規作成メニュー
を開きます。

[タイトル(T)]に「画面2」と入
力します。

OK

OKをクリックします。



CX-D
の起動

プロジェクトの
新規作成

プロジェクト
のプロパティ

システム
設定

画面作成

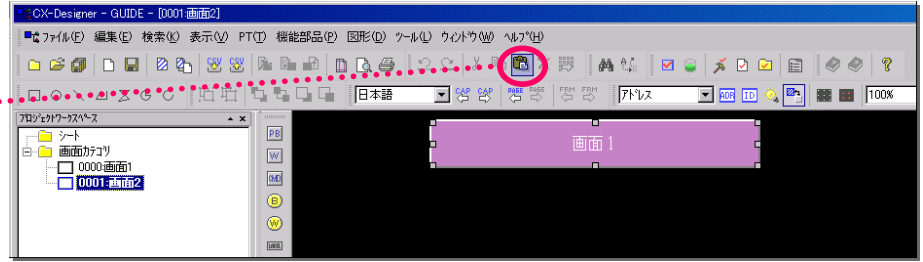
エラー
チェック

画面転送
本体設定



をクリックします。
もしくは
[Ctrl] + [V]

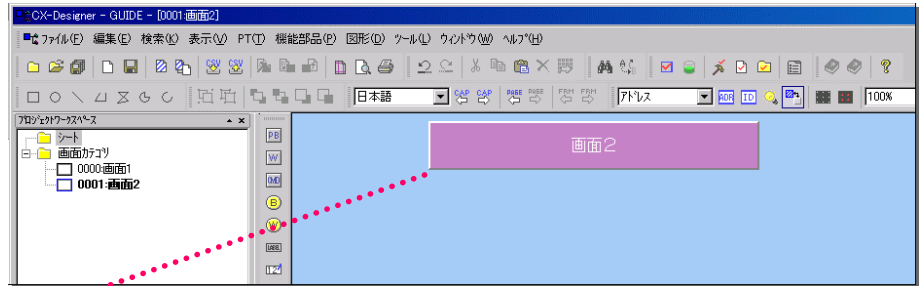
ラベル部品がコピーされ
ます。



「8. 画面のプロパティ」を
参考に、画面プロパティ
ダイアログから[背景色]
を変更します。

ラベル部品のプロパティリス
トから以下の設定を行いま
す。

[銘板]
→画面2



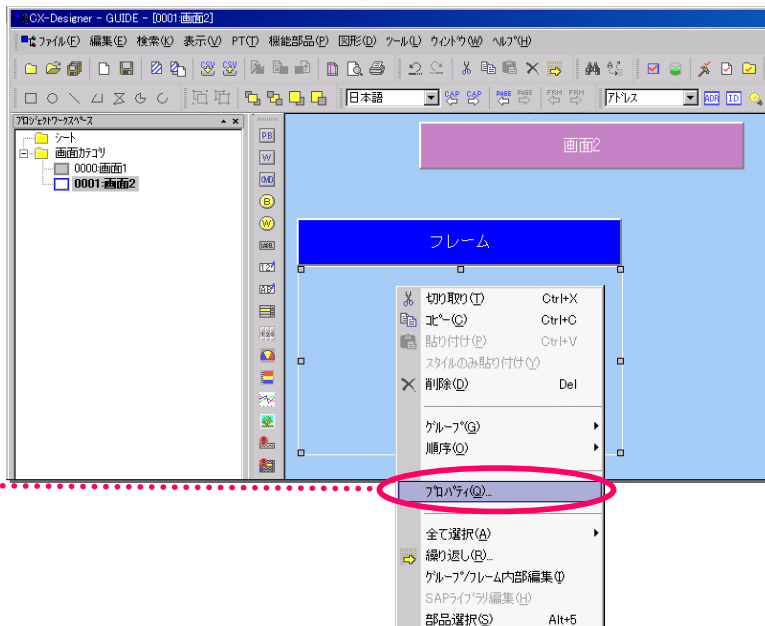
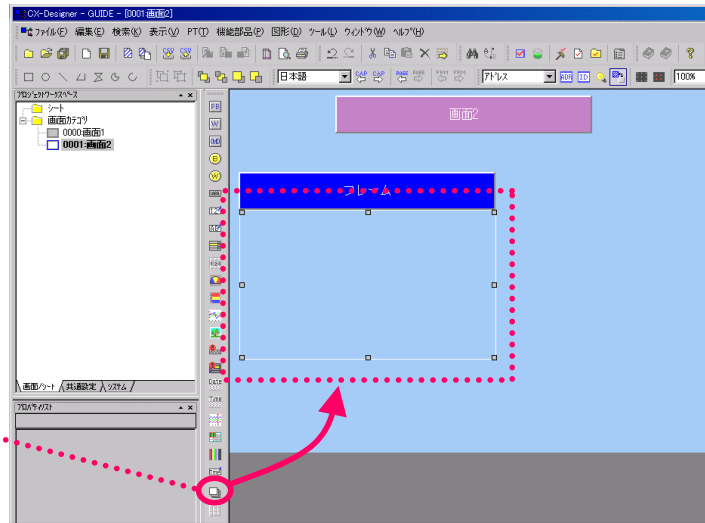
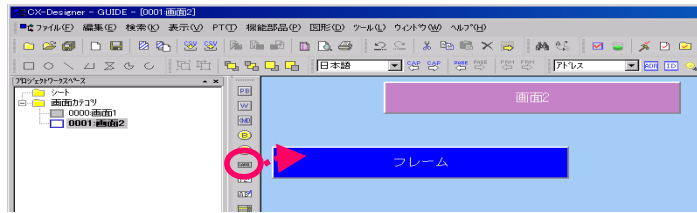
14. フレーム

「9. ラベルの表示」を参考
にして、右図の様に、
ラベルを作成します。

〔銘板〕
→「フレーム」

ここで行うこと

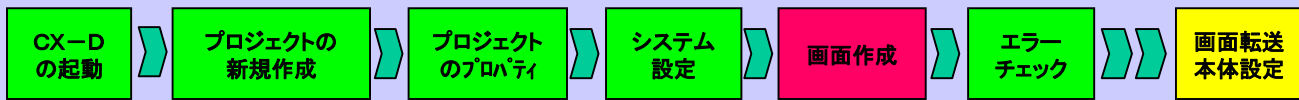
フレームとは、 ページ切換のできる部品で表示内容を切り換えることができます。
本ガイドでは、軽度アラーム表示と重度アラーム表示の切り換えに使用します。



を選び、適当な大きさにド
ラッグして部品の大きさを
決めます。

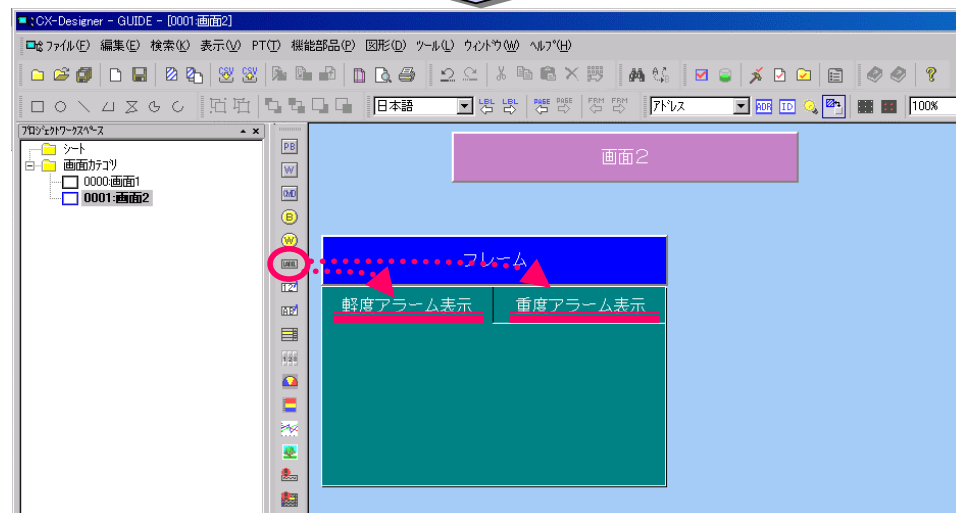
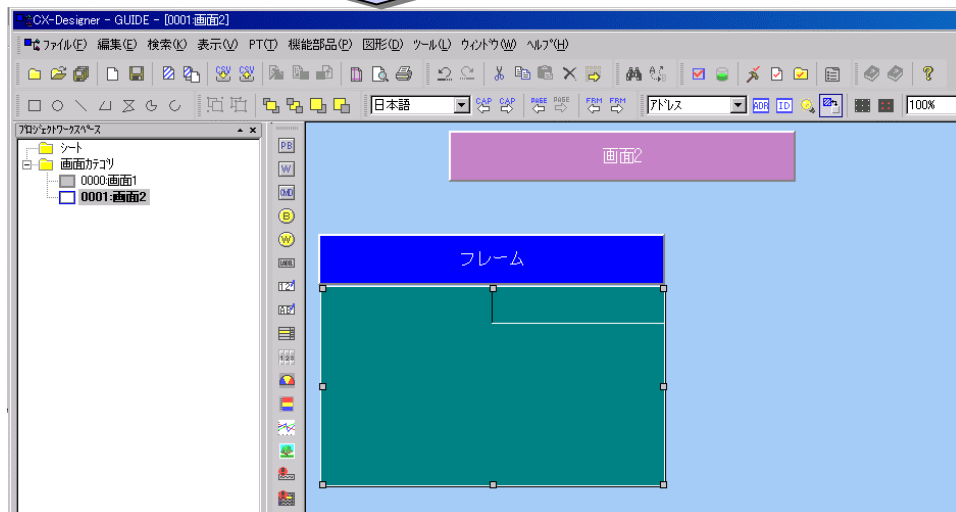
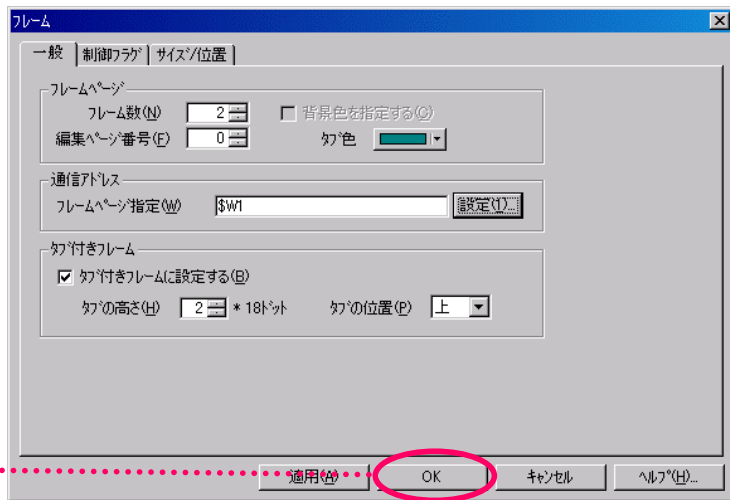
部品上でマウスを右クリック
します。

プルダウンメニューから「プロ
パティ(Q)」を選択します。



OK

OKをクリックします。



「9. ラベルの表示」を参考にして、右図の様に、2つのラベルを作成します。

[銘板]
→「軽度アラーム表示」
[背景の塗りつぶし]
→チェックを外す

[銘板]
→「重度アラーム表示」
[背景の塗りつぶし]
→チェックを外す

CX-D
の起動

プロジェクトの
新規作成

プロジェクト
のプロパティ

システム
設定

画面作成

エラー
チェック

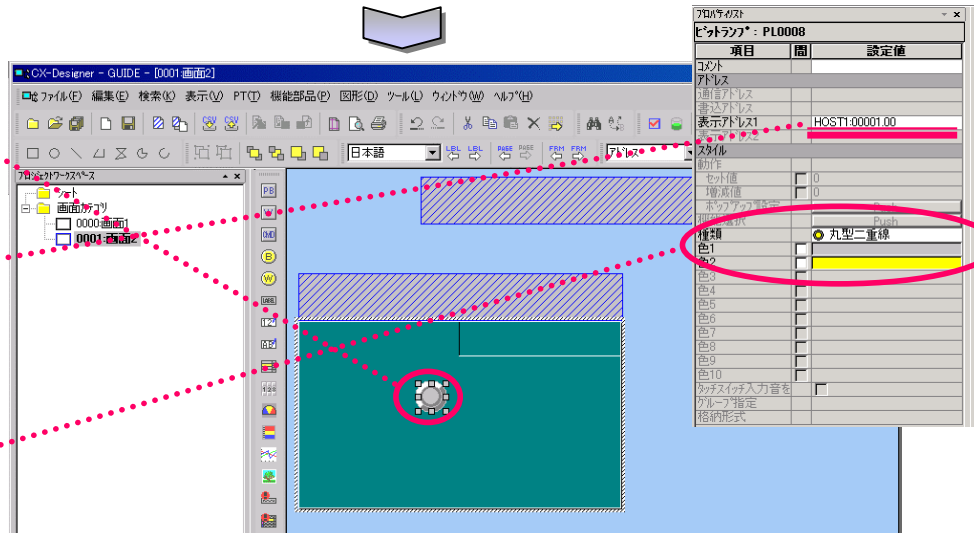
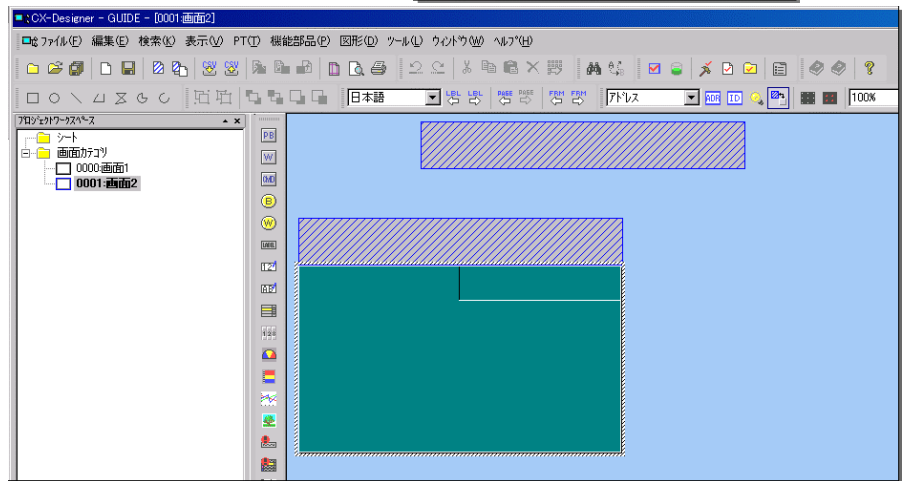
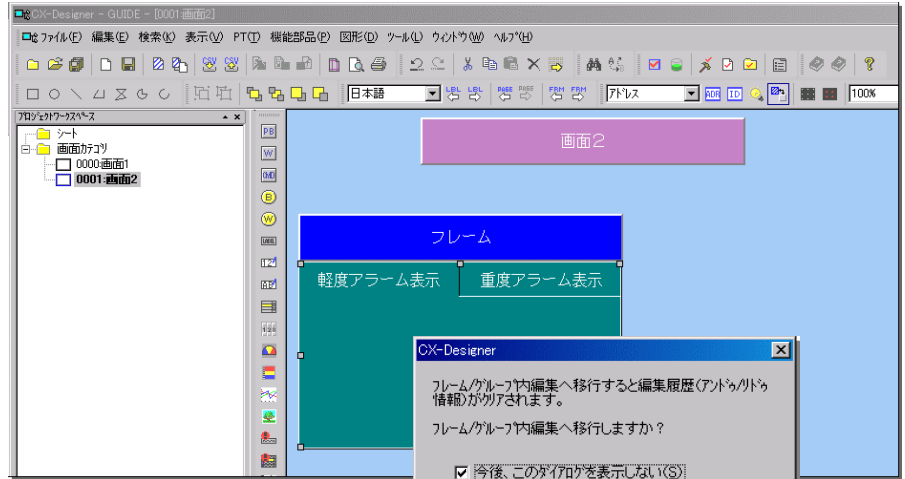
画面転送
本体設定

フレーム部品上でマウス
をダブルクリックします。

[今後、このダイアログを
表示しない(S)]に✓
チェック
します。

OK

OKをクリックします。



「12. ビットランプ」を参考にして、
ビットランプを作成します。

プロパティリストから[表示アドレス1]
を次のように入力します。

ホスト(H)
→[HOST1]
エリア(A)
→[リレー(CIO)]
チャネル番号(M)
→[1]
リレー番号(N)
→[0]

[種類]
→丸型二重線
[色1]、[色2]を設定
します。

CX-D
の起動

プロジェクトの
新規作成

プロジェクト
のプロパティ

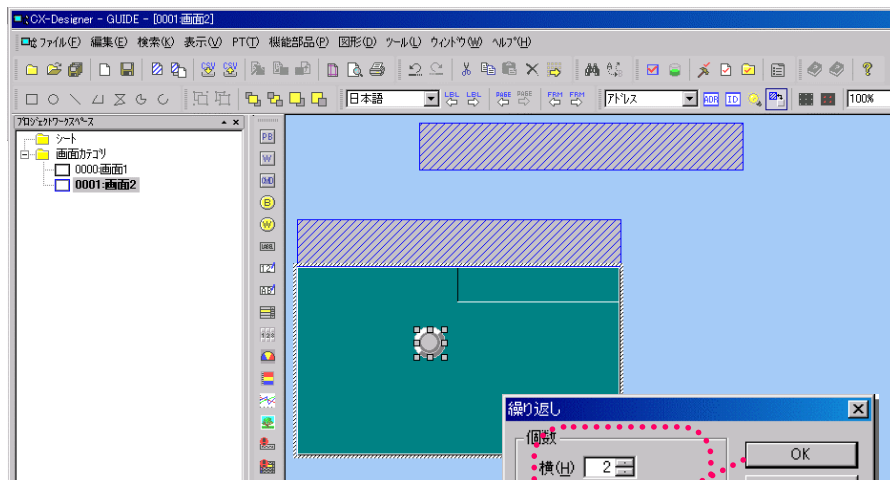
システム
設定

画面作成

エラー
チェック

画面転送
本体設定

「11. 繰り返し機能」を参
考にして、ビットランプを6
個作成します。



[個数]
横(H)→「2」 縦(V)→「3」
[部品と部品の間隔]
横(H)→「125」 縦(V)→「6」

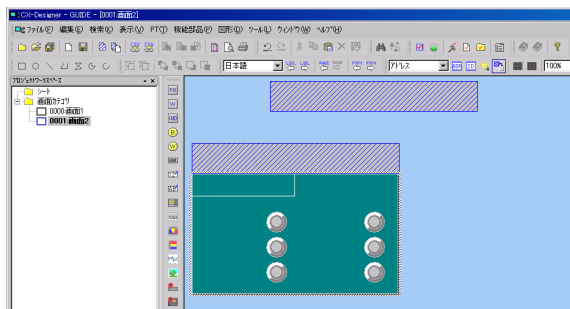
[繰り返し方法(R)]

[通信アドレスオフセット(A)]→「1」

に設定します。

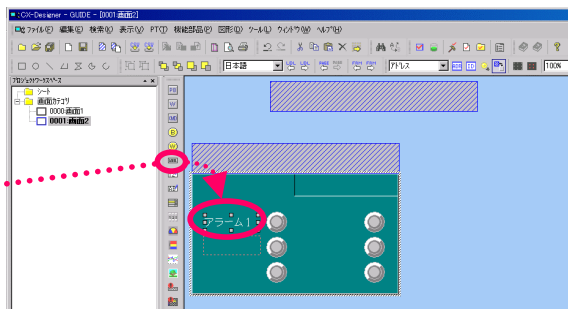
OK

OKをクリックします。



「9. ラベルの表示」を参
考にして、右図の様に、
ラベルを作成します。

[銘板]
→「アラーム1」
[背景の塗りつぶし]
→チェックを外す



CX-D
の起動

プロジェクトの
新規作成

プロジェクト
のプロパティ

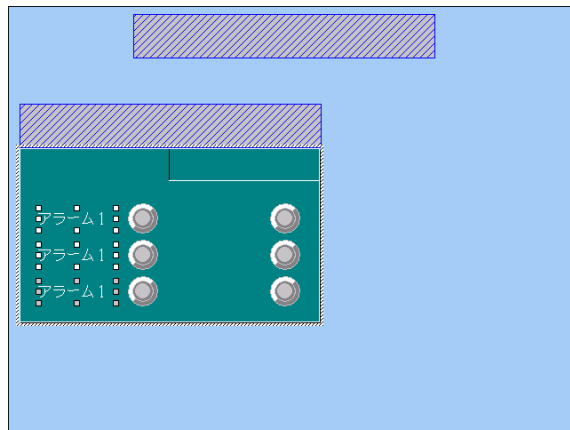
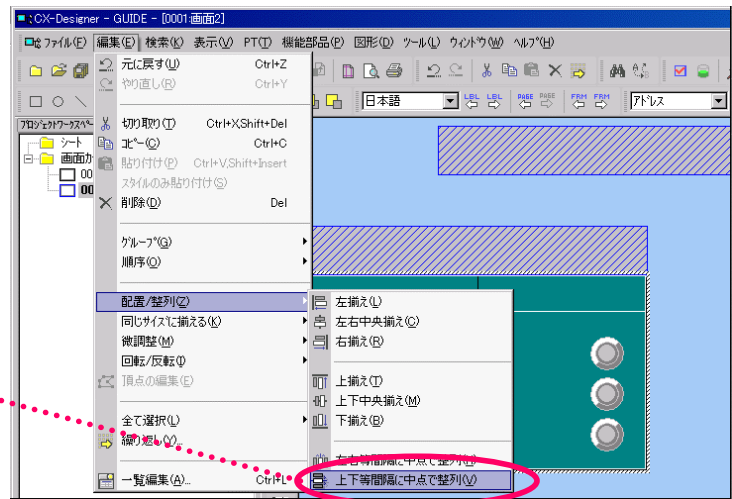
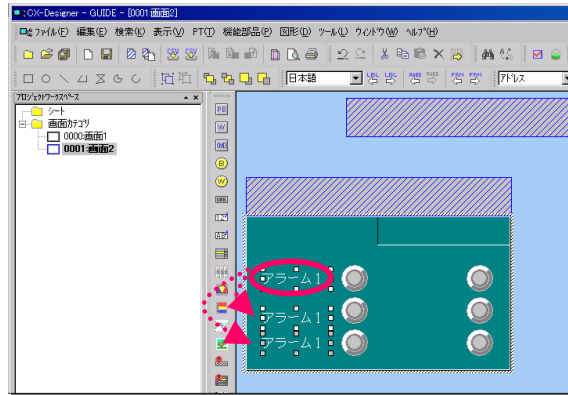
システム
設定

画面作成

エラー
チェック

画面転送
本体設定

[Ctrl]キーを押しながら
[アラーム1]ラベル部品を
ドラッグ&ドロップしてラベ
ル部品をコピーします。



3つのラベル部品を選択してい
る状態で、メニューから

[編集]

－[配置/整列(Z)]

－[上下等間隔に中点で整列(V)]

をクリックします。

3つのラベル部品を選択してい
る状態で、メニューから

[編集]

－[配置/整列(Z)]

－[左揃え(L)]

をクリックします。

CX-D
の起動

プロジェクトの
新規作成

プロジェクト
のプロパティ

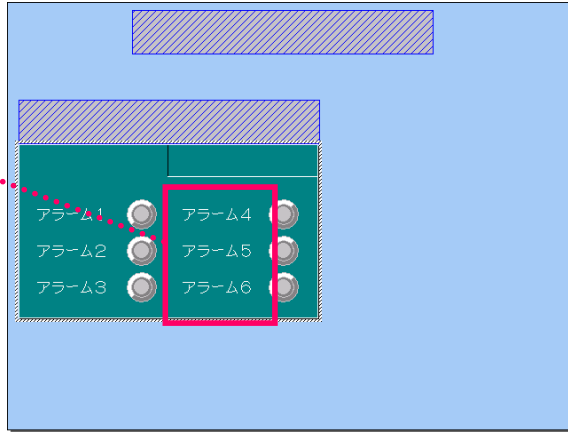
システム
設定

画面作成

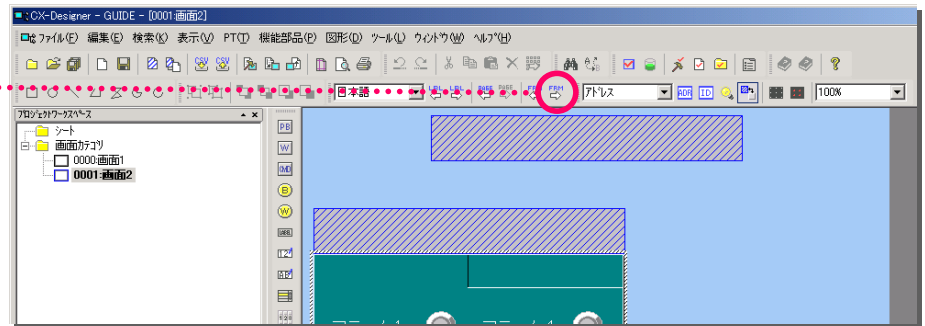
エラー
チェック

画面転送
本体設定

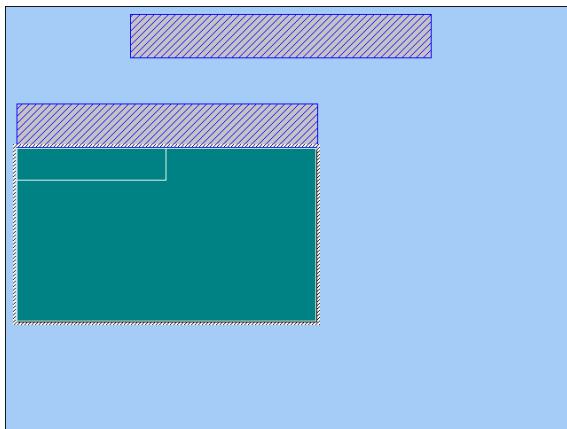
「アラーム1～3」のラベルを作成した手順と同じように、「アラーム4～6」のラベルを作成します。



マウスで左クリックします。



フレーム部品の次ページ
(1ページ目)が表示され
ます。



CX-CD
の起動

プロジェクトの
新規作成

プロジェクト
のプロパティ

システム
設定

画面作成

エラー
チェック

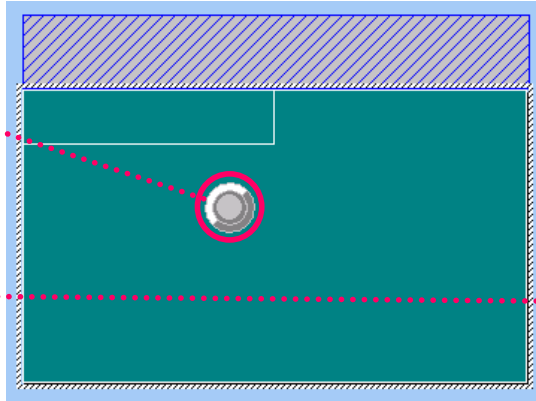
画面転送
本体設定

「12. ビットランプ」を参考にして、
ビットランプを作成します。

プロパティリストから[表示アドレス1]
を次のように入力します。

ホスト(H)
→[HOST1]
エリア(A)
→[リレー(CIO)]
チャネル番号(M)
→[2]
リレー番号(N)
→[0]

[種類]
→丸型二重線
[色1]、[色2]を設定
します。



プロパティリスト		
ビットランプ*: PL0020		
項目	間	設定値
コメント		
アドレス		
通信アドレス		
書き込みアドレス		
表示アドレス1		HOST1-00002.00
表示アドレス2		
スタイル		
動作		
セット値	☐	0
増減値	☐	0
ホップアップ設定		Back
機能選択		Push
種類		丸型二重線
色1		
色2		
色3		
色4		
色5		
色6		

「11. 繰り返し機能」を参
考にして、ビットランプを6
個作成します。

[個数]
横(H)→「2」 縦(V)→「3」
[部品と部品の間隔]
横(H)→「125」 縦(V)→「6」

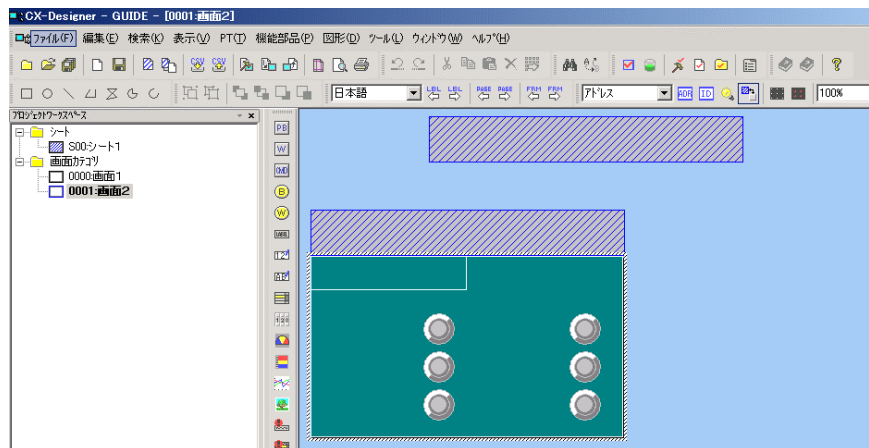
[繰り返し方法(R)]

[通信アドレスオフセット(A)]→「1」
に設定します。

繰り返し	
個数	
横(H)	2
縦(V)	3
部品と部品の間隔	
横(H)	125 ドット
縦(V)	6 ドット
繰り返し方法(R)	
☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐	
通信アドレスオフセット(A)	1

OK

OKをクリックします。



CX-D
の起動

プロジェクトの
新規作成

プロジェクト
のプロパティ

システム
設定

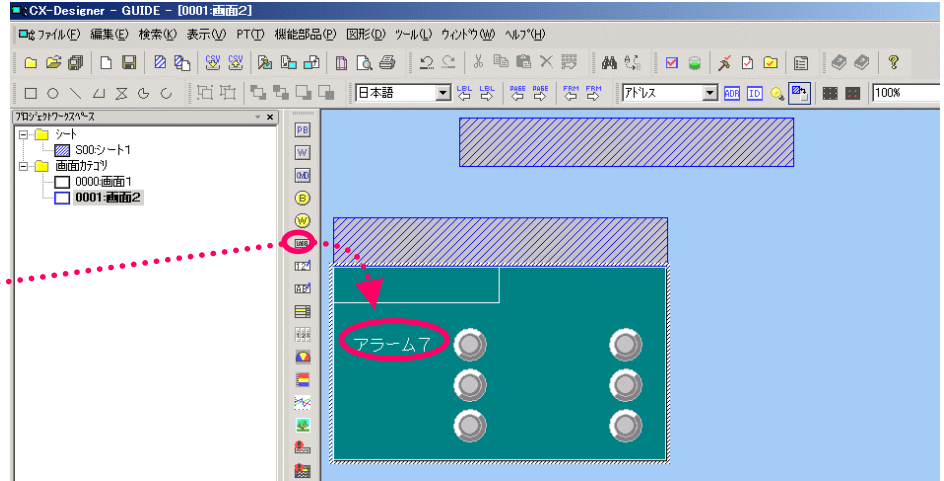
画面作成

エラー
チェック

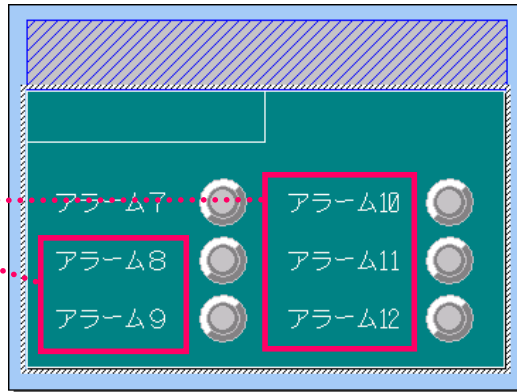
画面転送
本体設定

「9. ラベルの表示」を参考
にして、右図の様に、
ラベルを作成します。

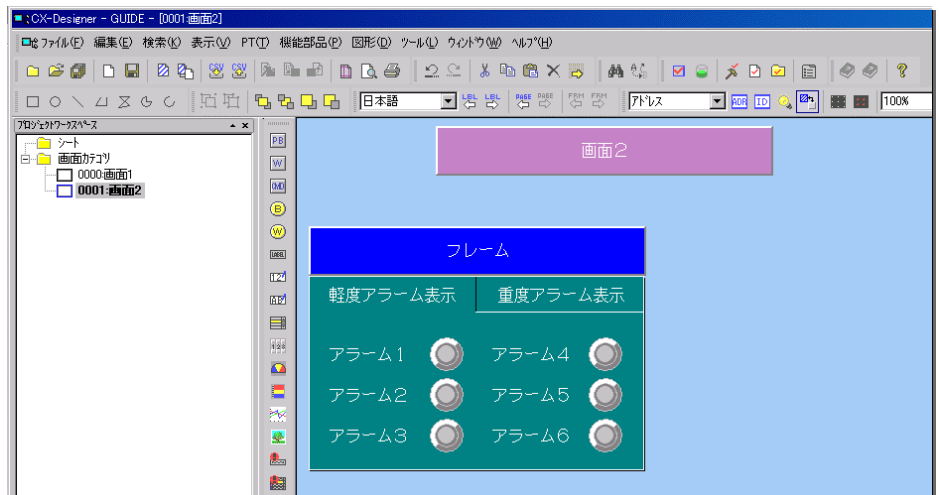
[銘板]
→「アラーム7」
[背景の塗りつぶし]
→チェックを外す



「アラーム1～6」のラベルを
作成したときの手順を参考
に、「アラーム8～12」のラベ
ルを作成します。



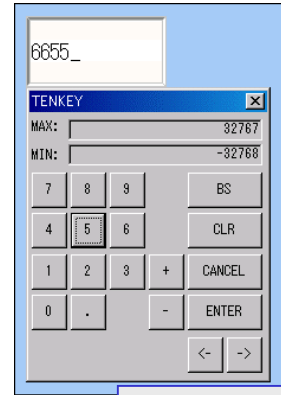
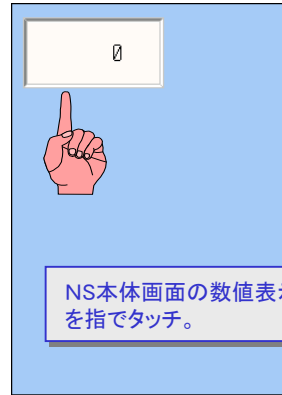
画面上のフレーム部品以外
の部分をクリックして、フレ
ーム/グループ内編集を終了し
ます。



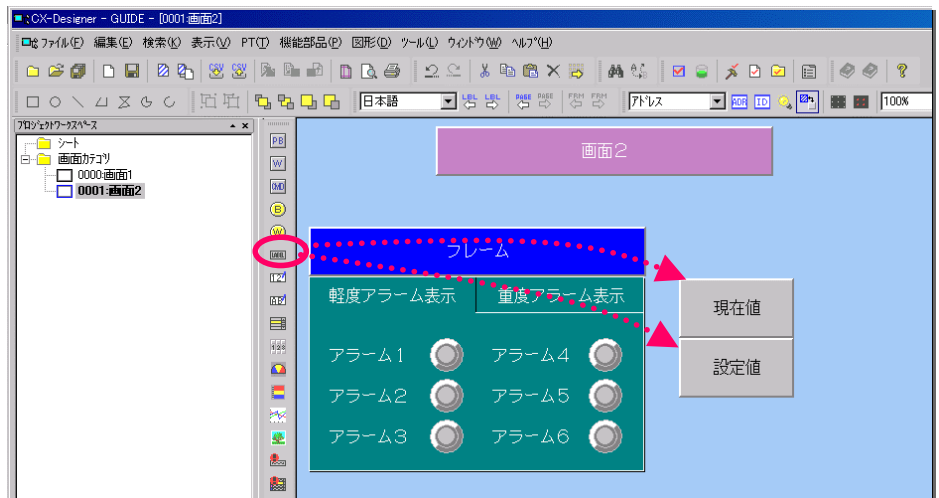
15. 数値表示 & 入力

ここで行うこと

数値表示 & 入力とは、指定通信アドレスのデータを数値表示したり、テンキーパッドからの数値入力などでデータ変更を行うための機能部品です。



テンキーパッドがポップアップ。
設定したエリアに数値入力が出れます。



「9. ラベルの表示」を参考にして、右図の様に、ラベルを作成します。

上段
[銘板]
→「現在値」

下段
[銘板]
→「設定値」

CX-D
の起動

プロジェクトの
新規作成

プロジェクト
のプロパティ

システム
設定

画面作成

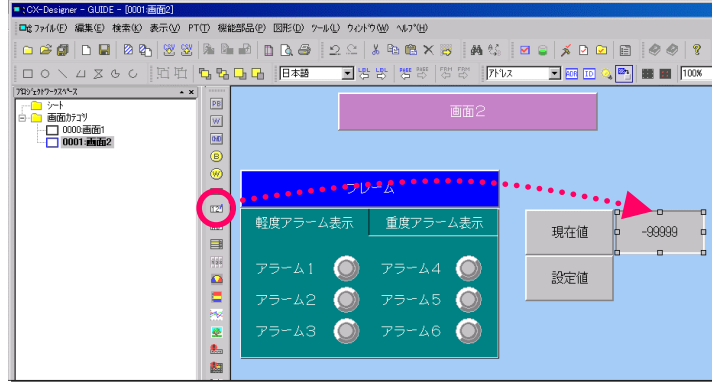
エラー
チェック

画面転送
本体設定

機能部品一覧から



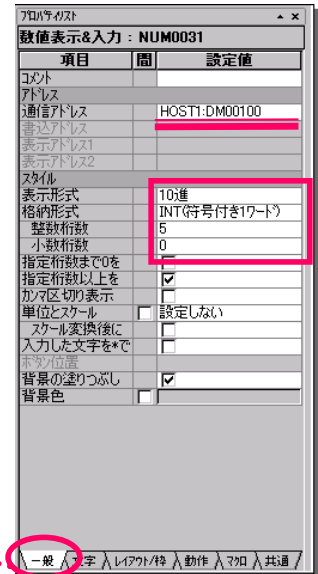
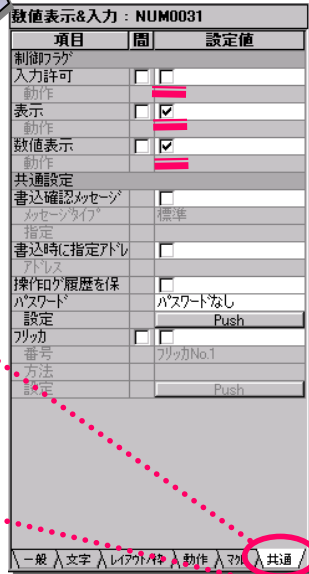
数値表示入力を選び、現在値
ラベルの右側に配置します。



作成した部品のプロパティリストで
以下の設定を行います。

共通タブ
[入力許可]
→「チェックなし」
[表示]
→「チェックあり」
[数値表示]
→「チェックあり」

一般タブ
[通信アドレス]
→「HOST1:DM00100」
[表示形式]
→「10進」
[格納形式]
→「INT(符号付き1ワード)」
[整数桁数]
→「5」
[小数桁数]
→「0」



機能部品一覧から

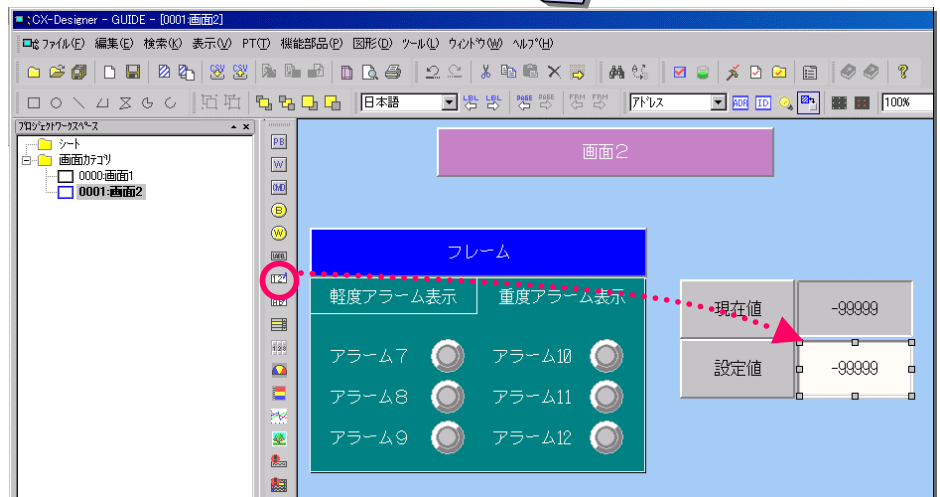


数値表示&入力を選びます。

作成した部品のプロパティリストで
以下の設定を行います。

共通タブ
[入力許可]
→「チェックあり」

一般タブ
[通信アドレス]
→「\$W0」
[背景色]
→「白」



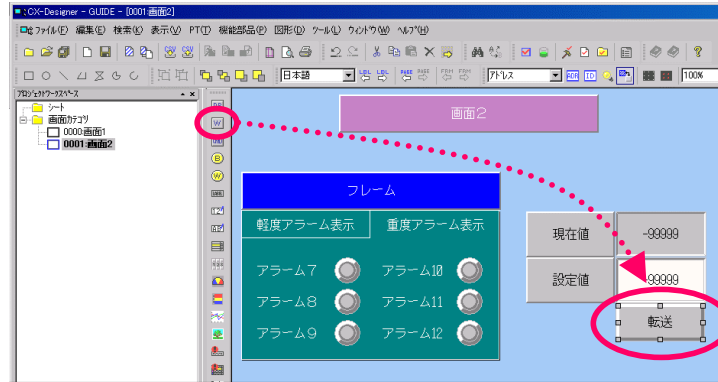
16. ワードボタン

ここでやること

ワードボタンを使用します。ワードボタンとは、ボタンを押したときに指定通信アドレスに数値を書き込む、または指定通信アドレスの値を増減させるためのボタンです。ポップアップメニューから項目を選択して指定値を書き込むことも可能です。

本ガイドでは、設定値(内部アドレス)の値を、現在値(PLCアドレス)に書き込みます。

ワードボタンを貼り付けます。

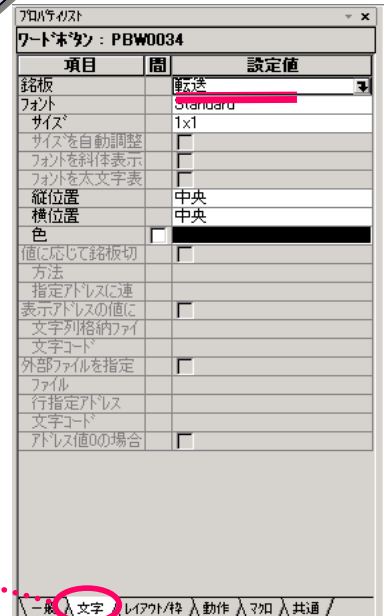
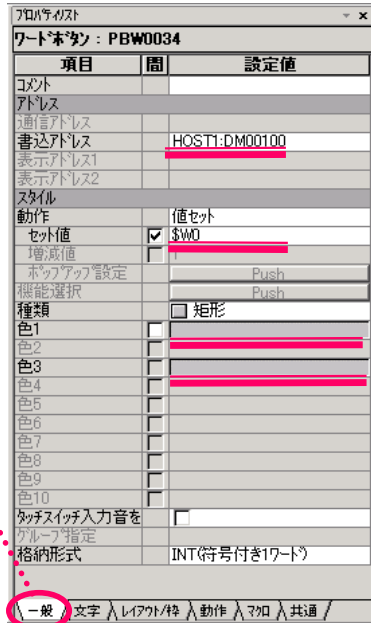


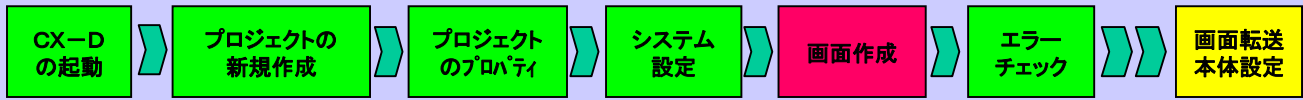
作成した部品のプロパティリストで
以下の設定を行います。

一般タブ
[書込アドレス]
→「HOST1:DM00100」
[動作]
→「値セット」
[セット値]
→「\$W0」

[色1]、[色3]の選択を行います。

文字タブ
[銘板]
→「転送」



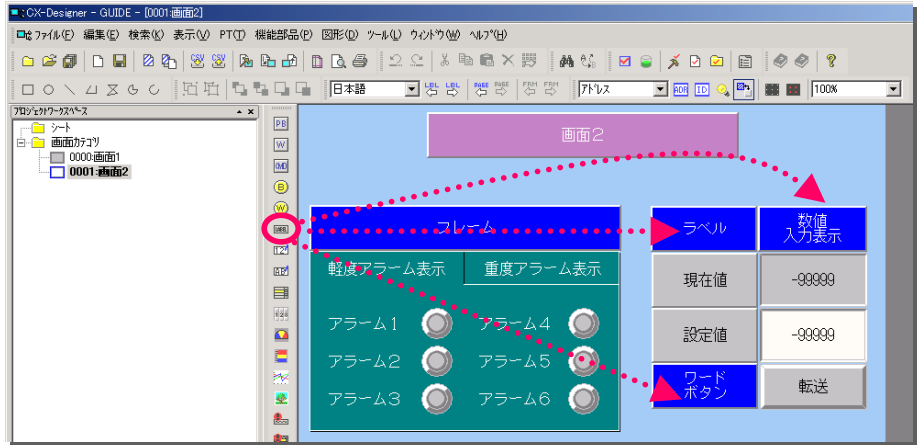


「9. ラベルの表示」を参考にして、右図の様に、3つのラベルを作成します。

〔銘板〕
→「ラベル」

〔銘板〕
→「数値入力表示」

〔銘板〕
→「ワードボタン」



CX-D
の起動

プロジェクトの
新規作成

プロジェクト
のプロパティ

システム
設定

画面作成

エラー
チェック

画面転送
本体設定

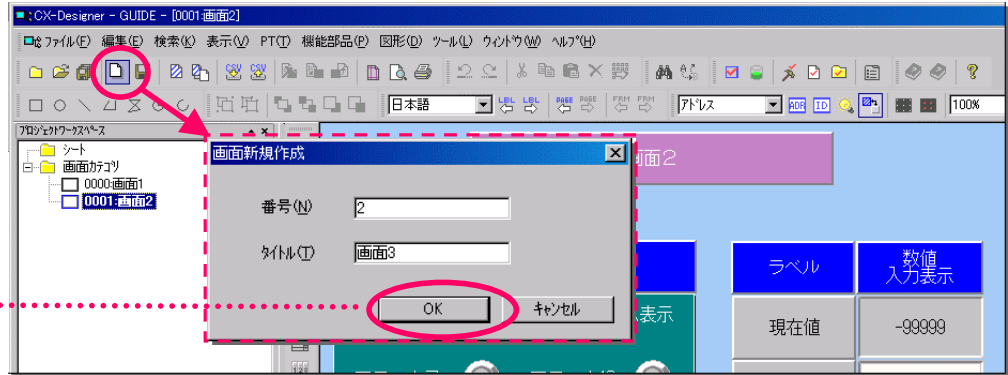
3画面目を作成します。

「13. 画面追加」を参考に
して3画面目を作成します。

OK

OKをクリックします。

新規画面が作成されます。



17. アラーム/イベント表示

ここで行うこと

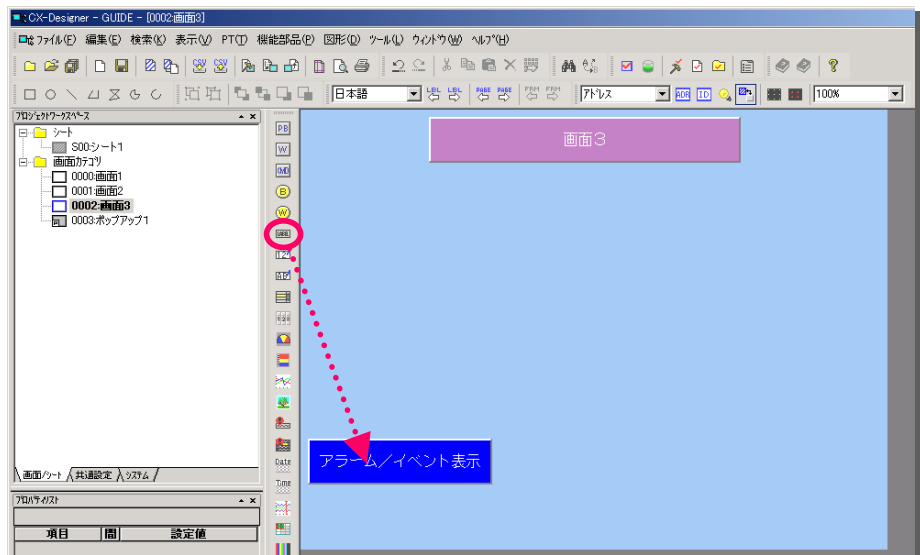
アラーム／イベント表示とは、登録された**発生中のアラーム／イベント**を1行で表示する機能部品です。通常は最も優先順位の高いアラーム／イベントが表示されますが、**流れ文字**を指定することで、同時に発生している複数のアラーム／イベントを優先順位の高いものから順に複数表示することもできます。

本ガイドでは、軽度アラーム、重度アラーム、運転状態(イベント)を表示します。

「9. ラベルの表示」を参考
にして、右図の様に、
ラベルを作成します。

【銘板】

→「アラーム／イベント表示」



CX-D
の起動

プロジェクトの
新規作成

プロジェクト
のプロパティ

システム
設定

画面作成

エラー
チェック

画面転送
本体設定

機能部品一覧から



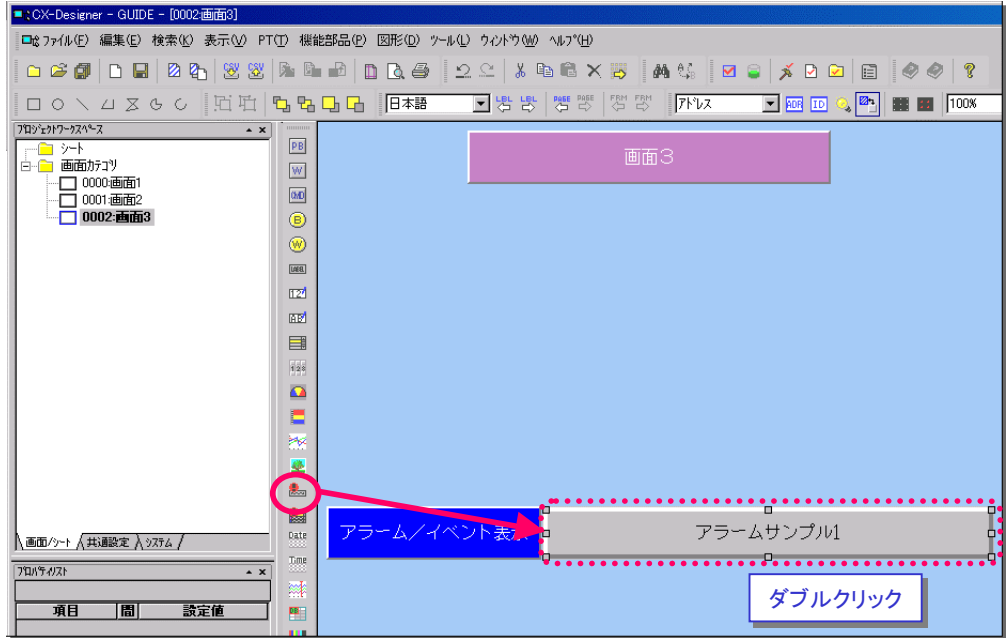
アラーム/イベント表示を
選びます。



画面の適当な位置に
アラーム/イベント表示部品を
作成します。

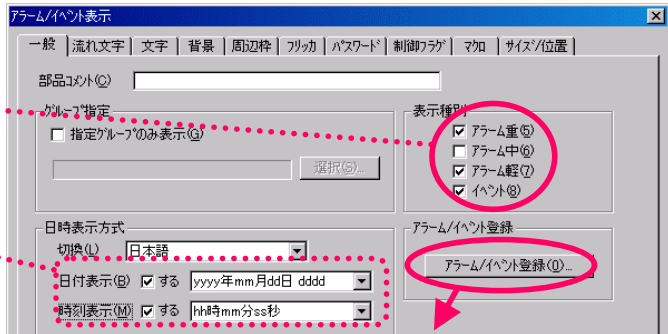


作成した部品の上で
マウスをダブルクリック、
プロパティを表示させます。



[アラーム中(6)]の ✓ チェック
をはずします。

[日付表示(B)], [時刻表示(M)]
を ✓ チェックします。



アラーム/イベント登録(O)を
クリックします。



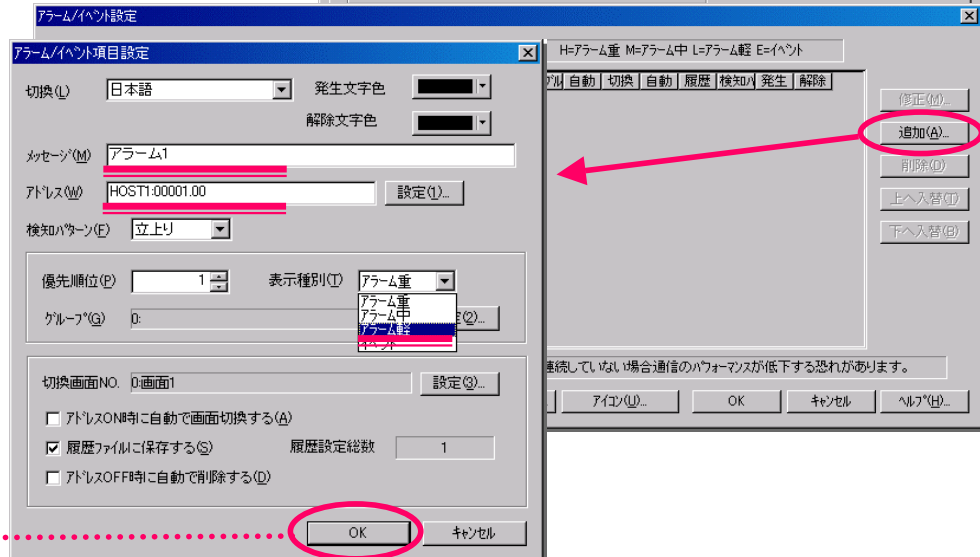
追加(A)...

追加(A)をクリックします。

以下の設定を行います。

[メッセージ(M)]
→「アラーム1」

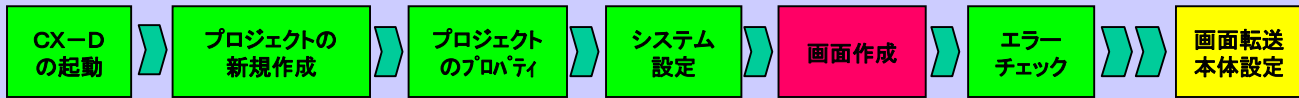
[アドレス(W)]
→「HOST1:00001.00」



OK

OKをクリックします。

OK



アラーム/イベント設定

切替(L) 日本語 Font(F) Standard H=アラーム重 M=アラーム中 L=アラーム軽 E=イベント

No.	名称(N)	アドレス	優先	表示	自動	切替	自動	履歴	検知	発生	解除
1	アラーム1	HOST1.00001.00	1	L	0	FALSE	0	FALSE	TRUE	↑	

修正(M)... 追加(A)... 削除(D) 上へ入替(I) 下へ入替(B)

設定するアドレスは、すでに連続したアドレスを設定するようにしてください。アドレスが連続していない場合通信のパフォーマンスが低下する恐れがあります。

CSVインポート(P)... CSVエクスポート(E)... アラーム設定(B)... 付属情報設定(P)... アイコン(U)... OK キャンセル ヘルプ(H)...

CSVエクスポート(E)...
CSVエクスポート(E)をクリックします。

「マルチバイコード(M)」を選択します。

OK
OKをクリックします。

任意のファイル名
(ここでは「ガイド」)をつけて

保存(S)
保存(S)をクリックします。

OK
OKをクリックします。

上記で保存したファイルをEXCELで読み出します。([データ(D)]メニュー-[外部データの取り込み]-[テキストファイルのインポート])

Microsoft Excel - ガイド.csv

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
1	通信アドレス	優先順位	表示種別	グループ番号	グループ名	自動画面切替	画面番号	自動削除	履歴保存	発生文字を解除文字を検知		
2	HOST1.00001.00	1	lowalarm	0		FALSE	0	FALSE	TRUE	0	0	posedg
3												
4												
5												

Microsoft Excel - ガイド.csv

	A	B	C	D
1	通信アドレス			
2	HOST1.00001.00	1	lowalarm	0
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				

セルの右下をマウスで左クリックしながら引っ張ります。

Microsoft Excel - ガイド.csv

	A	B	C	D
1	通信アドレス			
2	HOST1.00001.00	1	lowalarm	0
3	HOST1.00001.01			
4	HOST1.00001.02			
5	HOST1.00001.03			
6	HOST1.00001.04			
7	HOST1.00001.05			
8				
9				

文字列に含まれる数字だけがインクリメントされます。

CX-D
の起動

プロジェクトの
新規作成

プロジェクト
のプロパティ

システム
設定

画面作成

エラー
チェック

画面転送
本体設定

前ページの操作 & コピー・ペースト機能などを使って下記のテーブルを完成させます。

Microsoft Excel - ガイド.csv

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N
1	通信アドレス	優先順位	表示種別	グループ番号	グループ名称	自動画面切替	画面番号	自動削除	履歴保存	発生文字色	解除文字色	検知パターン	銘板0アラームメッセージ	銘板1アラームメッセージ
2	HOST1-00001.00	1	lowalarm	0		FALSE	0	FALSE	TRUE	0	0	posedge	アラーム1	Alarm 1
3	HOST1-00001.01	1	lowalarm	0		FALSE	0	FALSE	TRUE	0	0	posedge	アラーム2	Alarm 2
4	HOST1-00001.02	1	lowalarm	0		FALSE	0	FALSE	TRUE	0	0	posedge	アラーム3	Alarm 3
5	HOST1-00001.03	1	lowalarm	0		FALSE	0	FALSE	TRUE	0	0	posedge	アラーム4	Alarm 4
6	HOST1-00001.04	1	lowalarm	0		FALSE	0	FALSE	TRUE	0	0	posedge	アラーム5	Alarm 5
7	HOST1-00001.05	1	lowalarm	0		FALSE	0	FALSE	TRUE	0	0	posedge	アラーム6	Alarm 6
8	HOST1-00002.00	1	highalarm	0		FALSE	0	FALSE	TRUE	0	0	posedge	アラーム7	Alarm 7
9	HOST1-00002.01	1	highalarm	0		FALSE	0	FALSE	TRUE	0	0	posedge	アラーム8	Alarm 8
10	HOST1-00002.02	1	highalarm	0		FALSE	0	FALSE	TRUE	0	0	posedge	アラーム9	Alarm 9
11	HOST1-00002.03	1	highalarm	0		FALSE	0	FALSE	TRUE	0	0	posedge	アラーム10	Alarm 10
12	HOST1-00002.04	1	highalarm	0		FALSE	0	FALSE	TRUE	0	0	posedge	アラーム11	Alarm 11
13	HOST1-00002.05	1	highalarm	0		FALSE	0	FALSE	TRUE	0	0	posedge	アラーム12	Alarm 12
14	HOST1-00000.00	1	event	0		FALSE	0	FALSE	TRUE	0	0	posedge	1号機運転開始	No1 Start
15	HOST1-00000.01	1	event	0		FALSE	0	FALSE	TRUE	0	0	posedge	2号機運転開始	No2 Start
16	HOST1-00000.02	1	event	0		FALSE	0	FALSE	TRUE	0	0	posedge	3号機運転開始	No3 Start
17	HOST1-00000.03	1	event	0		FALSE	0	FALSE	TRUE	0	0	posedge	4号機運転開始	No4 Start
18	HOST1-00000.04	1	event	0		FALSE	0	FALSE	TRUE	0	0	posedge	5号機運転開始	No5 Start
19														
20														
21														

コマンド NUM

編集が完了したらファイルを上書き保存します。

CX-Designerに操作を戻します。

アラーム/イベント設定

切替(L) 日本語 フォント(F) Standard H=アラーム重 M=アラーム中 L=アラーム軽 E=イベント

No.	メッセージ	アドレス	優先	表示	検知	自動	切替	自動	履歴	検知パ	発生	解除
1	アラーム1	HOST1-00001.00	1	L	0	FALS	0	FALS	TRUE	↑		

設定するアドレスは、できる限り連続したアドレスを設定するようにしてください。アドレスが連続していない場合通信のパフォーマンスが低下する恐れがあります。

CSVインポート(C)... CSVインポート(E)... パラメータ設定(E)... 付帯情報設定(E)... アイコン(I)... OK キャンセル ヘルプ(H)...

CSVインポート(C)...

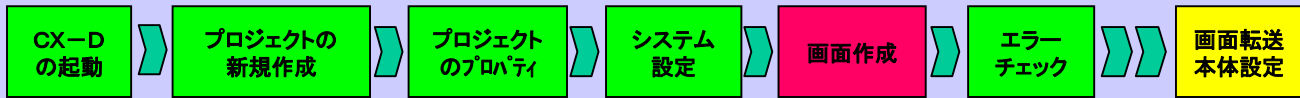
CSVインポート(C)をクリックします。

アラームCSVインポート方法選択

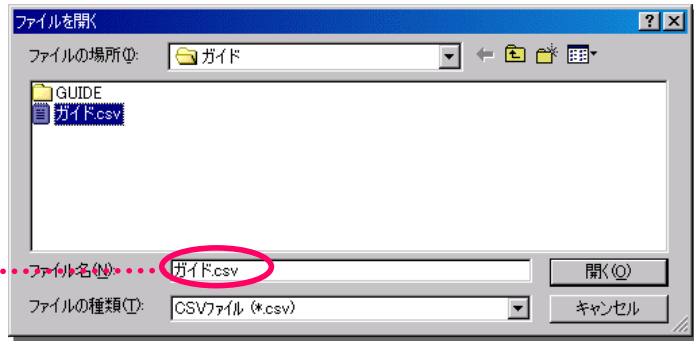
[現在のアラームに追加(A)]
に●チェックします。

OK

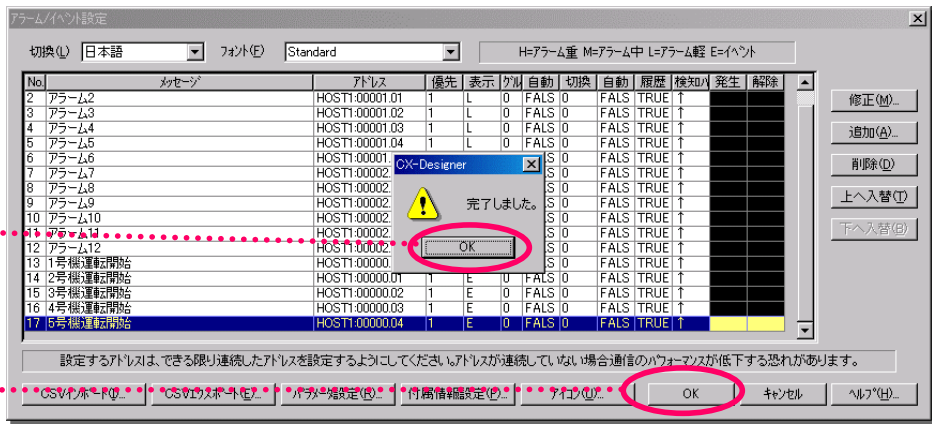
OKをクリックします。



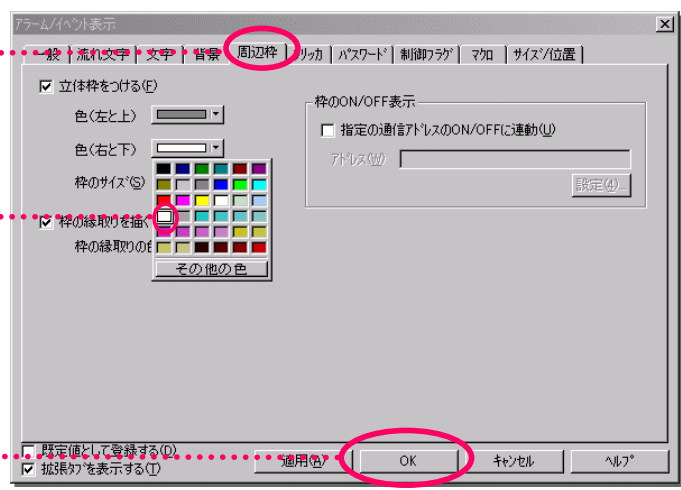
先ほど保存したファイル名を指定します。



右図のようなメッセージが出て、ファイルの読み込みが完了します。



[周辺枠]タブをクリックします。



色を選択します。

OKをクリックします。



CX-D
の起動

プロジェクトの
新規作成

プロジェクト
のプロパティ

システム
設定

画面作成

エラー
チェック

画面転送
本体設定

18. アラーム/イベントサマリ・履歴部品

ここで言うこと

アラーム／イベントサマリ・履歴部品とは、登録された現在発生中のアラーム／イベントメッセージをリスト形式で一覧表示する機能部品です。日付順、優先順位順、頻度順などの表示順を指定できます。本ガイドでは、軽度アラーム、重度アラームの発生／復旧状態を表示します。

機能部品一覧から



アラーム／イベントサマリ・履歴
を選びます。

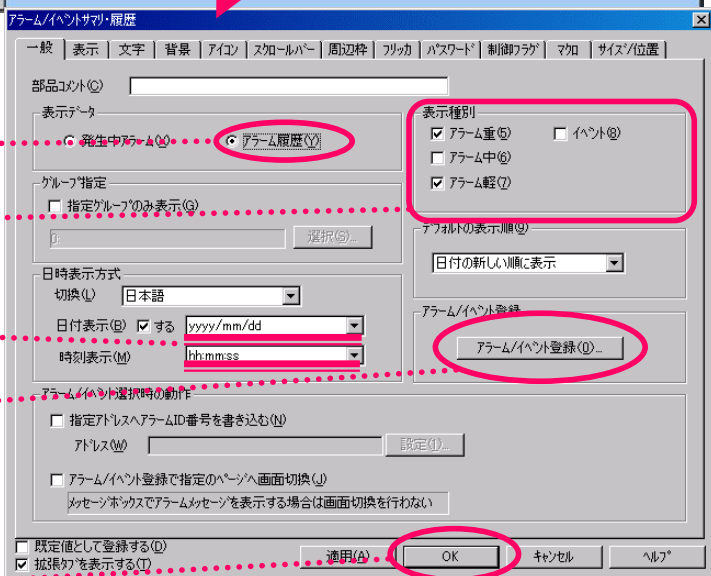
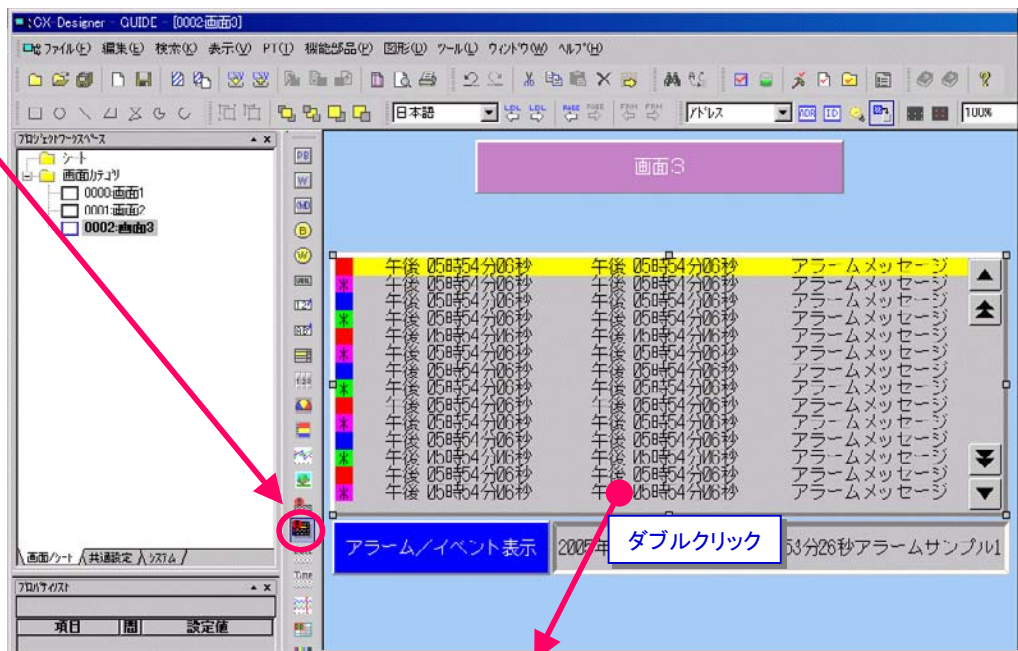


画面の適当な位置に
アラーム／イベントサマリ・履歴
部品を作成します。



作成した部品の上で
マウスをダブルクリック、
アラーム／イベントサマリ・履歴の
プロパティを表示させます。

以下の設定を行います。



[表示データ]
→アラーム履歴(Y)●チェックします。

[アラーム重(5)]と[アラーム軽(7)]
に✓します

[日時表示(B)]を[yyyy/mm/dd]
[時刻表示(M)]を[hh:mm:ss]

アラーム／イベント登録(O)...

アラーム／イベント登録(O)をクリック
します。
内容を確認します。

OK

OKをクリックします。

ラベルを1個 追加します。
銘板を「アラーム／イベン
トサマリ履歴」にします。



19. 画面のポップアップ

ここで行うこと

NS本体動作時には、通常画面は1画面ずつの表示となりますが、ポップアップ画面は、通常画面に重ねて表示することができます。

本ガイドでは、軽度アラーム、重度アラームの発生／復旧を操作するボタンをポップアップ画面上に作成します。



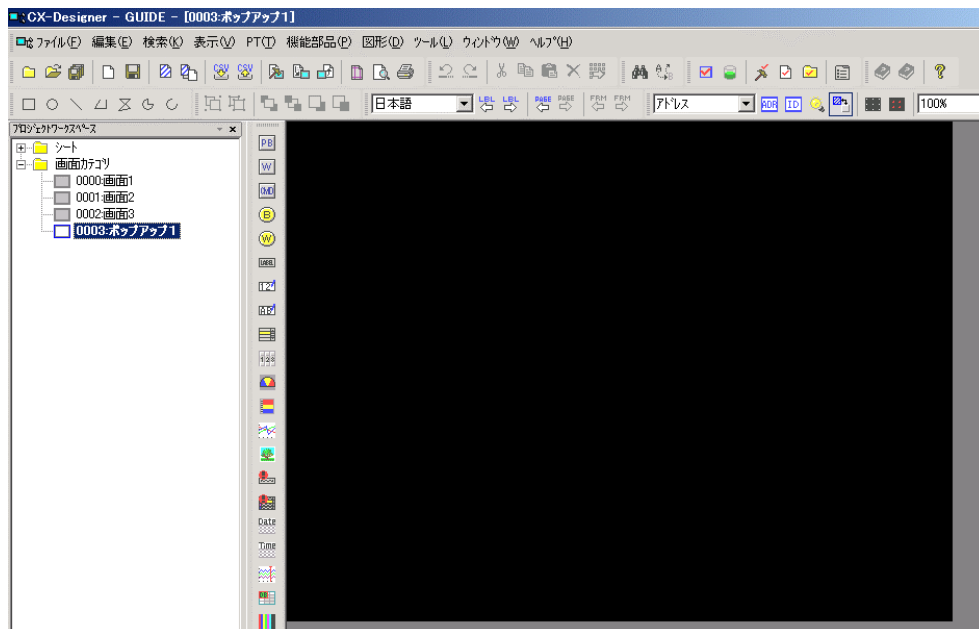
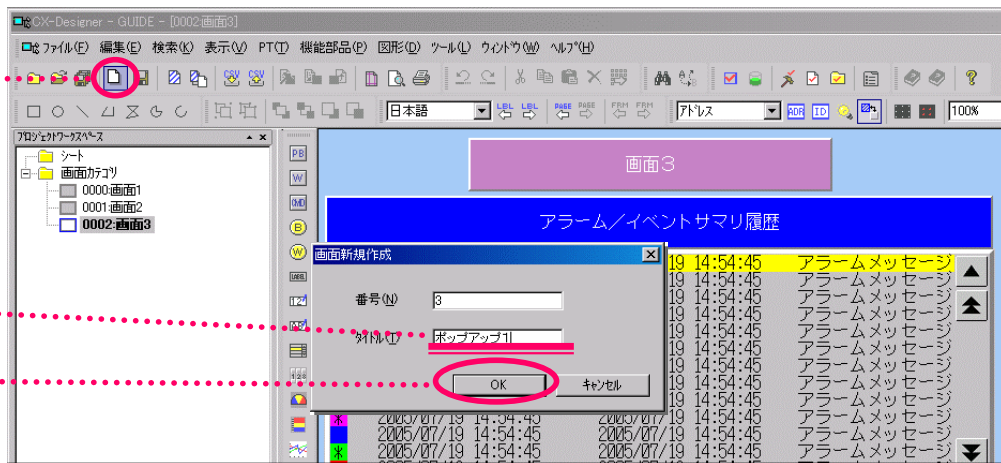
をクリック。

画面新規作成メニューを開きます。

[タイトル(T)]を「ポップアップ1」と入力します。

OK

OKをクリックします。



CX-D
の起動

プロジェクトの
新規作成

プロジェクト
のプロパティ

システム
設定

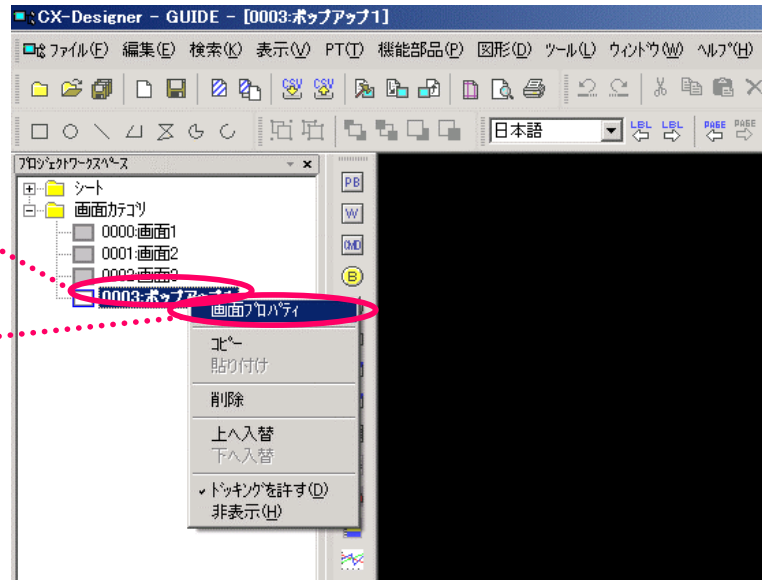
画面作成

エラー
チェック

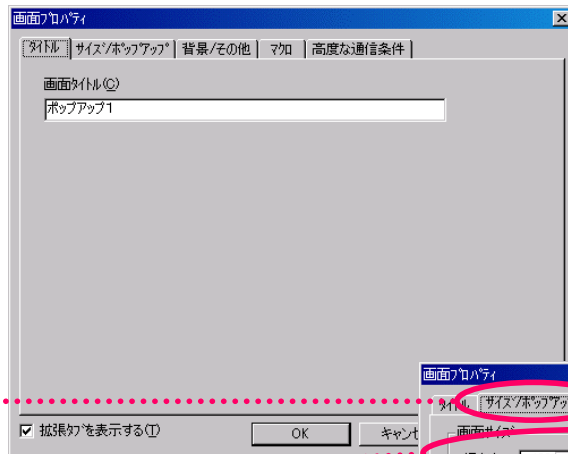
画面転送
本体設定

プロジェクトワークスペースの
[0003:ポップアップ1]を右
クリックしてメニューを表示
します。

表示されたメニューから[画
面プロパティ]をクリックします。



画面プロパティダイアログが
表示されます。



[サイズ / ポップアップ]タブを
クリック。

画面サイズを決めます。

[幅]

→「400」

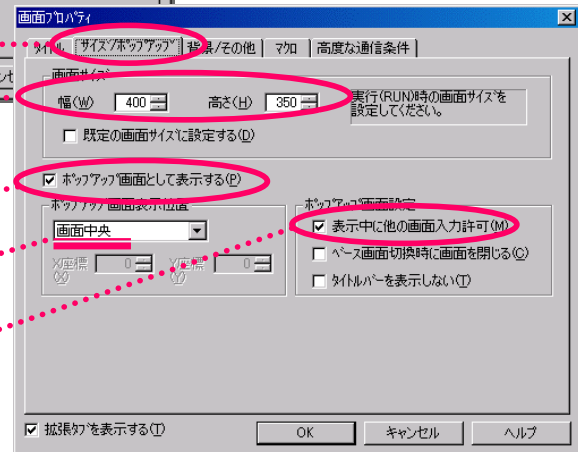
[高さ]

→「350」

[ポップアップ]画面として表示
する(P)]を✓チェック。

[ポップアップ]画面表示位置
→「画面中央」

[ポップアップ]画面設定
→「表示中に他の画面
入力許可(M)」に✓チェック。



CX-D
の起動

プロジェクトの
新規作成

プロジェクト
のプロパティ

システム
設定

画面作成

エラー
チェック

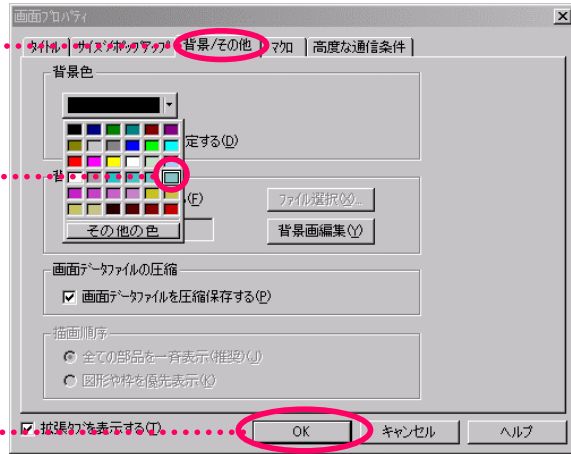
画面転送
本体設定

[背景/その他]タブを
クリックします。

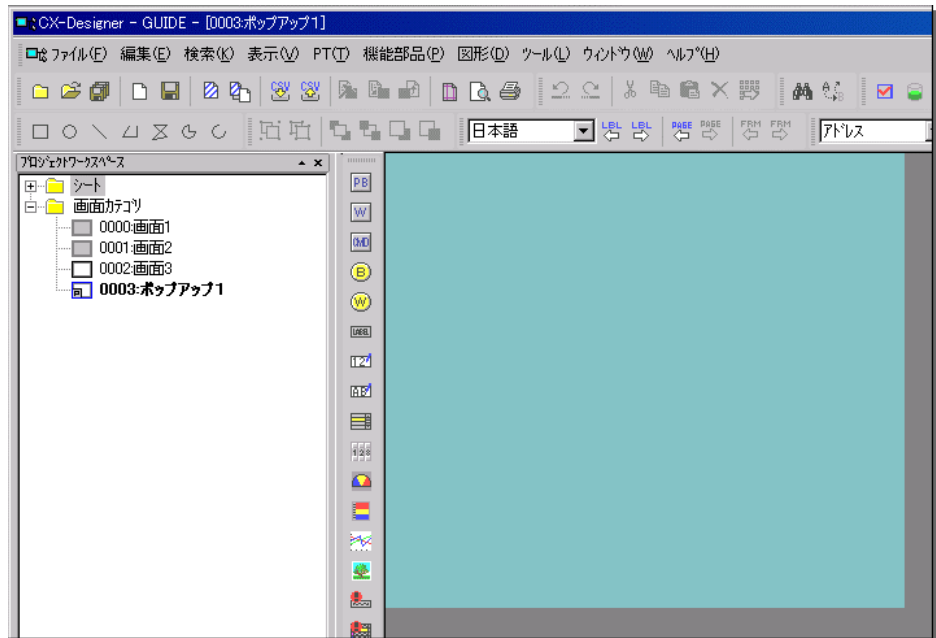
背景色 
をクリックして表示されて
いる色選択ダイアログから
背景色を選択します。

OK

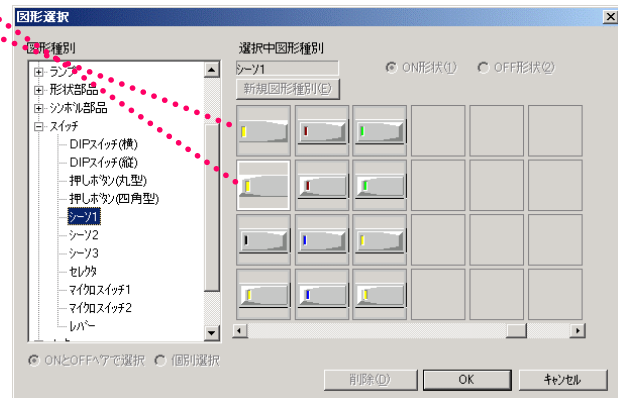
OKをクリックします。



—画面サイズがポップアップ画面のサイズになります—



一般タブ
[書込アドレス]
→「HOST1:00001.00」
[動作]
→「オルタネート」
[種類]
→「形状指定(Type1)」
[形状1]
→  をクリックして図形
選択ダイアログを表示し
スイッチを選択する
[形状2]
→  をクリックして図形
選択ダイアログを表示し
スイッチを選択する



CX-D
の起動

プロジェクトの
新規作成

プロジェクト
のプロパティ

システム
設定

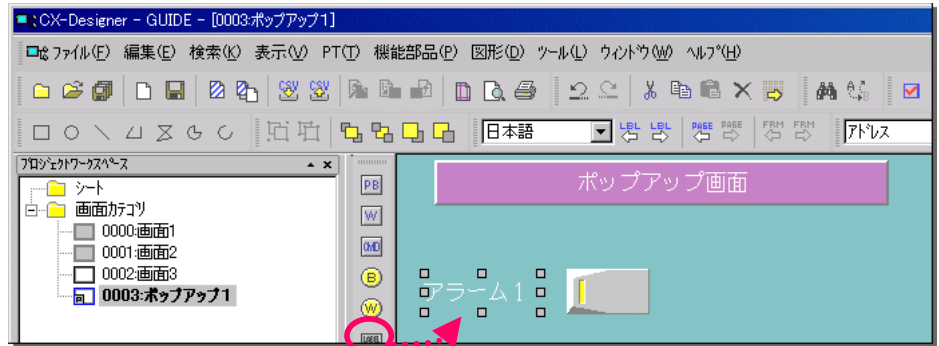
画面作成

エラー
チェック

画面転送
本体設定

「9. ラベルの表示」を参考
にして、右図の様に、
ラベルを作成します。

[銘板]
→「アラーム1」



繰り返し機能を使用して
6個のON/OFFボタン、ラベ
ルを作成します。

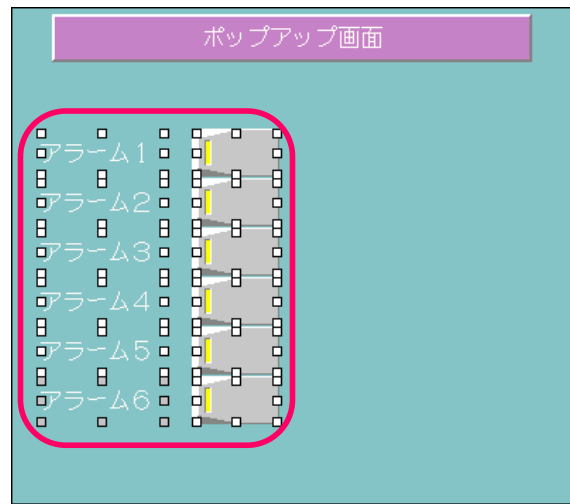
繰り返し機能

[個数]
横(H)→「1」 縦(V)→「6」
[部品と部品の間隔]
横(H)→「0」 縦(V)→「0」

[通信アドレスオフセット(A)]→「1」

に設定します。

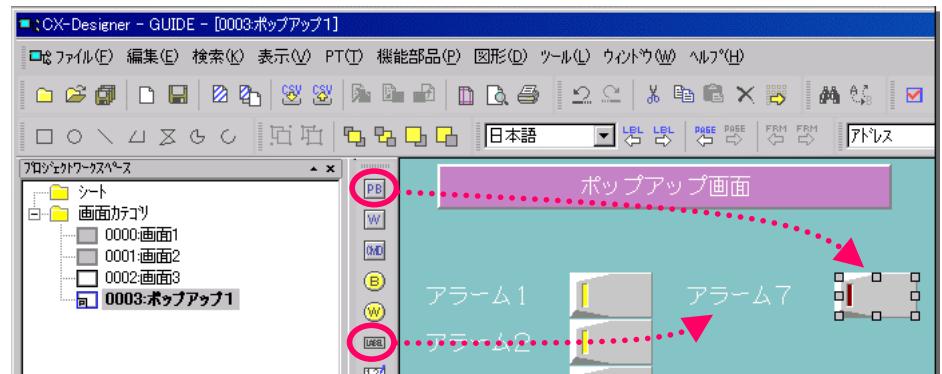
ラベル部品の銘板を「アラ
ーム1～6」にします。



「アラーム1」のON/OFFボ
タン、ラベルを作成した手
順を参考に「アラーム7」の
ON/OFFボタン、ラベルを作
成します。

作成したラベル部品のプロパ
ティリストで以下の設定を行
います。

[銘板]
→「アラーム7」



作成したON/OFFボタン部品の
プロパティリストで以下の設定を
行います。

- 一般タブ
- [書込アドレス]
→「HOST1:00002.00」
- [動作]
→「オルタネート」
- [種類]
→「形状指定(Type1)」
- [形状1]
→ をクリックして図形
選択ダイアログを表示し
スイッチを選択する
「SS1042.vec」
- [形状2]
→ をクリックして図形
選択ダイアログを表示し
スイッチを選択する
「SS1043.vec」

プロパティリスト

ON/OFFボタン: PB0014

項目	間	設定値
コメント		
アドレス		
通信アドレス		
書込アドレス		HOST1:00002.00
表示アドレス1		
表示アドレス2		
スタイル		
動作		オルタネート
セット値		0
増減値		0
ポップアップ設定		Push
機能選択		Push
種類		形状指定(Type1)
形状1		SS1042.vec
形状2		SS1043.vec
形状3		
形状4		
形状5		
形状6		
形状7		
形状8		
形状9		
形状10		
タッチスイッチ入力音を グループ指定		グループなし
格納形式		

一般 文字 レイアウト/特 動作 マクロ 共通

図形選択

図形種別

選択中図形種別

新規図形種別(E)

ON形状(1) OFF形状(2)

シーン1

シーン2

シーン3

セクタ

マイクスイッチ1

マイクスイッチ2

レバー

ONとOFFで選択 個別選択

前戻(D) OK キャンセル

繰り返し機能を使用して
6個のON/OFFボタン、ラベ
ルを作成します。

繰り返し機能

- [個数]
横(H)→「1」 縦(V)→「6」
- [部品と部品の間隔]
横(H)→「0」 縦(V)→「0」
- [通信アドレスオフセット(A)]→「1」

に設定します。

ラベル部品の銘板を「アラ
ーム7～12」にします。

ポップアップ画面

アラーム1

アラーム2

アラーム3

アラーム4

アラーム5

アラーム6

アラーム7

アラーム8

アラーム9

アラーム10

アラーム11

アラーム12

CX-D
の起動

プロジェクトの
新規作成

プロジェクト
のプロパティ

システム
設定

画面作成

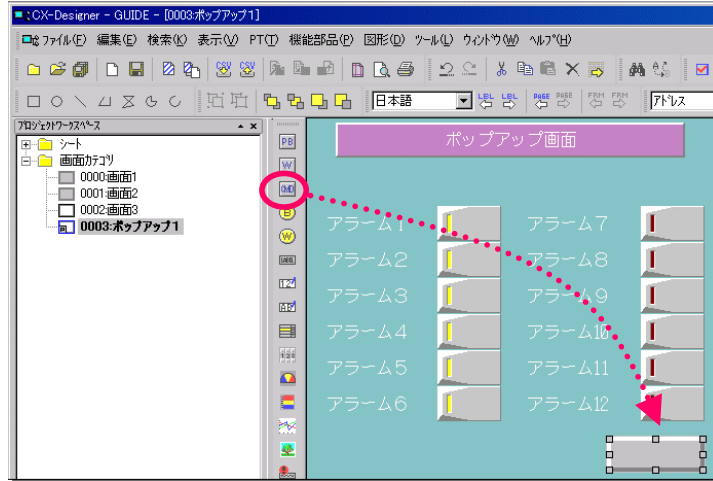
エラー
チェック

画面転送
本体設定

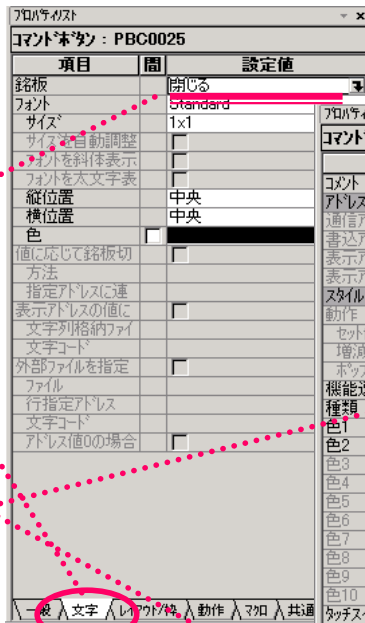
機能部品一覧から



コマンドボタンを選びます。



作成した部品のプロパティリストで
以下の設定を行います。

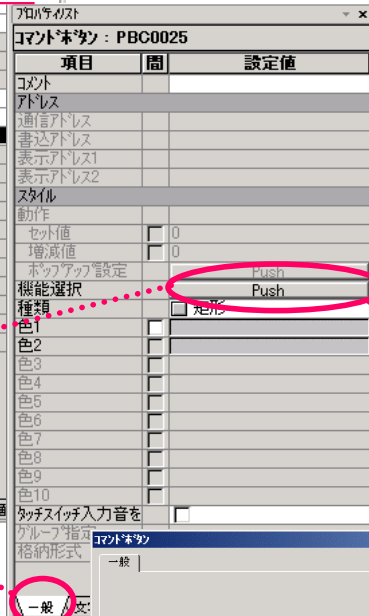


文字タブ
[銘板]
→「閉じる」

一般タブ
[機能選択]

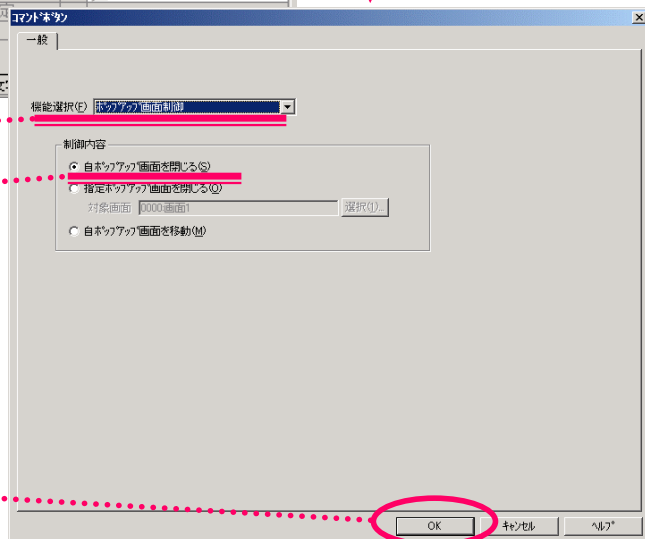
Push

Pushをクリックします。



[機能選択(F)]
→「ポップアップ」画面制御」

[制御内容]
→「自ポップアップ」画面を閉じ
る(S)」



OK

OKをクリックします。

20. シート

ここで行うこと

シートとは通常の画面に重ね合わせて表示させることのできる画面です。

複数の画面に共通に使用されている機能部品(例えば画面切り換えボタン等)をこのシートとして登録すれば画面ごとにシートを適用するか否かを設定するだけで適用した全画面で共通部品を使用できます。

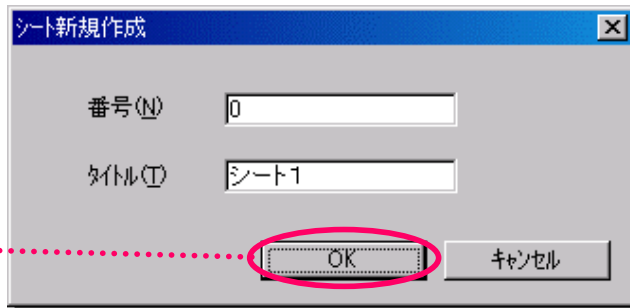
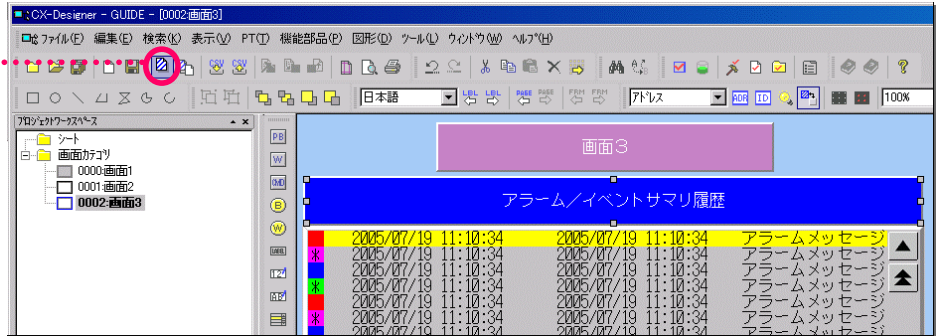
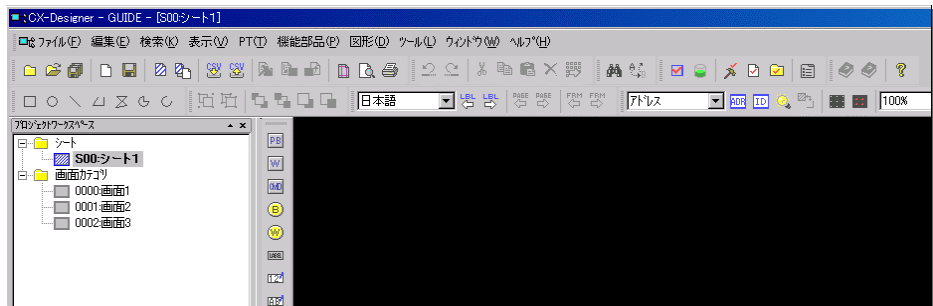
本ガイドでは、シート内に画面1～3で共通で使用する、銘板切換ボタン、ポップアップ表示ボタン、画面切換ボタンを作成します。

シート新規作成メニュー
を開きます。

[タイトル(T)]を「シート1」にします。

OK

OKをクリックします。

新規シートが作成
されました。

21. ワードボタン・コマンドボタン

21-1. 銘板切替えボタン

ここで行うこと

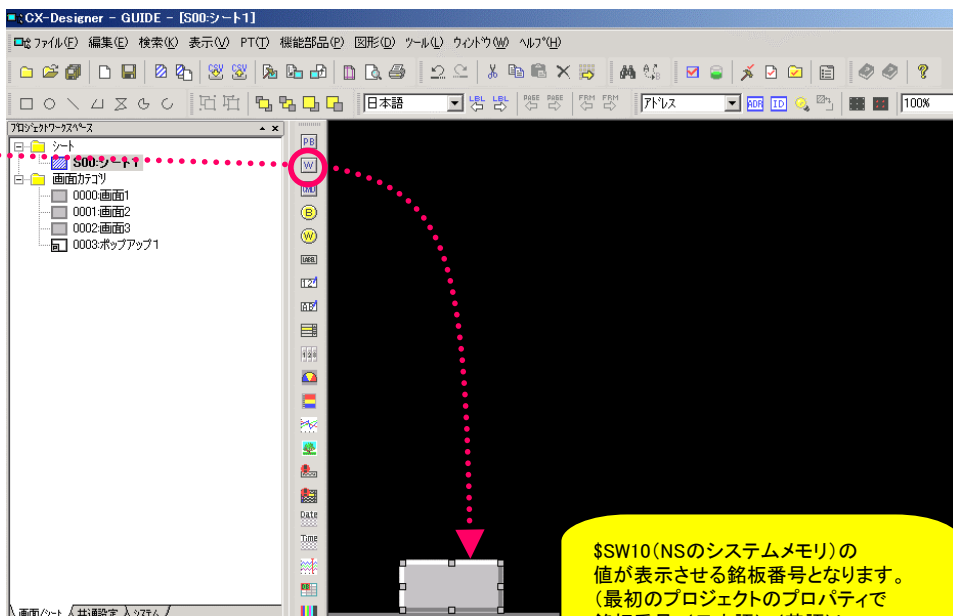
ワードボタンを使用します。ワードボタンとは、ボタンを押したときに指定通信アドレスに数値を書き込む、または指定通信アドレスの値を増減させるためのボタンです。ポップアップメニューから項目を選択して指定値を書き込むことも可能です。

本ガイドでは、ポップアップメニューを使用して、銘板を切り換えるボタン(ここでは日英切り換え)を作成します。

機能部品一覧から



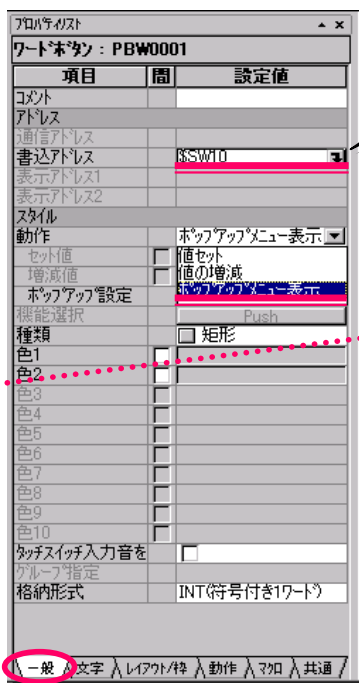
ワードボタンを選びます。



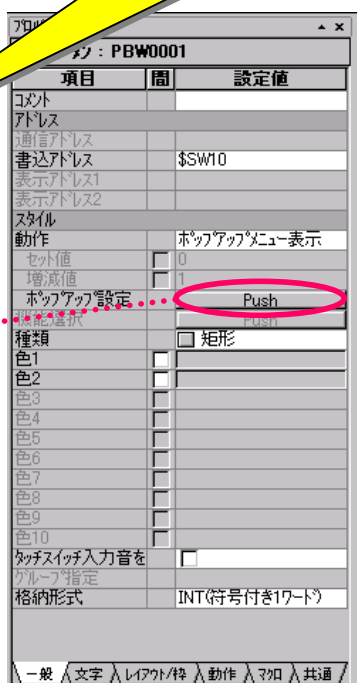
\$SW10(NSのシステムメモリ)の値が表示させる銘板番号となります。(最初のプロジェクトのプロパティで銘板番号0(日本語)1(英語)に設定した内容が反映されます。)

作成した部品のプロパティリストで以下の設定を行います。

一般タブ
[書込アドレス]
→「\$SW10」
[動作]
→「ポップアップメニュー表示」



一般タブの
[ポップアップ設定]の
Pushボタンをクリックします。



CX-D
の起動

プロジェクトの
新規作成

プロジェクト
のプロパティ

システム
設定

画面作成

エラー
チェック

画面転送
本体設定

追加(A)...

追加(A)をクリックします。

ポップアップ設定に
[1]

[メニュー項目名]
→「日本語」

[設定値]
→「0」

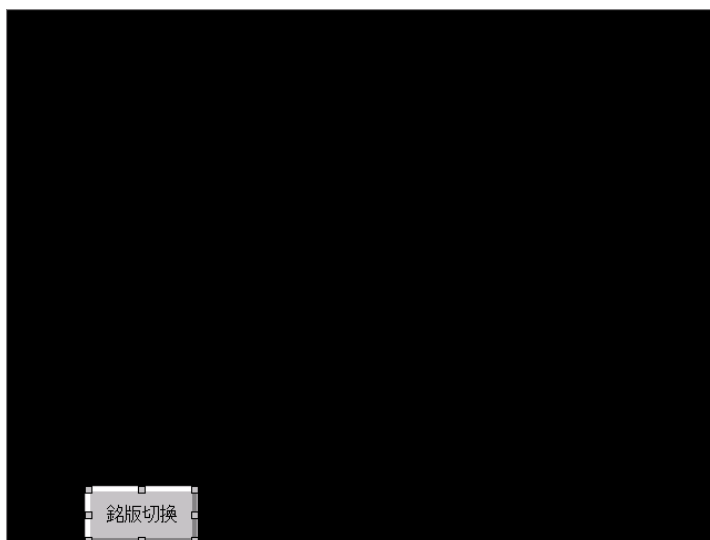
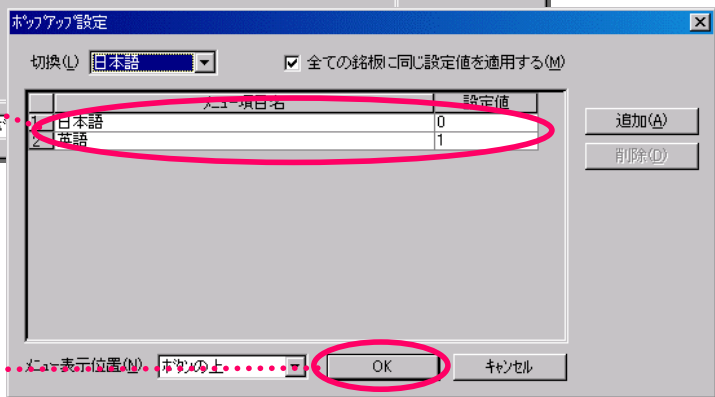
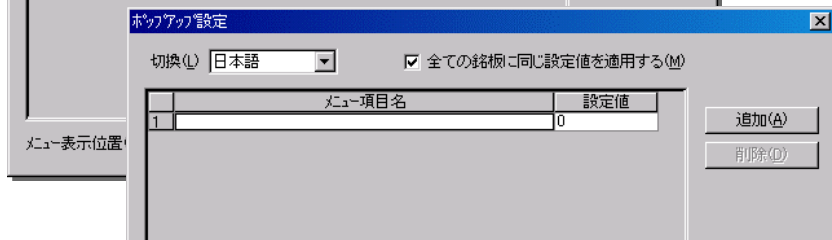
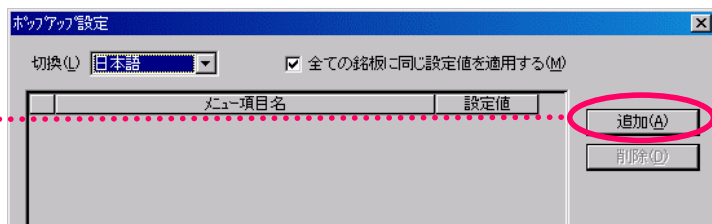
[2]
[メニュー項目名]
→「英語」

[設定値]
→「1」

を追加します。

OK

OKをクリックします。



CX-D
の起動

プロジェクトの
新規作成

プロジェクト
のプロパティ

システム
設定

画面作成

エラー
チェック

画面転送
本体設定

21-2.画面切り換えボタン

ここで行うこと

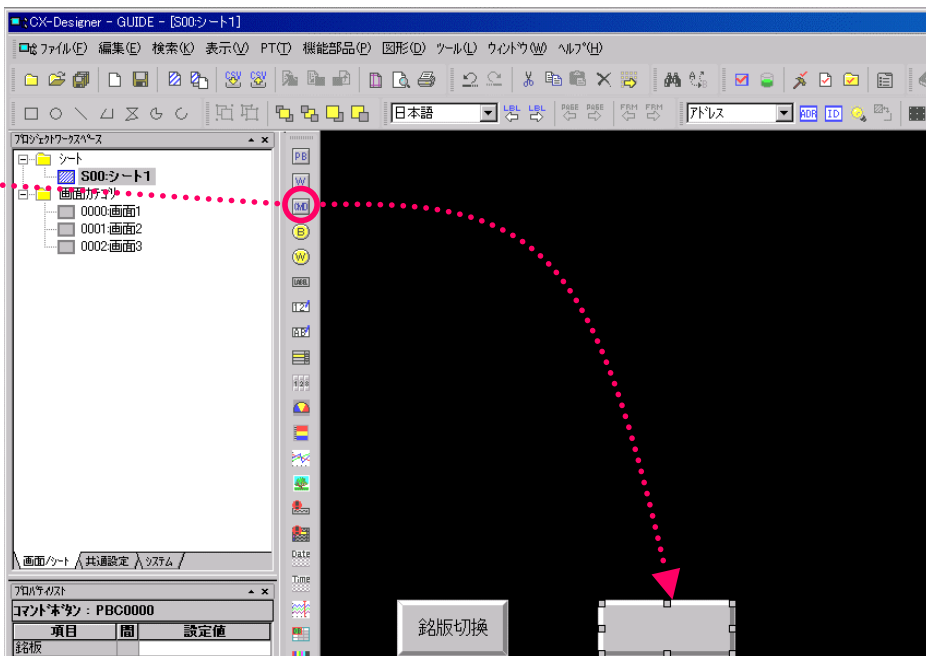
コマンドボタンを使用します。コマンドボタンとは、画面の切り換え、文字コードの送信などを行う部品です。
本ガイドでは、仮想アラームのポップアップ画面、画面1～3の画面切換を行います。

まず、作成したシート上にポップアップ画面を表示するためのコマンドボタンを作成します。

機能部品一覧から



コマンドボタンを選びます。



作成した部品のプロパティリストで
以下の設定を行います。

文字タグ
[銘板]
→「仮想アラーム表示」

項目	間	設定値
銘板		仮想アラーム
フォント		Standard
サイズ		1x1
サイズを自動調整		☐
フォントを斜体表示		☐
フォントを太文字表示		☐
縦位置		中央
横位置		中央
色		
値に応じて銘板切		☐
方法		
指定アドレスに連		
表示アドレスの値に		
文字列格納タイ		
文字コード		
外部リンクを指定		☐
ファイル		
行指定アドレス		
文字コード		
アドレス値0の場合		☐

一般タブの[機能選択]の
Pushボタンをクリックします。

項目	間	設定値
コメント		
アドレス		
通信アドレス		
書き込みアドレス		
表示アドレス1		
表示アドレス2		
スタイル		
動作		
セット値		0
増減値		0
ポップアップ設定		
機能選択		Push
種類		Push
色1		
色2		
色3		
色4		
色5		
色6		
色7		
色8		
色9		
色10		
タッチスイッチ入力音を		
グループ指定		
格納形式		

CX-D
の起動

プロジェクトの
新規作成

プロジェクト
のプロパティ

システム
設定

画面作成

エラー
チェック

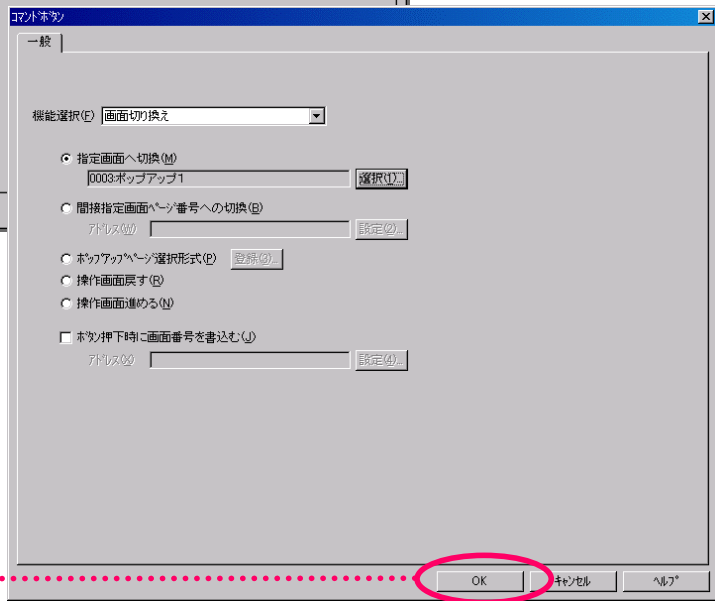
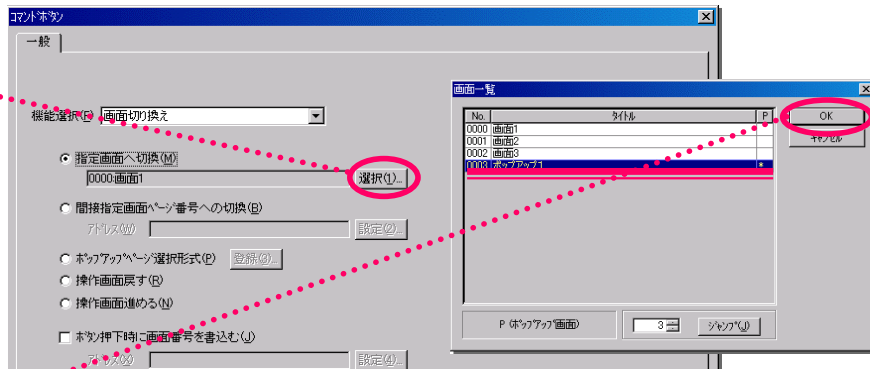
画面転送
本体設定

[選択(1)]ボタンをクリックし
ます。

画面一覧ダイアログが表示
されたら「ポップアップ1」を
選択して、

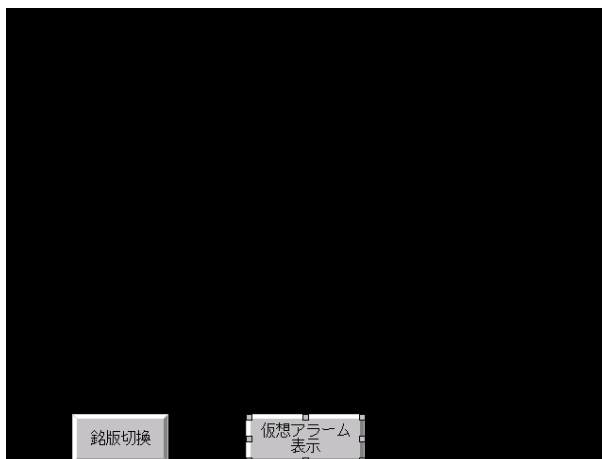
OK

OKをクリックします。



OK

OKをクリックします。



CX-D
の起動

プロジェクトの
新規作成

プロジェクト
のプロパティ

システム
設定

画面作成

エラー
チェック

画面転送
本体設定

「仮想アラーム表示」を作成した手順で、画面1～画面3の画面切替(コマンド)ボタンを作成します。

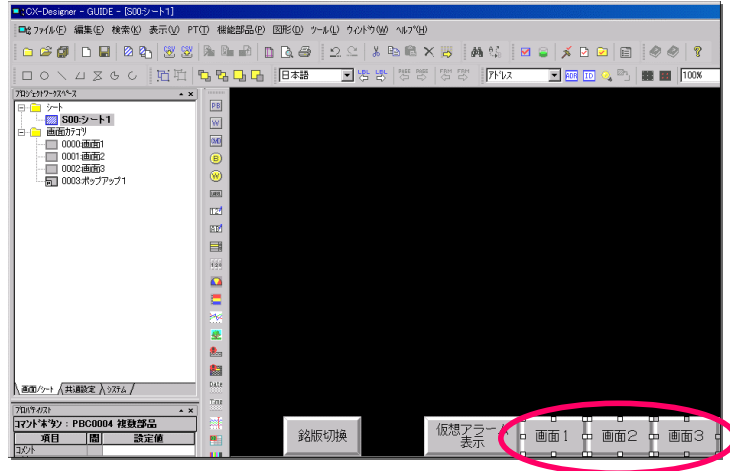
プロパティリストで[機能選択]の右側のPUSHボタンをクリックし、表示されたダイアログで以下のように設定します。
で[指定画面へ切替]を設定します。

[画面1]
[指定画面へ切替]
→「0000:画面1」

[画面2]
[指定画面へ切替]
→「0001:画面2」

[画面3]
[指定画面へ切替]
→「0002:画面3」

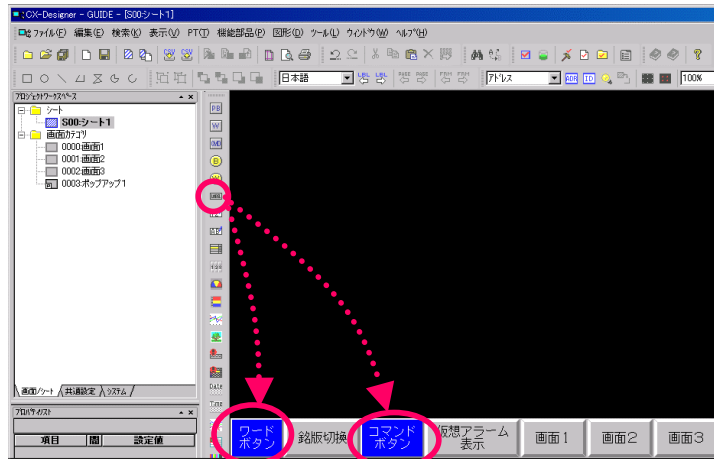
次に、画面を切替えるボタンを作成します。



「9. ラベルの表示」を参考にして、右図の様に、2つラベルを作成します。

[銘板]
→「ワードボタン」

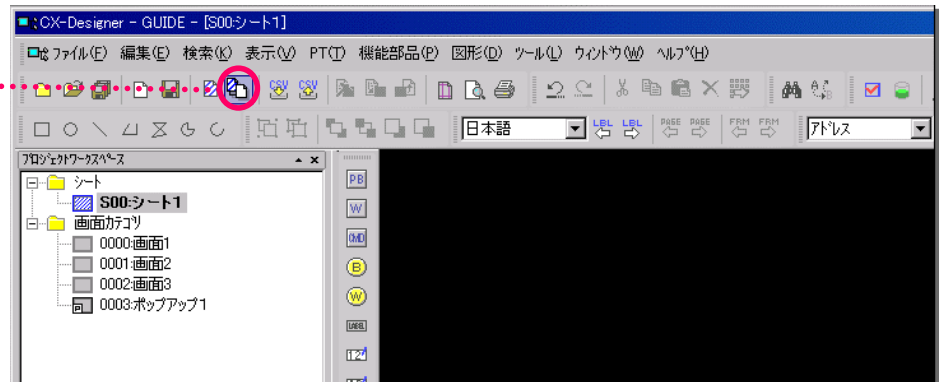
[銘板]
→「コマンドボタン」

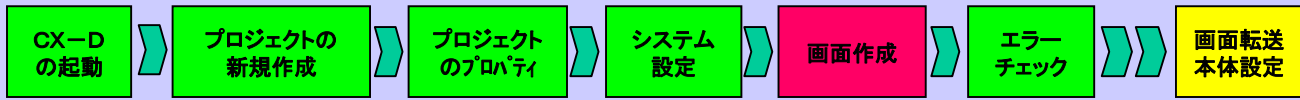


作成したシートを実際に表示させるための設定を行います。



シートの適用設定ボタンをクリックします。





右図のように、画面番号0000～0002のシート0の欄のチェックボックスをONにします。

画面番号 シート番号

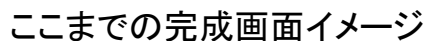
画面番号	シート0	シート1	シート2	シート3	シート4	シート5	シート6	シート7	シート8	シート9	タイトル	ポップアップ°
0000	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	画面1	
0001	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	画面2	
0002	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	画面3	
0003	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	ポップアップ1 *	

プレビュー(P)

OK キャンセル

OK

OKをクリックします。



CX-D
の起動

プロジェクトの
新規作成

プロジェクト
のプロパティ

システム
設定

画面作成

エラー
チェック

画面転送
本体設定

22. 英語版の作成

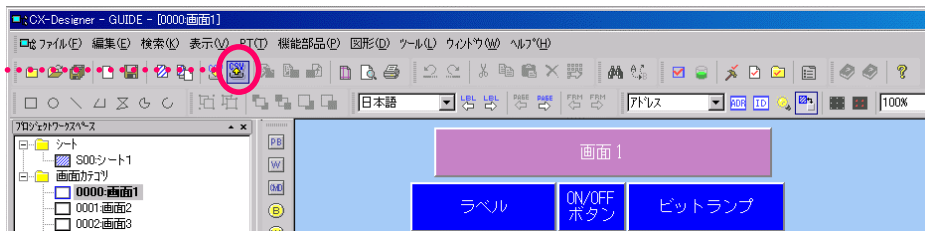
22-1. 英語版の銘板の作成

ここで行うこと

銘板は、各部品ごと最大16種類設定することができます。
本ガイドでは、1つのプロジェクトで日本語と英語に対応するプロジェクトにします。



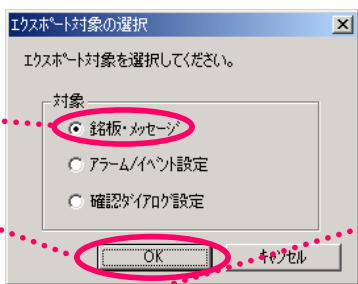
[CSVファイルへエクスポート]ボ
タンをクリックします。



[対象]から「銘板・メッセージ」
をクリックします。

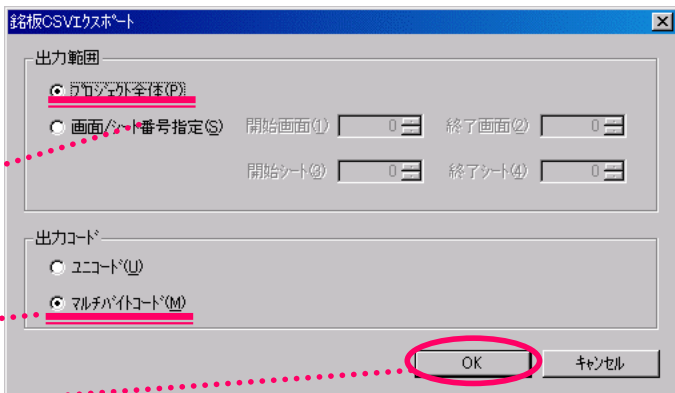
OK

OKをクリックします。



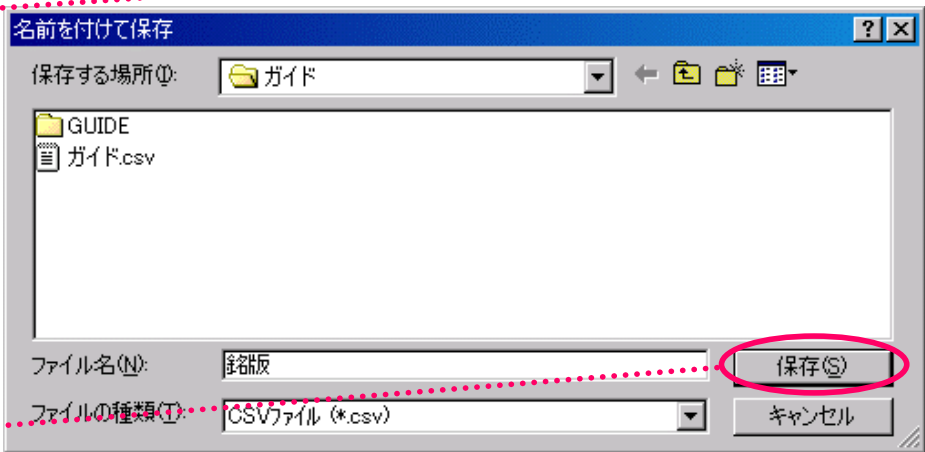
[出力範囲]から「プロジェクト全
体(P)」をクリックします。

[出力コード]から「マルチバイトコ
ード(M)」をクリックします。



OK

OKをクリックします。



任意のファイル名
(ここでは「銘板」)をつけて

保存(S)

保存(S)をクリックします。

OK

OKをクリックします。



CX-D
の起動

プロジェクトの
新規作成

プロジェクト
のプロパティ

システム
設定

画面作成

エラー
チェック

画面転送
本体設定

前頁で保存したファイルをEXCELで読み出します。([データ(D)]メニュー-[外部データの取り込み]-[テキストファイルのインポート])

Microsoft Excel - 銘板.csv

	A	B	C	D	E	F
1	PRJ					
2	Project/Screen	Title	Parts ID	Parts Com	Property	
3	Project				AlarmMess:	アラーム1
4	Project				AlarmMess:	アラーム2
5	Project				AlarmMess:	アラーム3
6	Project				AlarmMess:	アラーム4
7	Project				AlarmMess:	アラーム5
8	Project				AlarmMess:	アラーム6
9	Project				AlarmMess:	アラーム7
10	Project				AlarmMess:	アラーム8
11	Project				AlarmMess:	アラーム9



Microsoft Excel - Book1

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
22	Screen-0	画面1	PB0002		Caption-OFF				
23	Screen-0	画面1	PB0002		Caption-ON				
24	Screen-0	画面1	PB0003		Caption-OFF				
25	Screen-0	画面1	PB0003		Caption-ON				
26	Screen-0	画面1	PB0004		Caption-OFF				
27	Screen-0	画面1	PB0004		Caption-ON				
28	Screen-0	画面1	PB0005		Caption-OFF				
29	Screen-0	画面1	PB0005		Caption-ON				
30	Screen-0	画面1	PB0006		Caption-OFF				
31	Screen-0	画面1	PB0006		Caption-ON				
32	Screen-0	画面1	LBL0007		Caption				
33	Screen-0	画面1	LBL0008		Caption				
34	Screen-0	画面1	LBL0009		Caption				
35	Screen-0	画面1	LBL0010		Caption				
36	Screen-0	画面1	LBL0011		Caption				
37	Screen-0	画面1	LBL0012		Caption				
38	Screen-0	画面1	LBL0013		Caption				
39	Screen-0	画面1	PL0014		Caption-OFF				
40	Screen-0	画面1	PL0014		Caption-ON				
41	Screen-0	画面1	PL0015		Caption-OFF				
42	Screen-0	画面1	PL0015		Caption-ON				
43	Screen-0	画面1	PL0016		Caption-OFF				
44	Screen-0	画面1	PL0016		Caption-ON				
45	Screen-0	画面1	PL0017		Caption-OFF				
46	Screen-0	画面1	PL0017		Caption-ON				
47	Screen-0	画面1	PL0018		Caption-OFF				
48	Screen-0	画面1	PL0018		Caption-ON				
49	Screen-1	画面2	LBL0000		Caption				
50	Screen-1	画面2	LBL0001		Caption				
51	Screen-1	画面2	LBL0003		Caption				
52	Screen-1	画面2	LBL0004		Caption				
53	Screen-1	画面2	PL0005		Caption				
54	Screen-1	画面2	PL0006		Caption				
55	Screen-1	画面2	PL0007		Caption				
56	Screen-1	画面2	PL0008		Caption				
57	Screen-1	画面2	PL0009		Caption				
58	Screen-1	画面2	PL0010		Caption				
59	Screen-1	画面2	PL0011		Caption				
60	Screen-1	画面2	PL0012		Caption				
61	Screen-1	画面2	PL0013		Caption				

[画面1]の日本語に対する
英語を入力します。

CX-D
の起動

プロジェクトの
新規作成

プロジェクト
のプロパティ

システム
設定

画面作成

エラー
チェック

画面転送
本体設定

[画面2]及び[画面3]の日本語
に対する英語を入力します。

文字列中の「¥n」は改行を意
味します。

Microsoft Excel - 銘板.csv

画面2～3

日本語

英語

	A	B	C	D	E	F	G
49	Screen-1	画面2	LBL0000		Caption	画面2	Display2
50	Screen-1	画面2	LBL0001		Caption	フレーム	FRAME
51	Screen-1	画面2	LBL0003		Caption	軽度アラーム表示	LOW ALARM
52	Screen-1	画面2	LBL0004		Caption	重度アラーム表示	HIGH ALARM
53	Screen-1	画面2	PL0005		Caption		
54	Screen-1	画面2	PL0006		Caption		
55	Screen-1	画面2	PL0007		Caption		
56	Screen-1	画面2	PL0008		Caption		
57	Screen-1	画面2	PL0009		Caption		
58	Screen-1	画面2	PL0010		Caption		
59	Screen-1	画面2	PL0011		Caption		
60	Screen-1	画面2	PL0012		Caption		
61	Screen-1	画面2	PL0013		Caption		
62	Screen-1	画面2	PL0014		Caption		
63	Screen-1	画面2	PL0015		Caption		
64	Screen-1	画面2	PL0016		Caption		
65	Screen-1	画面2	LBL0017		Caption	アラーム1	ALARM 1
66	Screen-1	画面2	LBL0018		Caption	アラーム2	ALARM 2
67	Screen-1	画面2	LBL0019		Caption	アラーム3	ALARM 3
68	Screen-1	画面2	LBL0020		Caption	アラーム4	ALARM 4
69	Screen-1	画面2	LBL0021		Caption	アラーム5	ALARM 5
70	Screen-1	画面2	LBL0022		Caption	アラーム6	ALARM 6
71	Screen-1	画面2	LBL0023		Caption	アラーム7	ALARM 7
72	Screen-1	画面2	LBL0024		Caption	アラーム8	ALARM 8
73	Screen-1	画面2	LBL0025		Caption	アラーム9	ALARM 9
74	Screen-1	画面2	LBL0026		Caption	アラーム10	ALARM 10
75	Screen-1	画面2	LBL0027		Caption	アラーム11	ALARM 11
76	Screen-1	画面2	LBL0028		Caption	アラーム12	ALARM 12
77	Screen-1	画面2	LBL0029		Caption	現在値	Present value
78	Screen-1	画面2	LBL0030		Caption	設定値	Set value
79	Screen-1	画面2	LBL0034		Caption	ラベル	LABEL
80	Screen-1	画面2	LBL0035		Caption	数値¥n入力表示	Numeric ¥nInput display
81	Screen-1	画面2	LBL0036		Caption	ワード¥nボタン	WORD¥nBUTTON
82	Screen-1	画面2	PBW0037		Caption	転送	Forwarding
83	Screen-2	画面3	LBL0000		Caption	画面3	Display3
84	Screen-2	画面3	LBL0001		Caption	アラーム／イベント表示	ALARM/EVENT DISPLAY
85	Screen-2	画面3	LBL0004		Caption	アラーム／イベントサ	ALARM/EVENT HISTO
86	Screen-3	ポップアップ1	LBL0000		Caption	ポップアップ画面	Popup Display
87	Screen-3	ポップアップ1	PB0001		Caption-OFF		
88	Screen-3	ポップアップ1	PB0001		Caption-ON		

図形の調整 (F6) オートシェイプ (W) コマンド

NUM

CX-D
の起動

プロジェクトの
新規作成

プロジェクト
のプロパティ

システム
設定

画面作成

エラー
チェック

画面転送
本体設定

[ポップアップ1]の日本語に対
する英語を入力します。

文字列中の「¥n」は改行を意
味します。

Microsoft Excel - 銘板.csv

日本語

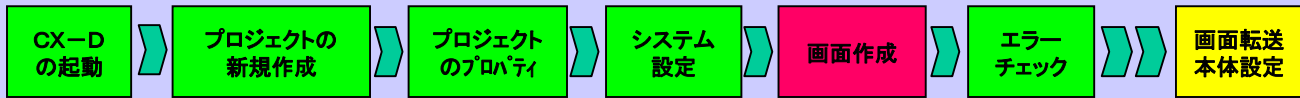
英語

ポップアップ1

	A	B	C	D	E	F	G	H
86	Screen-3	ポップアップ1	LBL0000		Caption	ポップアップ画面	Popup Display	
87	Screen-3	ポップアップ1	PB0001		Caption-OFF			
88	Screen-3	ポップアップ1	PB0001		Caption-ON			
89	Screen-3	ポップアップ1	LBL0002		Caption	アラーム1	ALARM 1	
90	Screen-3	ポップアップ1	PB0003		Caption-OFF			
91	Screen-3	ポップアップ1	PB0003		Caption-ON			
92	Screen-3	ポップアップ1	LBL0004		Caption	アラーム2	ALARM 2	
93	Screen-3	ポップアップ1	PB0005		Caption-OFF			
94	Screen-3	ポップアップ1	PB0005		Caption-ON			
95	Screen-3	ポップアップ1	LBL0006		Caption	アラーム3	ALARM 3	
96	Screen-3	ポップアップ1	PB0007		Caption-OFF			
97	Screen-3	ポップアップ1	PB0007		Caption-ON			
98	Screen-3	ポップアップ1	LBL0008		Caption	アラーム4	ALARM 4	
99	Screen-3	ポップアップ1	PB0009		Caption-OFF			
100	Screen-3	ポップアップ1	PB0009		Caption-ON			
101	Screen-3	ポップアップ1	LBL0010		Caption	アラーム5	ALARM 5	
102	Screen-3	ポップアップ1	PB0011		Caption-OFF			
103	Screen-3	ポップアップ1	PB0011		Caption-ON			
104	Screen-3	ポップアップ1	LBL0012		Caption	アラーム6	ALARM 6	
105	Screen-3	ポップアップ1	LBL0013		Caption	アラーム7	ALARM 7	
106	Screen-3	ポップアップ1	PB0014		Caption-OFF			
107	Screen-3	ポップアップ1	PB0014		Caption-ON			
108	Screen-3	ポップアップ1	LBL0015		Caption	アラーム8	ALARM 8	
109	Screen-3	ポップアップ1	PB0016		Caption-OFF			
110	Screen-3	ポップアップ1	PB0016		Caption-ON			
111	Screen-3	ポップアップ1	LBL0017		Caption	アラーム9	ALARM 9	
112	Screen-3	ポップアップ1	PB0018		Caption-OFF			
113	Screen-3	ポップアップ1	PB0018		Caption-ON			
114	Screen-3	ポップアップ1	LBL0019		Caption	アラーム10	ALARM 10	
115	Screen-3	ポップアップ1	PB0020		Caption-OFF			
116	Screen-3	ポップアップ1	PB0020		Caption-ON			
117	Screen-3	ポップアップ1	LBL0021		Caption	アラーム11	ALARM 11	
118	Screen-3	ポップアップ1	PB0022		Caption-OFF			
119	Screen-3	ポップアップ1	PB0022		Caption-ON			
120	Screen-3	ポップアップ1	LBL0023		Caption	アラーム12	ALARM 12	
121	Screen-3	ポップアップ1	PB0024		Caption-OFF			
122	Screen-3	ポップアップ1	PB0024		Caption-ON			
123	Screen-3	ポップアップ1	LBL0026		Caption	ラベル	LABEL	
124	Screen-3	ポップアップ1	LBL0027		Caption	ON/OFF¥nボタン	ON/OFF¥nBUTTON	
125	Screen-3	ポップアップ1	LBL0028		Caption	ラベル	LABEL	
126	Screen-3	ポップアップ1	LBL0029		Caption	ON/OFF¥nボタン	ON/OFF¥nBUTTON	
127	Screen-3	ポップアップ1	PB00030		Caption	閉じる	Close	

図形の調整 (F) | オートシェイプ (W) | コマンド

NUM



[シート]の日本語に対する英語を入力します。

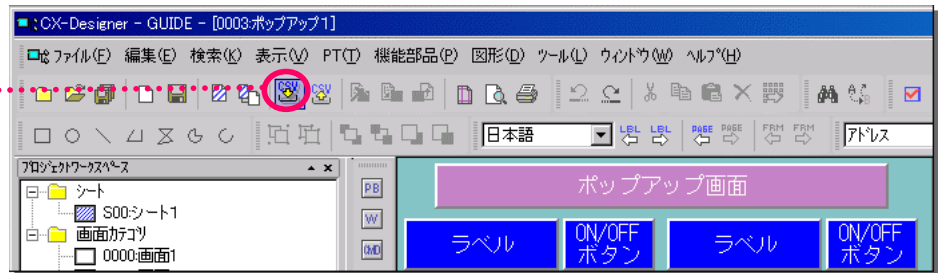
文字列中の「¥n」は改行を意味します。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
128	Sheet-0	シート1	PBC0000		Caption	画面1	Display1		
129	Sheet-0	シート1	PBW0001		Caption	銘板切換	LANGUAGE¥nCHANGE		
130	Sheet-0	シート1	PBW0001		MenuName	日本語	Japanese		
131	Sheet-0	シート1	PBW0001		MenuName	英語	English		
132	Sheet-0	シート1	PBC0002		Caption	仮想アラーム¥n表示	VIRTUAL ALARM¥nDISPLAY		
133	Sheet-0	シート1	PBC0003		Caption	画面2	Display2		
134	Sheet-0	シート1	PBC0004		Caption	画面3	Display3		
135	Sheet-0	シート1	LBL0005		Caption	ワード¥nボタン	WORD¥nBUTTON		
136	Sheet-0	シート1	LBL0006		Caption	コマンド¥nボタン	COMMAND¥nBUTTON		
137									

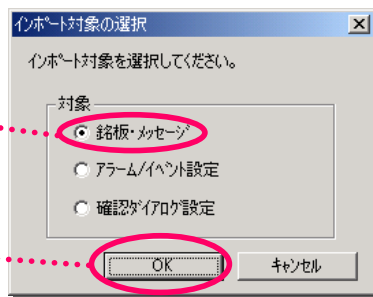
編集が完了したらファイルを上書き保存します。



[CSVファイルからインポート]ボタンをクリックします。

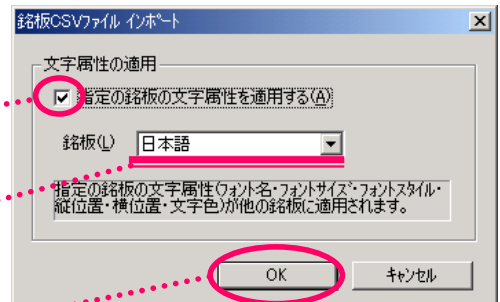


[対象]から「銘板・メッセージ」をクリックします。



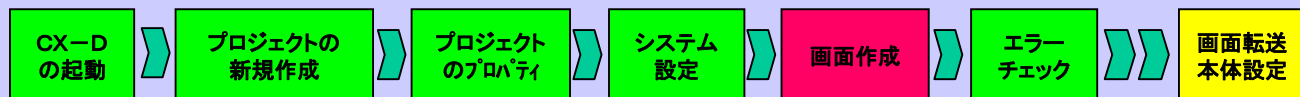
OKをクリックします。

[指定の銘板の文字属性を適用する(A)]に ✓ します。

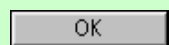
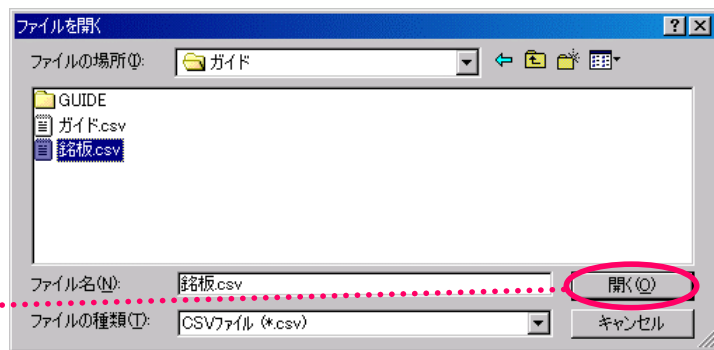


[銘板(L)]から「日本語」を選択します。

OKをクリックします。

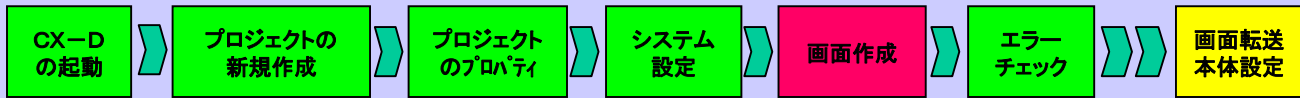


先ほど指定したファイル名を記入して[開く(O)]ボタンをクリックします。



OKをクリックします。





日本語版
画面1

英語版
画面1

画面2

画面2

画面3

画面3

ポップアップ画面

ポップアップ画面

22-2. 英語版のアラーム/イベント設定

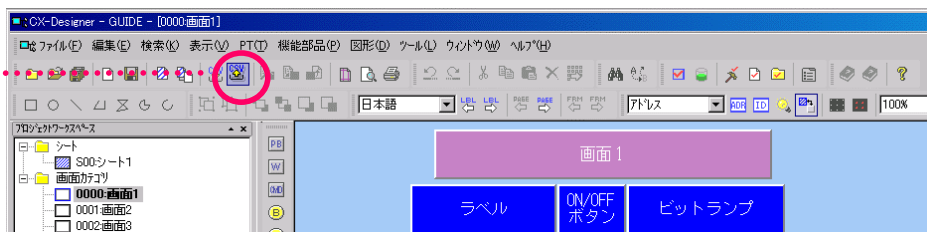
ここで行うこと

アラーム／イベントの英語版を設定します。

本ガイドでは、1つのプロジェクトで日本語と英語に対応するプロジェクトにします。



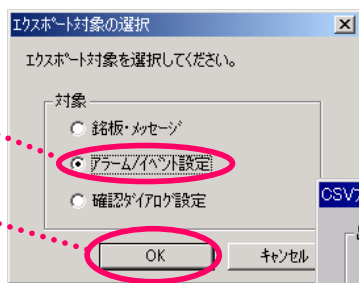
[CSVファイルへエクスポート]
ボタンをクリックします。



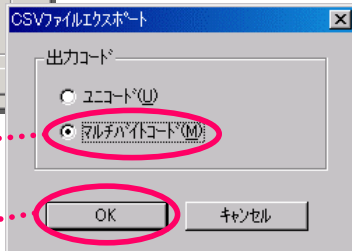
[対象]から[アラーム/イベント設
定]をクリックします。

OK

OKをクリックします。

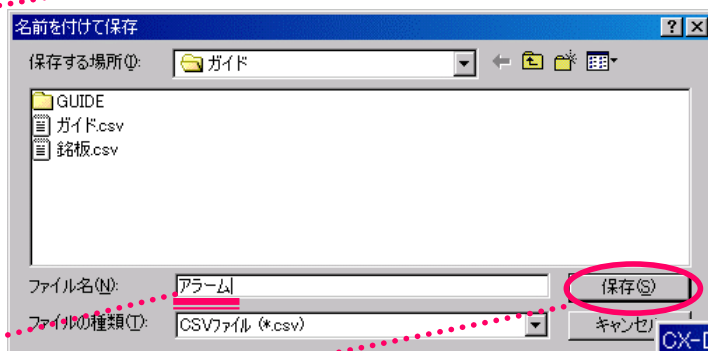


[出力コード]から「マルチバイト
コード(M)」をクリックします。



OK

OKをクリックします。



任意のファイル名
(ここでは「アラーム」)をつけて

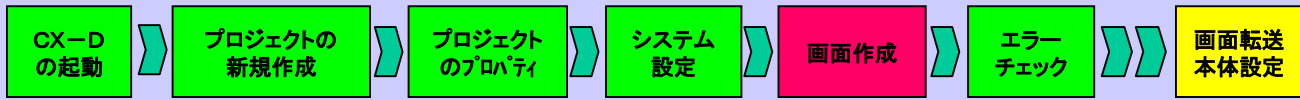
保存(S)

保存(S)をクリックします。



OK

OKをクリックします。



前頁で保存したファイルをEXCELで読み出します。([データ]メニュー-[外部データの取り込み]-[テキストファイルのインポート])

Microsoft Excel - アラーム.csv

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N
1	通信アドレス	優先順位	表示種別	グループ番号	グループ名	自動画面切替	画面番号	自動削除	履歴保存	発生文字列	解除文字列	検知パターン	銘板0アラーム	銘板1アラーム
2	HOST1.000	1	lowalarm	0		FALSE	0	FALSE	TRUE	0	0	posedge	アラーム1	
3	HOST1.000	1	lowalarm	0		FALSE	0	FALSE	TRUE	0	0	posedge	アラーム2	
4	HOST1.000	1	lowalarm	0		FALSE	0	FALSE	TRUE	0	0	posedge	アラーム3	
5	HOST1.000	1	lowalarm	0		FALSE	0	FALSE	TRUE	0	0	posedge	アラーム4	
6	HOST1.000	1	lowalarm	0		FALSE	0	FALSE	TRUE	0	0	posedge	アラーム5	
7	HOST1.000	1	lowalarm	0		FALSE	0	FALSE	TRUE	0	0	posedge	アラーム6	
8	HOST1.000	1	highalarm	0		FALSE	0	FALSE	TRUE	0	0	posedge	アラーム7	
9	HOST1.000	1	highalarm	0		FALSE	0	FALSE	TRUE	0	0	posedge	アラーム8	
10	HOST1.000	1	highalarm	0		FALSE	0	FALSE	TRUE	0	0	posedge	アラーム9	
11	HOST1.000	1	highalarm	0		FALSE	0	FALSE	TRUE	0	0	posedge	アラーム10	
12	HOST1.000	1	highalarm	0		FALSE	0	FALSE	TRUE	0	0	posedge	アラーム11	
13	HOST1.000	1	highalarm	0		FALSE	0	FALSE	TRUE	0	0	posedge	アラーム12	
14	HOST1.000	1	event	0		FALSE	0	FALSE	TRUE	0	0	posedge	1号機運転	
15	HOST1.000	1	event	0		FALSE	0	FALSE	TRUE	0	0	posedge	2号機運転	
16	HOST1.000	1	event	0		FALSE	0	FALSE	TRUE	0	0	posedge	3号機運転	
17	HOST1.000	1	event	0		FALSE	0	FALSE	TRUE	0	0	posedge	4号機運転	
18	HOST1.000	1	event	0		FALSE	0	FALSE	TRUE	0	0	posedge	5号機運転	

Microsoft Excel - アラーム.csv

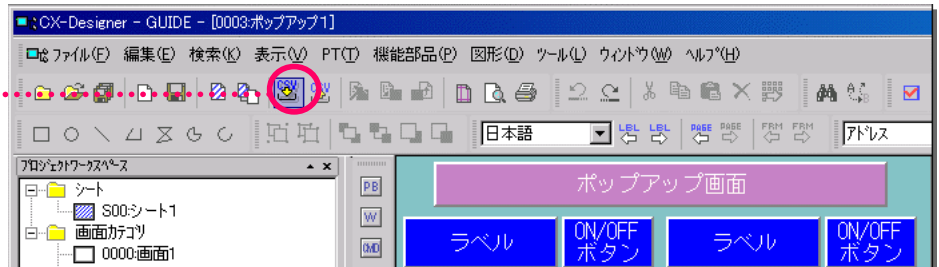
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N
1	通信アドレス	優先順位	表示種別	グループ番号	グループ名	自動画面切替	画面番号	自動削除	履歴保存	発生文字列	解除文字列	検知パターン	銘板0アラーム	銘板1アラーム
2	HOST1.000	1	lowalarm	0		FALSE	0	FALSE	TRUE	0	0	posedge	アラーム1	Alarm 1
3	HOST1.000	1	lowalarm	0		FALSE	0	FALSE	TRUE	0	0	posedge	アラーム2	Alarm 2
4	HOST1.000	1	lowalarm	0		FALSE	0	FALSE	TRUE	0	0	posedge	アラーム3	Alarm 3
5	HOST1.000	1	lowalarm	0		FALSE	0	FALSE	TRUE	0	0	posedge	アラーム4	Alarm 4
6	HOST1.000	1	lowalarm	0		FALSE	0	FALSE	TRUE	0	0	posedge	アラーム5	Alarm 5
7	HOST1.000	1	lowalarm	0		FALSE	0	FALSE	TRUE	0	0	posedge	アラーム6	Alarm 6
8	HOST1.000	1	highalarm	0		FALSE	0	FALSE	TRUE	0	0	posedge	アラーム7	Alarm 7
9	HOST1.000	1	highalarm	0		FALSE	0	FALSE	TRUE	0	0	posedge	アラーム8	Alarm 8
10	HOST1.000	1	highalarm	0		FALSE	0	FALSE	TRUE	0	0	posedge	アラーム9	Alarm 9
11	HOST1.000	1	highalarm	0		FALSE	0	FALSE	TRUE	0	0	posedge	アラーム10	Alarm 10
12	HOST1.000	1	highalarm	0		FALSE	0	FALSE	TRUE	0	0	posedge	アラーム11	Alarm 11
13	HOST1.000	1	highalarm	0		FALSE	0	FALSE	TRUE	0	0	posedge	アラーム12	Alarm 12
14	HOST1.000	1	event	0		FALSE	0	FALSE	TRUE	0	0	posedge	1号機運転 No.1 Start	
15	HOST1.000	1	event	0		FALSE	0	FALSE	TRUE	0	0	posedge	2号機運転 No.2 Start	
16	HOST1.000	1	event	0		FALSE	0	FALSE	TRUE	0	0	posedge	3号機運転 No.3 Start	
17	HOST1.000	1	event	0		FALSE	0	FALSE	TRUE	0	0	posedge	4号機運転 No.4 Start	
18	HOST1.000	1	event	0		FALSE	0	FALSE	TRUE	0	0	posedge	5号機運転 No.5 Start	

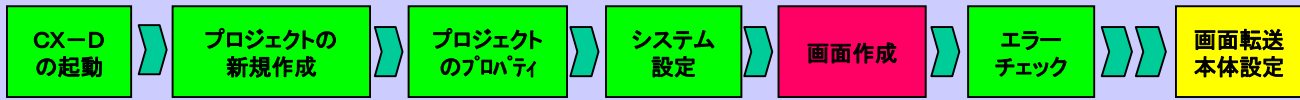
[lowalarm]、[highalarm]、
[event]の日本語に対する英
語を入力します。

編集が完了したらファイルを上書き保存します。

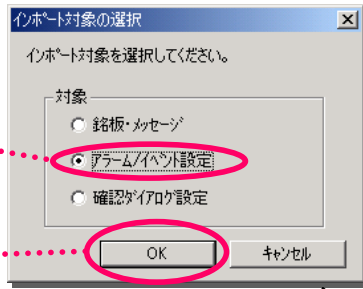


[CSVファイルからインポート]ボタ
ンをクリックします。



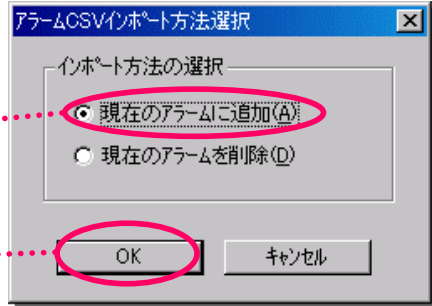


[対象]から[アラーム/イベント設定]をクリックします。



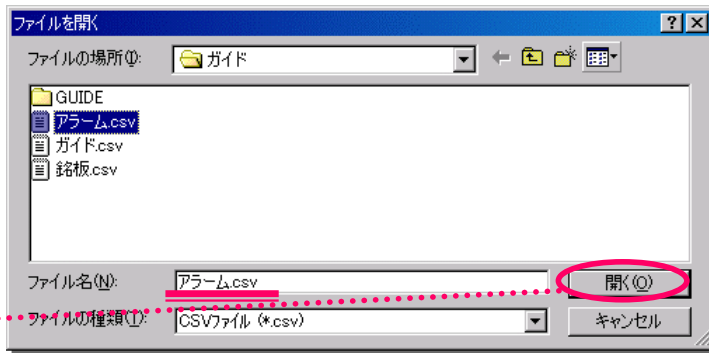
OKをクリックします。

[インポート方法の選択]から[現在のアラームに追加(A)]をクリックします。



OKをクリックします。

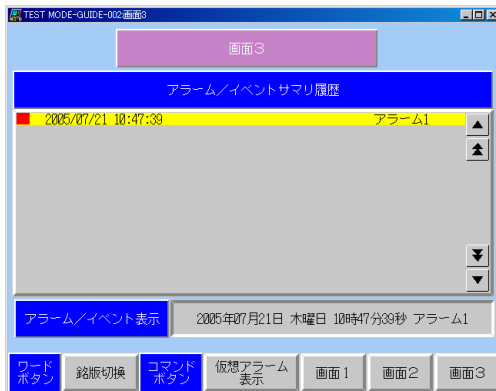
先ほど指定したファイル名を記入して[開く(O)]ボタンをクリックします。



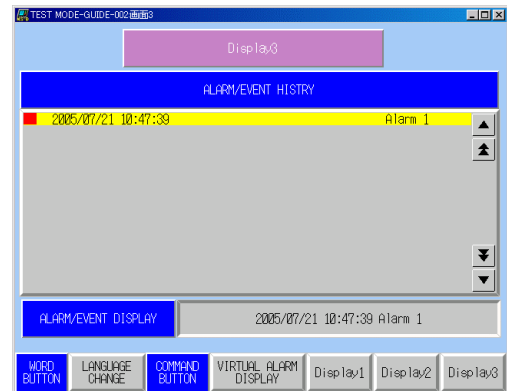
OKをクリックします。



日本語版



英語版



CX-D
の起動

プロジェクトの
新規作成

プロジェクト
のプロパティ

システム
設定

画面作成

エラー
チェック

画面転送
本体設定

23. 便利な機能

23-1. 検索(通信アドレス)

ここで行うこと

プロジェクトで使用している通信アドレスの検索を行うことができます。
本ガイドでは、PLCのCIOのOCHを検索します。



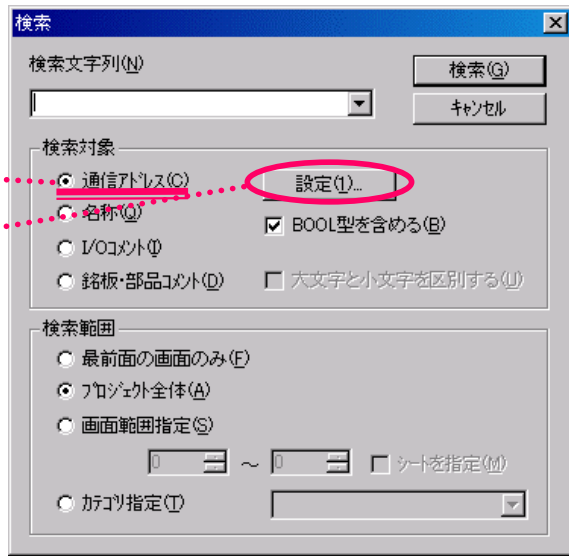
[検索]ボタンをクリックします。



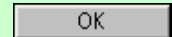
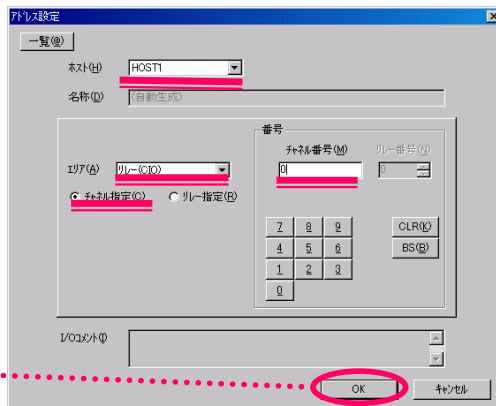
[検索対象]から[通信アドレス(C)]を選択します。



設定(1)をクリックします。



ホスト(H)
→[HOST1]
エリア(A)
→[リレー(CIO)]
「チャンネル指定(C)」
チャンネル番号(M)
→[0]



OKをクリックします。

CX-D
の起動

プロジェクトの
新規作成

プロジェクト
のプロパティ

システム
設定

画面作成

エラー
チェック

画面転送
本体設定

検索(G)

検索(G)をクリックし
ます。

検索

検索文字列(N) 検索(G)

H06T1.00000

キャンセル

検索対象

☒ 通信アドレス(Q) 設定(N)...

☐ 名称(Q) ☒ BOOL型を含める(B)

☐ I/Oコメント(Q)

☐ 銘板・部品コメント(Q) ☐ 大文字と小文字を区別する(Q)

検索範囲

☐ 最前面の画面のみ(F)

☒ プロジェクト全体(A)

☐ 画面範囲指定(S)

~ ☐ シートを指定(M)

☐ カテゴリ指定(T)



LGX-Designer - GUIDE - [0000画面1]

ファイル(F) 編集(E) 検索(Q) 表示(V) P/T(T) 機能部品(B) 図形(H) ツール(T) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)

日本語 英語 中国語 韓国語 日本語

100%

画面1

ラベル	ON/OFF ボタン	ビットランプ
電源1	ON	1号機停止中
電源2	OFF	1号機停止中
電源3	OFF	1号機停止中
電源4	OFF	1号機停止中
電源5	OFF	1号機停止中

ワード
ボタン

銘板切換

コマンド
ボタン

仮想アラーム
表示

画面1

画面2

画面3

検索結果が15件ヒットしました

ヘッダ	ID	カテゴリ	名称	アドレス	I/Oコメント	機能	属性コメント	詳細情報
PL001	H06T1	AutoGen0	00000.03					コメント: アドレス
PL001	H06T1	AutoGen0	00000.04					コメント: アドレス
PL001	H06T1	AutoGen0	00000.05					コメント: アドレス
PL001	H06T1	AutoGen0	00000.06					コメント: アドレス
PL001	H06T1	AutoGen0	00000.07					コメント: アドレス
PL001	H06T1	AutoGen0	00000.08					コメント: アドレス
PL001	H06T1	AutoGen0	00000.09					コメント: アドレス
PL001	H06T1	AutoGen0	00000.10					コメント: アドレス
PL001	H06T1	AutoGen0	00000.11					コメント: アドレス
PL001	H06T1	AutoGen0	00000.12					コメント: アドレス
PL001	H06T1	AutoGen0	00000.13					コメント: アドレス
PL001	H06T1	AutoGen0	00000.14					コメント: アドレス
PL001	H06T1	AutoGen0	00000.15					コメント: アドレス
PL001	H06T1	AutoGen0	00000.16					コメント: アドレス
PL001	H06T1	AutoGen0	00000.17					コメント: アドレス
PL001	H06T1	AutoGen0	00000.18					コメント: アドレス
PL001	H06T1	AutoGen0	00000.19					コメント: アドレス
PL001	H06T1	AutoGen0	00000.20					コメント: アドレス

検索結果: 通信アドレス 検索範囲: プロジェクト全体

検索結果が一覧で表示され
ます。

CX-D
の起動

プロジェクトの
新規作成

プロジェクト
のプロパティ

システム
設定

画面作成

エラー
チェック

画面転送
本体設定

23-2. 検索(銘板)

ここで行うこと

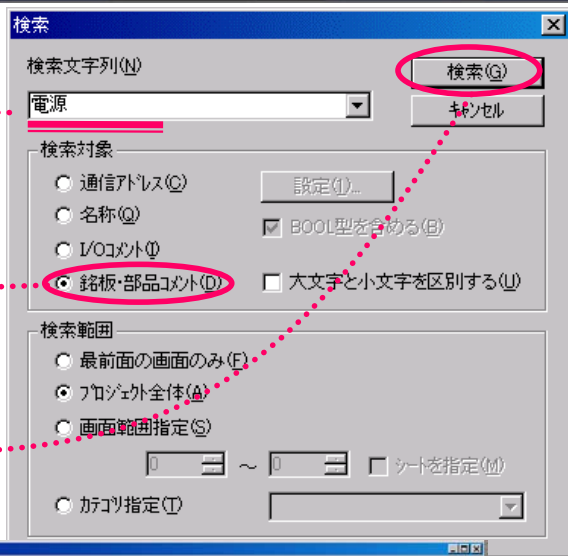
プロジェクトで使用している銘板・部品コメントの検索を行うことができます。
本ガイドでは、銘板の文字列「電源」を検索します。



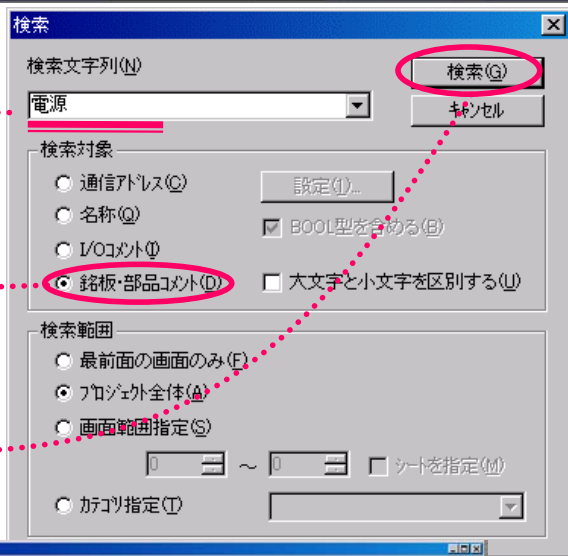
[検索]ボタンをクリックします。



[検索文字列(N)]に「電源」と入力します。

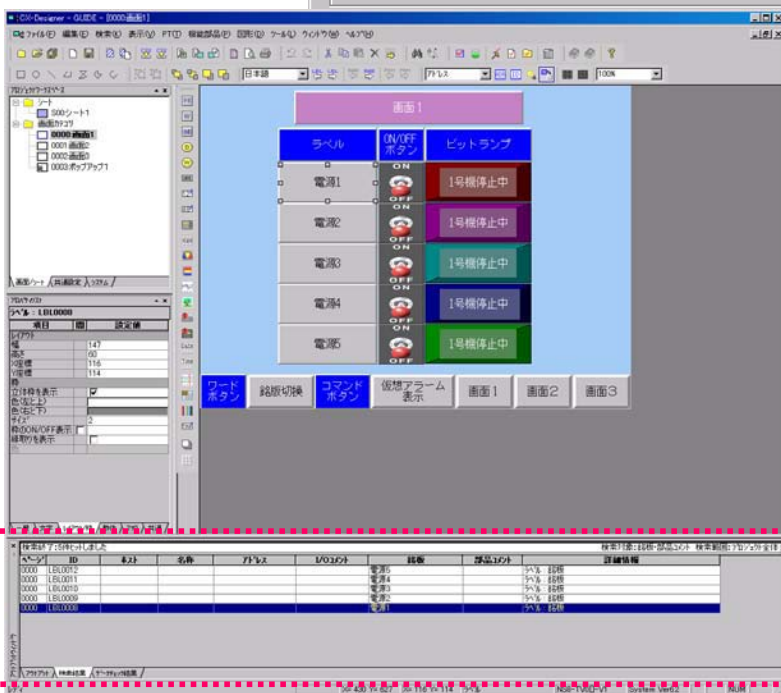


[検索対象]から[銘板・部品コメント(D)]を選択します。



検索(G)

検索(G)をクリックします。



検索結果が一覧で表示されます。

CX-D
の起動

プロジェクトの
新規作成

プロジェクト
のプロパティ

システム
設定

画面作成

エラー
チェック

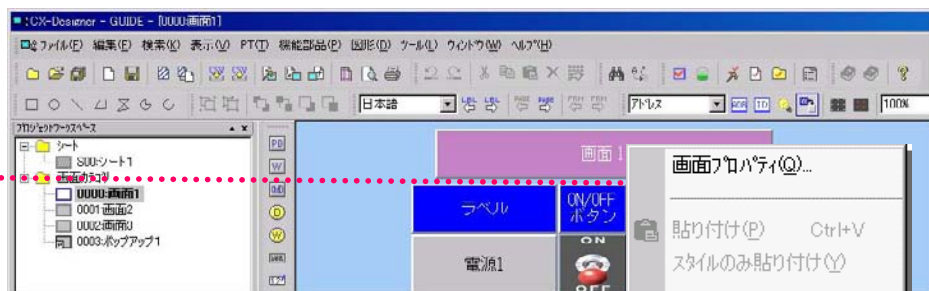
画面転送
本体設定

23-3. 部品選択機能

ここで行うこと

部品選択機能を使うと、多数の部品が画面上に存在する様な場合の検索性が良くなります。
本ガイドでは、ON/OFFボタンを選択します。

画面上でマウスを右クリック
してプルダウンメニューを表示
します。



[部品選択(S)]をクリックします。

部品選択

全種類 範囲選択 全解除

部	部品コメント	ID	X	Y
PB		PB0002	264	114
PB		PB0003	264	174
PB		PB0004	264	234
PB		PB0005	264	294
PB		PB0006	264	354
B		PL0014	334	114
B		PL0015	334	174
B		PL0016	334	234
B		PL0017	334	294
B		PL0018	334	354
LBL		LBL0000	140	8
LBL		LBL0001	264	63
LBL		LBL0007	116	63
LBL		LBL0008	116	114
LBL		LBL0009	116	174
LBL		LBL0010	116	234
LBL		LBL0011	116	294
LBL		LBL0012	116	354

[ON/OFFボタン]をクリックし
ます。

部品選択

全種類 範囲選択 全解除

部	部品コメント	ID	X	Y
ON/OFFボタン		PB0002	264	114
ON/OFFボタン		PB0003	264	174
PB		PB0004	264	234
PB		PB0005	264	294
PB		PB0006	264	354
B		PL0014	334	114
B		PL0015	334	174
B		PL0016	334	234
B		PL0017	334	294
B		PL0018	334	354
LBL		LBL0000	140	8
LBL		LBL0001	264	63
LBL		LBL0007	116	63
LBL		LBL0008	116	114
LBL		LBL0009	116	174
LBL		LBL0010	116	234
LBL		LBL0011	116	294
LBL		LBL0012	116	354

部品選択

ON/OFFボタン 範囲選択 全解除

部	部品コメント	ID	X	Y
PB		PB0002	264	114
PB		PB0003	264	174
PB		PB0004	264	234
PB		PB0005	264	294
PB		PB0006	264	354

[ON/OFFボタン]が表示されます。



CX-D
の起動

プロジェクトの
新規作成

プロジェクト
のプロパティ

システム
設定

画面作成

エラー
チェック

画面転送
本体設定

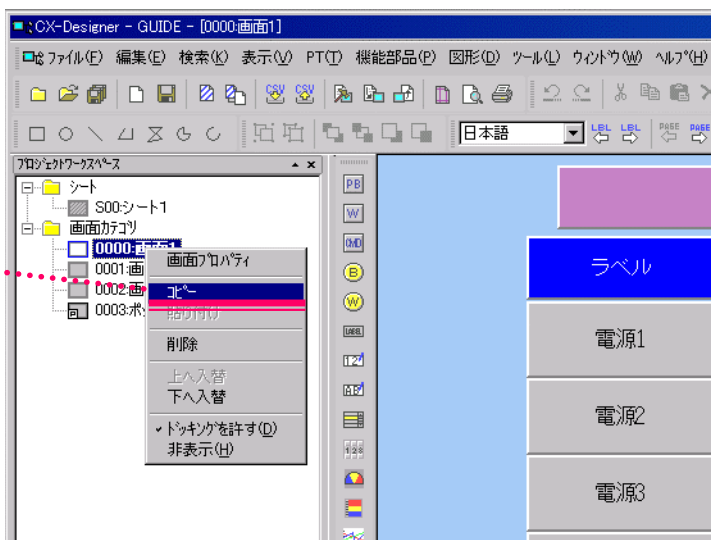
23-4. 画面流用(複製)機能

ここで行うこと

画面流用は、既に作成した画面を、他のプロジェクトにコピーする機能です。
共通的に使用する画面を他のプロジェクトに流用する際の手間を減らすことができます。
本ガイドでは、サンプルプロジェクト(GUIDE)で作成した画面1を、他のプロジェクト(GUIDE2)に
流用する例を記載しています。

プロジェクトワークスペースから
[0000: 画面1]を右クリック
してプルダウンメニューを
表示します。

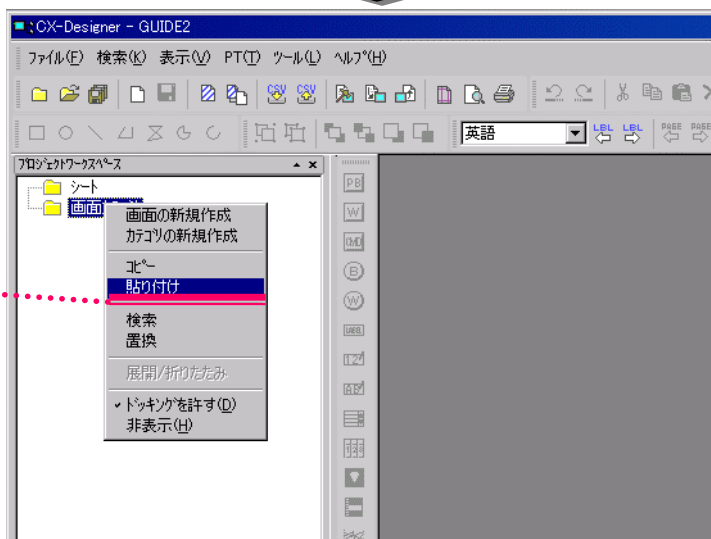
[コピー]をクリックします。



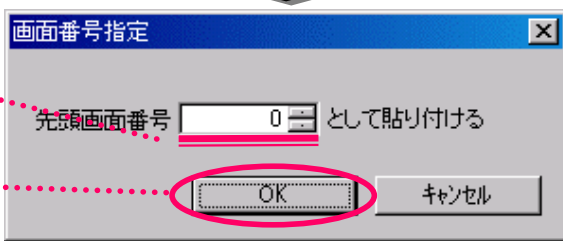
新しくCX-Designerを起動し、
「3. プロジェクトの新規作成」
を参考に、GUIDE2プロジェ
クトを作成します。
このとき、GUIDE2プロジェ
クトを編集していたCX-Designer
は終了させないで下さい。

プロジェクトワークスペースから[画
面]を右クリックしてプルダ
ウンメニューを表示します。

[貼り付け]をクリックします。

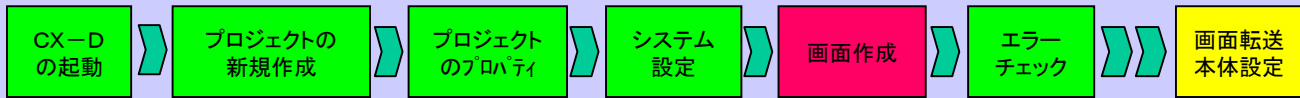


[先頭画面番号]を設定しま
す。(ここでは「0」とします。)



OK

OKをクリックします。



OK

OKをクリックします。

ホスト選択

流用元	流用先
HOST1	HOST1

ホストタイプが一致しないアドレスは、\$B0/\$W0に変換します。

OK キャンセル



進捗ダイアログが表示されます。

流用 データ追加中

カテゴリ

[Progress bar]



[0000:画面1]が追加されます。

OK Designer - GUIDL2 - [0000:画面1]

ファイル(F) 編集(E) 検索(S) 表示(V) PT 機能部品(P) 図形(O) ツール(T) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)

700メニュー→サブメニュー

- シート
- 画面1
- [0000:画面1]**

画面1

ラベル	ON/OFF ボタン	ビットランプ
電源1	ON	1号機停止中
電源2	OFF ON	1号機停止中
電源3	OFF ON	1号機停止中
電源4	OFF ON	1号機停止中
電源5	OFF	1号機停止中

CX-D
の起動

プロジェクトの
新規作成

プロジェクト
のプロパティ

システム
設定

画面作成

エラー
チェック

画面転送
本体設定

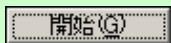
24. テスト機能

ここで行うこと

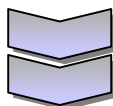
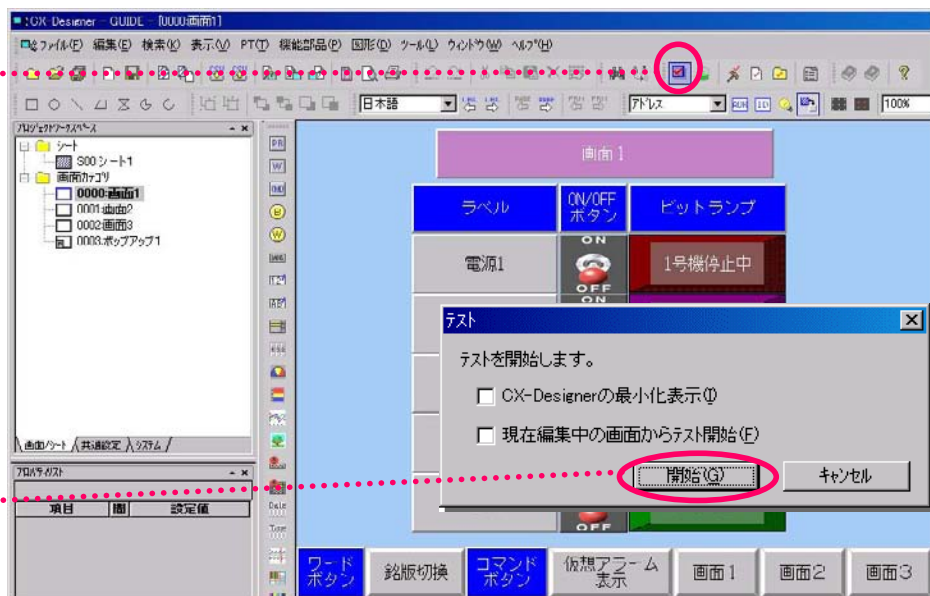
作成した画面を転送する前に、CX-D上で動作をチェックすることができます。



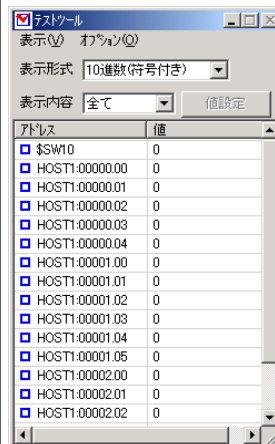
[テスト]ボタンをクリックします。



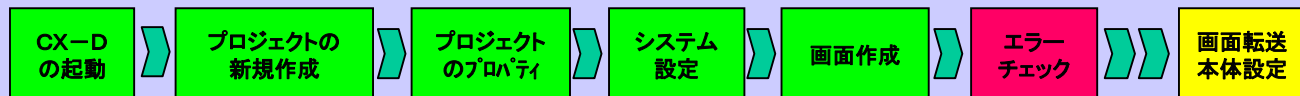
開始(G)をクリックします。



先頭画面「000: 画面1」と
テストツールダイアログが
表示されます。



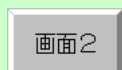
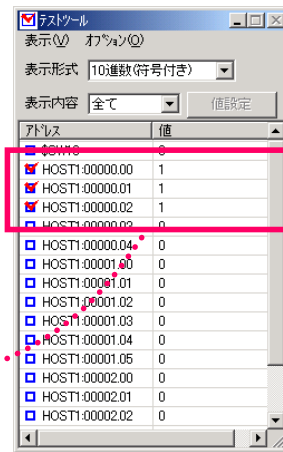
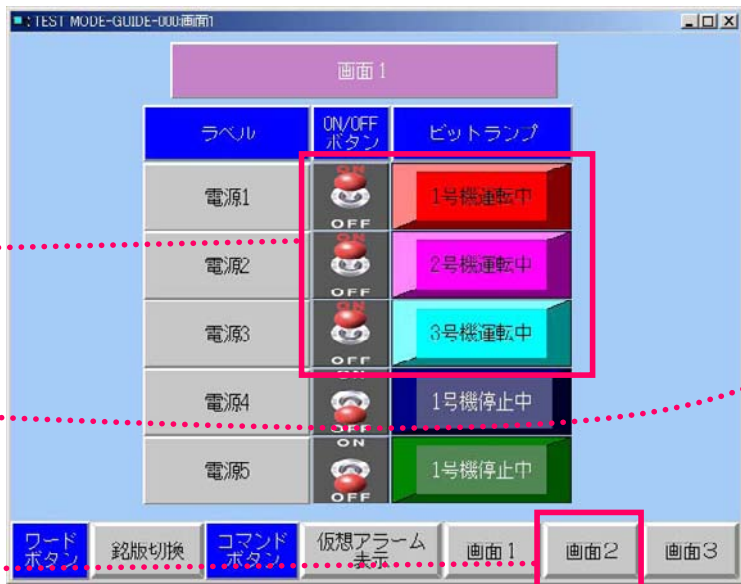
テストツールダイアログで
値を直接変更することが
できます。



[電源のON/OFFボタン、ビットランプの動作を確認します。]

電源1～3のON/OFFボタンをONすると、電源1～3のビットランプが点灯します。

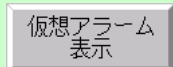
また、テストツールダイアログでは、電源1～3のアドレスがONしていることが確認できます。



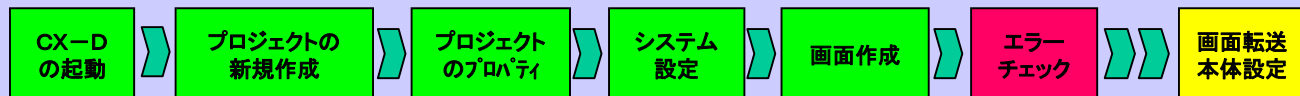
画面2をクリックします。



[アラームのON/OFFボタン、ビットランプの動作を確認します。]



仮想アラーム表示をクリックします。



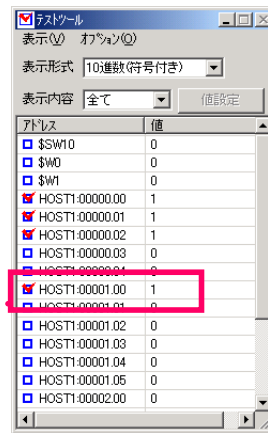
ポップアップ画面が表示されます。

アラーム1のON/OFFボタンをONします。



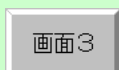
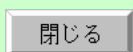
アラーム1のON/OFFボタンをONすると、アラーム1ビートランプが点灯します。

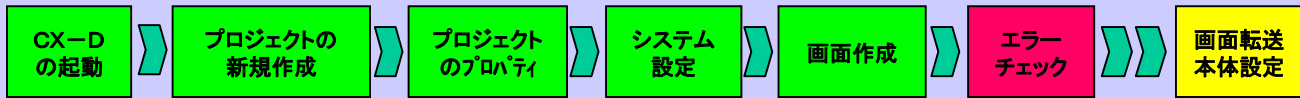
また、テストツールダイアログでは、アラーム1のアドレスがONしていることが確認できます。



閉じるをクリックします。

画面3をクリックします。





[アラーム／イベントの動作を確認します。]

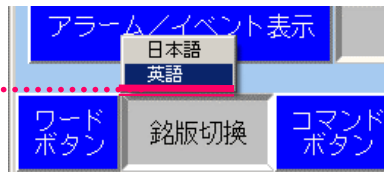


前頁で発生させた「アラーム1」を確認することができます。

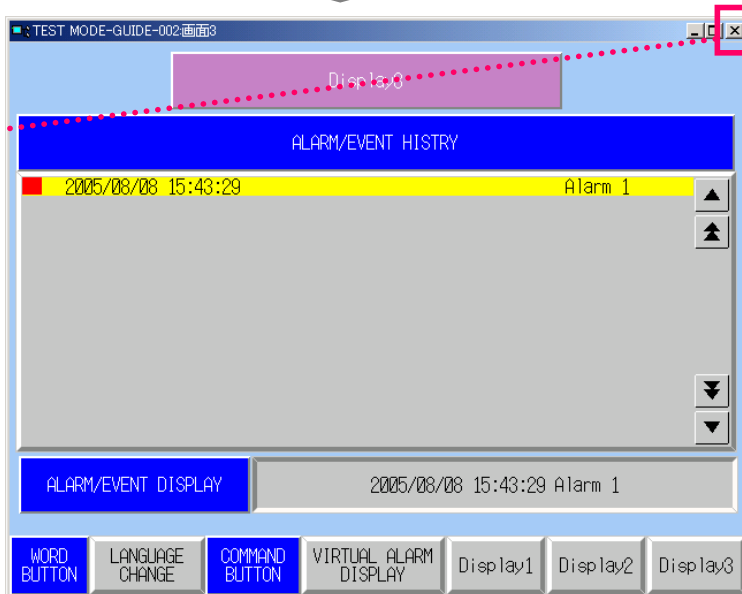
銘版切換

銘版切換をクリックします。

[銘版切換の動作を確認します。]



メニューの[英語]をクリックします。



[×]ボタンをクリックするとテスト機能は終了します。

第3章 プロジェクトの転送

CX-D
の起動

プロジェクトの
新規作成

プロジェクト
のプロパティ

システム
設定

画面作成

エラー
チェック

画面転送
本体設定

プロジェクトの転送

ここでやること

CX-Designerで作成したプロジェクトをNS本体に転送します。
NS本体にプロジェクトの転送を行う方法は、シリアル(RS-232C)、モデム、イーサネット、コントローラリンク、USB、メモ리카ードの6つの方法があります。
本ガイドでは、シリアル・メモ리카ードでのプロジェクトの転送を説明します。

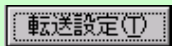
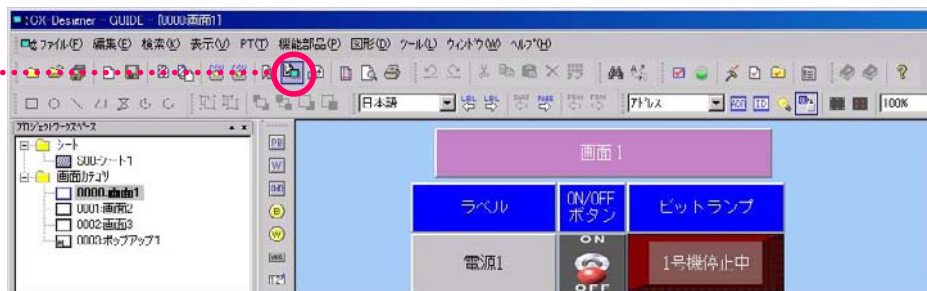
1. シリアル(RS-232C)でのプロジェクトの転送

準備

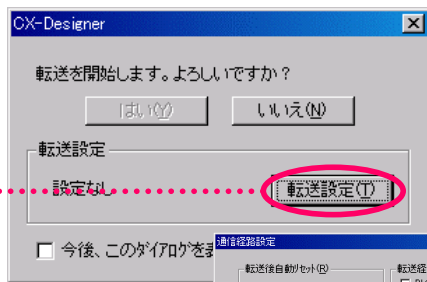
NS本体とパソコンを、通信ケーブル(形XW2Z-S002)で接続します。



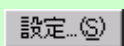
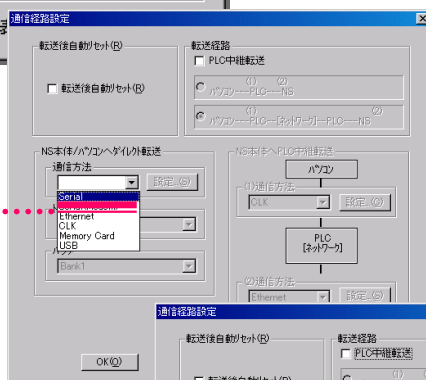
をクリック。



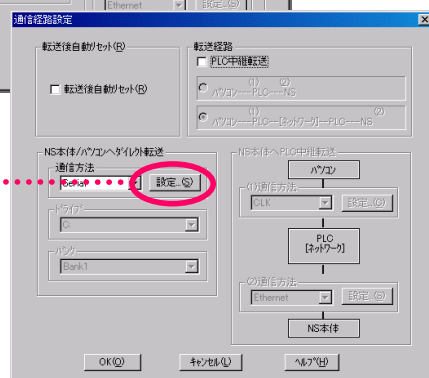
転送設定(T)をクリックします。



[通信方法]を「Serial」
に設定します。



設定(S)をクリックします。



CX-D
の起動

プロジェクトの
新規作成

プロジェクト
のプロパティ

システム
設定

画面作成

エラー
チェック

画面転送
本体設定

通信で使用する[ポート名]
を選択します。
ここでは、「COM1」を選
択しています。
お使いの環境に合わせ
てNS本体との接続に使
用したCOMポートを選択
して下さい。

OK

OKをクリックします。

Serial Setting

ポート名: COM1

通信速度: 115200

通信自動認識: なし

レスポンス監視時間 (1-600): 2

OK キャンセル



Communication Path Setting

転送後自動リセット (R): ☐ 転送後自動リセット (R)

転送経路: ☐ PLC中継転送

NS本体/パソコンへダイレクト転送: 通信方法: Serial, ドライバ: C, パック: Bank1

NS本体へPLC中継転送: (1) 通信方法: CLK, (2) 通信方法: Ethernet

OK キャンセル ヘルプ

OK(O)

OK(O)をクリックします。



CX-Designer

転送を開始します。よろしいですか?

はい(Y) いいえ(N)

転送設定: Serial, 転送設定(T)

☐ 今後、このダイアログを表示しない。(S)

はい(Y)

はい(Y)をクリックします。

CX-D
の起動

プロジェクトの
新規作成

プロジェクト
のプロパティ

システム
設定

画面作成

エラー
チェック

画面転送
本体設定

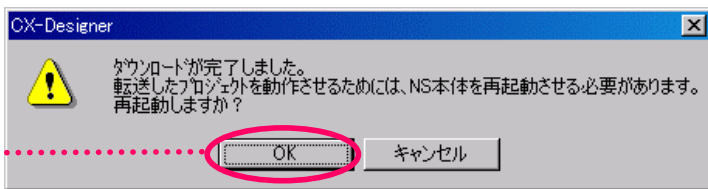
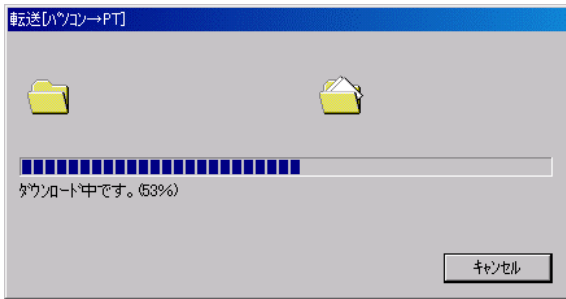
NS本体が転送準備中の
画面に切り変わります。

転送準備中

転送を開始してください

転送の進捗ダイアログが
表示されます。

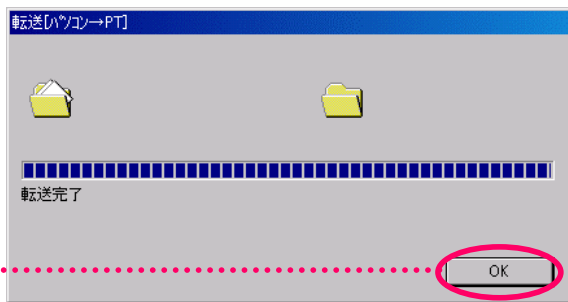
NS本体側も進捗バーが
表示されます。



OK

OKをクリックします。

NS本体が再起動します。



OK

OKをクリックします。

CX-D
の起動

プロジェクトの
新規作成

プロジェクト
のプロパティ

システム
設定

画面作成

エラー
チェック

画面転送
本体設定

2. メモリカードを使用したプロジェクトの転送

準備

パソコンにメモリカードを装着します。



をクリック。

通信経路設定ダイアログ
の[NS本体/パソコンヘタ
イレット転送]を変更します。

[通信方法]

→「Memory Card」

[ドライブ]

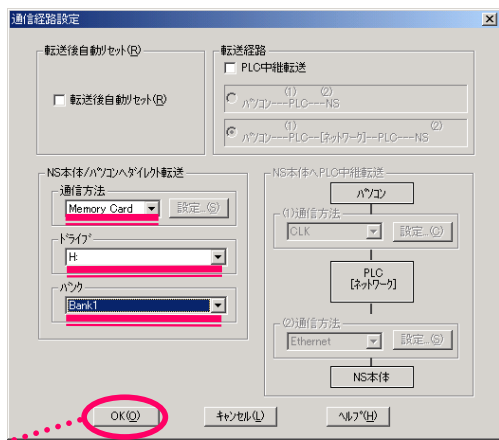
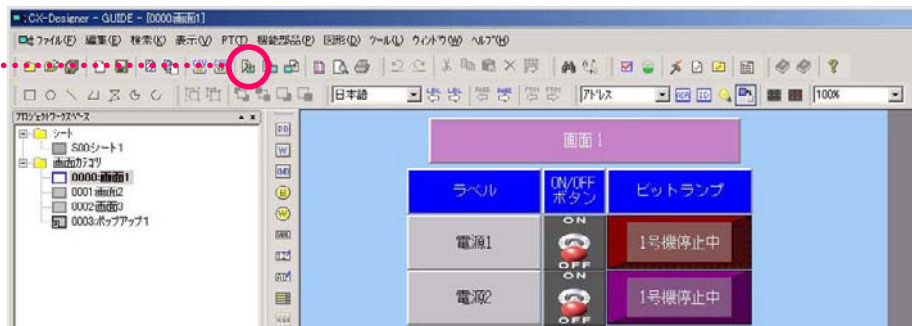
→「H:」

※メモリカードが装着さ
れているドライブを
選択します。

[バンク]

→「Bank1」

※メモリーカードには4
つのバンクが用意さ
れており、1つのバン
クに1つのプロジェクト
をダウンロードする
ことができます。
ここで、画面データを
転送するバンクを指
定します。

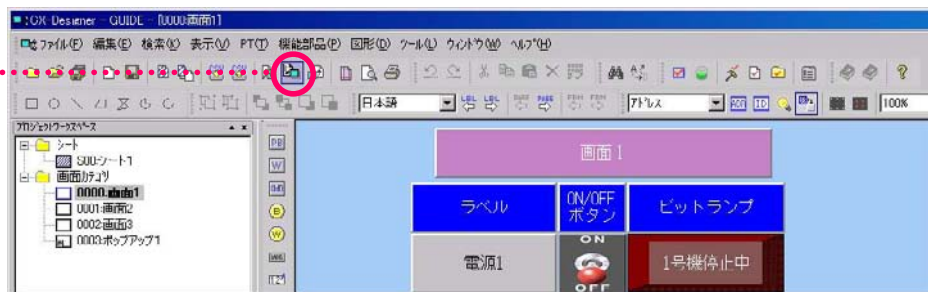


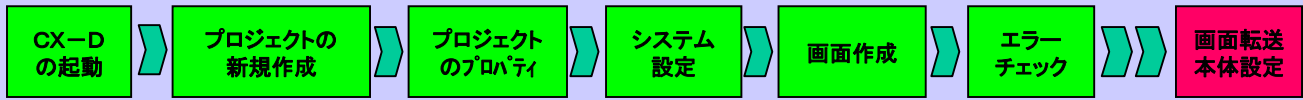
OK(O)

OK(O)をクリックします。



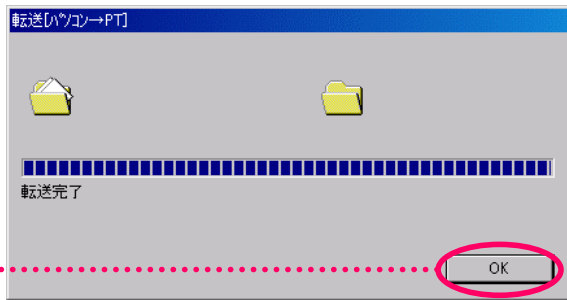
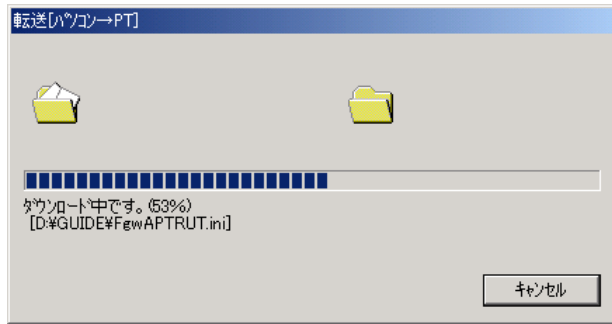
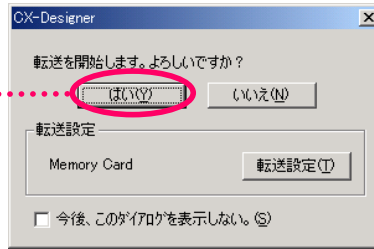
をクリック。





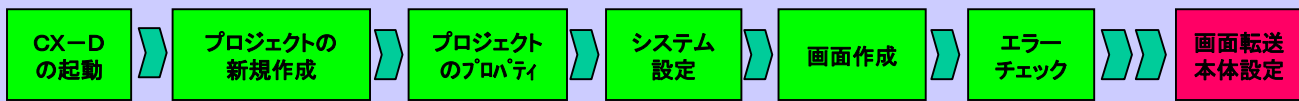
はい(Y)

はい(Y)をクリックします。



OK

OKをクリックします。

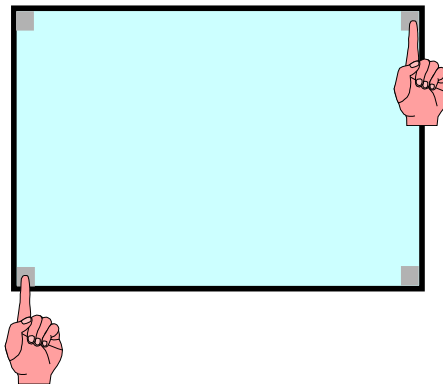


—メモ리카ードからNSへの転送—

準備

メモ리카ードスロットにメモ리카ードを装着します。

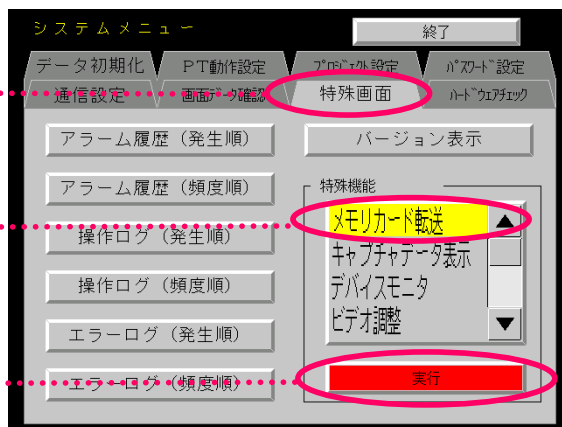
NS本体のタッチパネルの4隅のうち2個を同時に押し、システムメニューを表示します



「特殊画面」タブをクリックします。

「メモ리카ード転送」をクリックします。

「実行」をクリックします。



CX-D
の起動

プロジェクトの
新規作成

プロジェクト
のプロパティ

システム
設定

画面作成

エラー
チェック

画面転送
本体設定

「日本語
Japanese」を
クリックします。

終了
Exit

Memory Card Transfer

メモ리카ードを挿入して表示言語を
選択してください

Insert your Memory Card and
select Language

日本語
Japanese

英語
English

「ダウンロード
メモ리카ード→NS本体」を
クリックします。

「プロジェクト全体」を
クリックします。

「バンク1」を
クリックします。

「転送実行」を
クリックします。

終了

メモ리카ード転送

転送方向

ダウンロード
メモ리카ード→NS本体

アップロード
NS本体→メモ리카ード

転送内容

プロジェクト全体

プロジェクト全体&
システムプログラム

システムプログラム

プロジェクト名

メモ리카ード GUIDE, IPP

NS本体 GUIDE, IPP

システム名

メモ리카ード 6.20_

NS本体 6.20_

バンク指定

バンク1

バンク2

バンク3

バンク4

転送実行

ダウンロード/アップロードを実行します。
よろしいですか？

「はい
[転送開始]」を
クリックします。

はい
[転送開始]

キャンセル
[戻る]

CX-D
の起動

プロジェクトの
新規作成

プロジェクト
のプロパティ

システム
設定

画面作成

エラー
チェック

画面転送
本体設定

ダウンロード実行中

メモリカード→NS本体

転送中ファイル名: PNLPG0000.IPW



転送完了

メモリカード→NS本体

メモリカードを抜くことができます。
メモリカードを抜き、リセットボタン
を押してNS本体をリセットしてくだ
さい。

リセット

「リセット」を
クリックして、NS本
体を再起動します。

本誌には主に機種のご選定に必要な内容を掲載し、ご使用上の注意事項等は掲載しておりません。
ご使用上の注意事項等、ご使用の際に必要な内容につきましては、必ずユーザーズマニュアルをお読みください。

- 本誌に記載の標準価格はあくまで参考であり、確定されたユーザ購入価格を表示したものではありません。本誌に記載の標準価格には消費税が含まれておりません。
- 本誌に記載されているアプリケーション事例は参考用ですので、ご採用に際しては機器・装置の機能や安全性をご確認の上、ご使用ください。
- 本誌に記載のない条件や環境での使用、および原子力制御・鉄道・航空・車両・燃焼装置・医療機器・娯楽機械・安全機器、その他人命や財産に大きな影響が予測されるなど、特に安全性が要求される用途への使用をご検討の場合は、定格・性能に対し余裕を持った使い方やフェールセーフ等の安全対策へのご配慮をいただくとともに、当社営業担当者までご相談いただき仕様書等による確認をお願いします。
- 本製品の内、外国為替及び外国貿易法に定める輸出許可、承認対象貨物(又は技術)に該当するものを輸出(又は非居住者に提供)する場合は同法に基づく輸出許可、承認(又は役務取引許可)が必要です。

オムロン株式会社 インダストリアルオートメーションビジネスカンパニー

- 製品に関するお問い合わせ先
お客様相談室

クイック オムロン
 **0120-919-066**

携帯電話・PHS・IP電話などではご利用いただけませんので、下記の電話番号へおかけください。

電話 **055-982-5015** (通話料がかかります)

■営業時間：8:00～21:00 ■営業日：365日

- FAXやWebページでもお問い合わせいただけます。

FAX **055-982-5051** / www.fa.omron.co.jp

- その他のお問い合わせ

納期・価格・サンプル・仕様書は貴社のお取引先、または貴社担当オムロン販売員にご相談ください。
オムロン制御機器販売店やオムロン販売拠点は、Webページでご案内しています。

オムロン制御機器の最新情報をご覧ください。

www.fa.omron.co.jp

緊急時のご購入にもご利用ください。

オムロン商品のご用命は